

千葉大学

大学院看護学研究院 年報 2022

[2022. 4~2023. 3]

Annual Report 2022
Graduate School of Nursing / School of Nursing
Chiba University



CHIBA
UNIVERSITY



目次

I. 組織	1
1. 教員組織と構成員（2022年4月1日～2023年3月31日までの在職者）.....	1
2. 学部生数および大学院生数.....	2
1) 学部生数.....	2
2) 大学院生数.....	2
II. 教育	3
1. カリキュラム.....	3
1) 看護学部看護学科.....	3
2) 大学院看護学研究科.....	6
2. 令和4年度教育の取り組み.....	11
1) 看護学部令和4年度DX推進プロジェクトの取り組み.....	11
2) 大学院看護学研究科.....	13
3) 事業名称 グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成.....	17
(Global & Regional Interprofessional Education Plus Program : GRIP)	17
3. 研究科学位論文一覧.....	18
III. 研究	22
1. 教員の研究業績（講座別）.....	22
2. 科研費・競争的資金取得一覧.....	63
1) 文科科研・厚労科研.....	63
2) その他研究助成金.....	66
3. 共同研究.....	68
1) 国際共同研究.....	68
2) 民間共同研究.....	68
IV. 社会貢献活動	70
1. 学協会等への貢献.....	70
2. 国及び地方公共団体等への貢献.....	70
1) 国の機関等.....	70
2) 地方公共団体等の機関等.....	70
3. メディア・報道等を通じた貢献.....	71
V. 国際交流	72
1. 海外への渡航者数.....	72
2. 海外からの来訪者数.....	72
3. 海外の大学との協定.....	72
1) 大学間協定.....	72
2) 部局間協定.....	73

I. 組織

1. 教員組織と構成員（2022年4月1日～2023年3月31日までの在職者）

研究部門	講座	教授	准教授	講師	助教・助手	特任/技術	
先端実践看護学	高度実践看護学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子	
		中村 伸枝	佐藤 奈保		仲井 あや 中水流 彩		
		眞嶋 朋子			楠 潤子	(特任研究員) 國武由香里	
		増島麻里子			佐野 元洋	(特任講師) 田崎 牧子	
		酒井 郁子			佐伯 昌俊	(特任専門職員) 佐藤 睦 (特命助教) 西宮 岳	
	高齢社会実践看護学	正木 治恵	石橋みゆき		佐々木ちひろ	(特任助教) 石井 彩	
						(特任助教) 楊 恵晴	
			黒田久美子			(特任助教) 山崎由利亜	
	生活創成看護学	健康増進看護学	小宮山政敏		雨宮 歩		(特任助教) 田原裕希恵
			森 恵美	前原 邦江		木村佳代子	(特任准教授) 岩田 裕子
					遠山 房絵	(特任助教) 棧 あさな	
北池 正 池崎 澄江							
地域創成看護学		田上美千佳 宮崎美砂子			鈴木 美央		
		石丸 美奈		岩瀬 靖子	鈴木 悟子	(特任研究員) 佐藤 太一	
					坂井 文乃	(特任研究員) 井口 紗織	
		諏訪さゆり	飯田貴映子		湯本 晶代	(特任助教) 犬山 彩乃	
						(特任研究員) 川上 奈々	
						(特任研究員) 芥田 ゆみ	
文化創成看護学	文化看護学		齊藤しのぶ		飛世真理子 宇田川友佳 齊藤 可紗		
					ニヤマザオ アモス ティナシ		
			井出 成美		カズノブ ダビッド	(特任講師) 臼井いづみ	
						(特任講師) 孫 佳茹	
	専門職育成学	中山登志子			(助手) 植田満美子		
				野崎 章子		(特任准教授) 天井 響子	
		和住 淑子	錢 淑君	高木 夏恵		(特任教授) 島田 陽子	
						(特任助教) 吉田 靖代	
						(特任助教) 佐藤 太一	
	看護政策・管理学					(特任助教) 田代 理沙	
						(特任助教) 石坂 晴奈	
			杉田由加里	飯野 理恵			
		手島 恵					
附属看護 実践・教育・ 研究共創センター	センター長 (和住 淑子)						
附属専門職連携 教育研究センター	センター長 (酒井 郁子)	(井出 成美)	(特任講師) (臼井いづみ) (特任講師) (孫 佳茹)				
計	17	9	6	18	24		

2. 学部生数および大学院生数

(2022年4月現在)

1) 学部生数

学 部 (入学定員)		在校生 (留学生再掲)	卒業生累計 (2021年度迄)
看護学部看護学科 総数 (80名+若干名)		329 (3)	3652
在 校 生 内 訳	1年	85	
	2年	85	
	3年	78 (3)	
	4年	81	

2) 大学院生数

カリキュラム	専 攻	課 程 (入学定員)	在校生 (留学生再掲)	修了生累計 (2021年度迄)
大学院生 総数			161 (13)	1290
旧カリキュラム	看護学	博士前期課程 (25名)	2 (0)	872
		国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0	(内数) 5
		博士後期課程 (12名)	38 (2)	237
		国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	3 (3)	(内数) 2
	看護システム 管理学	修士課程 (12名)	11 (0)	172
	共同災害 看護学	5年一貫制博士課程 (2名)	7 (0)	2
新カリキュラム	看護学	博士前期課程 (40名)	68 (6)	0
		国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0 (0)	0
		博士後期課程 (15名)	32 (2)	0
		国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	0 (0)	0

II. 教育

1. カリキュラム

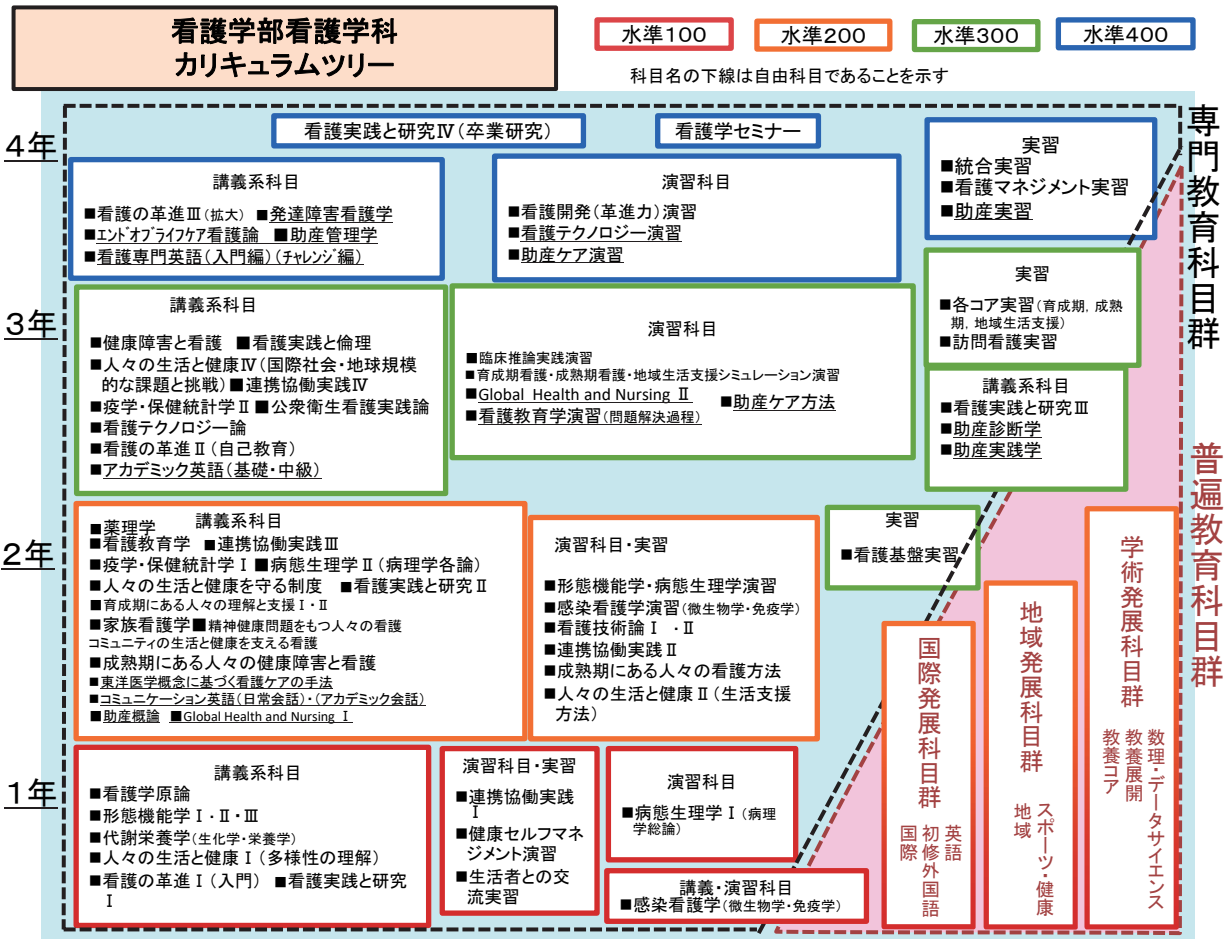
1) 看護学部看護学科

(1) 看護学科の教育課程の構成と特徴

本学科の4年間の教育課程は、看護学の基礎を教授するという観点から、次のように授業科目を体系的に整えている。すなわち、看護学の専門分野を紹介・導入し、博士課程への準備を整えるための専門科目とこれらの基礎となる専門基礎科目から構成される「専門教育科目」をおく。更に、看護専門職に不可欠な、深い人間理解につながる能力、広い視野を持つ判断能力、科学的問題解決能力ならびにこれらの学習を支える基礎学力の育成のために「普遍教育科目」をおく。

卒業時には、「学士（看護学）」の学位が授与され、保健師、看護師の国家試験受験資格が、また一部所定の科目を履修した場合、助産師の国家試験受験資格が与えられる。

なお、本学科は、社会人選抜入学生、私費外国人留学生、科目等履修生などを受け入れている。このように様々な経験を有する者とともに学習する機会を多くしている。



(2) 臨地実習協力施設一覧

<病院>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県こども病院
- ・千葉県精神科医療センター
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- ・千葉メディカルセンター
- ・千葉中央メディカルセンター
- ・船橋中央病院
- ・船橋市立医療センター
- ・山王病院
- ・東京かつしか赤十字母子医療センター
- ・木村病院
- ・千葉市立海浜病院
- ・千葉県がんセンター

<高齢者施設>

- ・JCHO 千葉病院附属介護老人保健施設
- ・介護老人保健施設おゆみの

<助産所>

- ・おおた助産院
- ・NPO 法人お産子育て向上委員会 若草助産院

<診療所>

- ・有秋台医院
- ・東京はくと医療生活協同組合【浮間診療所】
- ・ファミリー産院ちば
- ・医療法人 愛和会 愛和病院
- ・医療法人 成和会 山口病院
- ・柏の葉診療所

<市町村>

- ・市原市保健センター
- ・白井市健康福祉部健康推進課
- ・鎌ケ谷市
- ・横芝光町健康こども課
- ・千葉市中央保健福祉センター
- ・千葉市花見川保健福祉センター
- ・千葉市緑保健福祉センター
- ・千葉市美浜保健福祉センター
- ・千葉市若葉保健福祉センター
- ・千葉市稲毛保健福祉センター

<県>

- ・安房健康福祉センター
- ・君津健康福祉センター
- ・印旛健康福祉センター
- ・夷隅健康福祉センター
- ・習志野健康福祉センター

<訪問看護ステーション>

- ・なごみの陽訪問看護ステーション
- ・緑が丘訪問看護ステーション
- ・花見川訪問看護ステーション
- ・みやのぎ訪問看護ステーション
- ・土気訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションかがやき
- ・訪問看護ステーションゆうこう
- ・白十字訪問看護ステーション
- ・いちかわ訪問看護ステーション
- ・てんだい訪問看護ステーション
- ・ふたわ訪問看護ステーション
- ・さわやか訪問看護ステーション
- ・みなみはま訪問看護ステーション
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーション稲毛
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーションさくら
- ・看護協会ちば訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションあすか
- ・まくはり訪問看護ステーション
- ・訪問看護サボテン
- ・訪問看護ステーションコスモス
- ・かしわど訪問看護ステーション
- ・匝瑳市訪問看護ステーションつばきの里

<地域包括支援センター>

- ・医療法人社団 慶勝会 館山市地域包括支援センター いちご

<小中学校>

- ・千葉市立畑小学校
- ・千葉市立高洲小学校
- ・千葉市立幕張東小学校
- ・千葉市立草野小学校
- ・千葉市立轟町中学校
- ・千葉市立稲丘小学校
- ・千葉市立稲毛第二小学校
- ・千葉市立本町小学校
- ・千葉市立小中台小学校
- ・千葉市立検見川小学校
- ・千葉市立稲浜中学校
- ・千葉市立小倉小学校
- ・千葉市立大森小学校
- ・千葉市立幕張本郷中学校
- ・千葉市立鶴沢小学校

<保育園>

- ・たいよう保育園
- ・みつわ台保育園
- ・旭ヶ丘保育園
- ・若竹保育園
- ・今井保育園
- ・作草部保育園
- ・稲毛保育園
- ・幕張海浜こども園
- ・千葉寺保育園

<その他>

- ・NPO 法人けやきと仲間
- ・NPO 法人山友会
- ・あやめ台住宅管理組合
- ・生活クラブ風の村 スペースぴあ茂原
- ・森永エンゼル 110 番
- ・千葉市子育て支援館
- ・モーハウス
- ・公益財団法人 ちば県民保健予防財団

(敬称略、順不同)

2) 大学院看護学研究科

本研究科のミッションは、看護学の新領域の研究及び先進的教育プログラムの開発により、我が国の看護学の発展をグローバルに牽引する人材を育成すること、看護系大学の教育を担う教育研究者養成の日本における最大規模の拠点としての役割を果たすことである。このミッションを確実に果たすためにカリキュラムを全面的に見直し、2021年度より教員組織体制を改革すると同時に、博士前期・後期課程の新カリキュラムを稼働した。

(1) 看護学専攻：博士前期課程・国際プログラム

① 教育目的および特徴

博士前期課程は、2年間の教育課程であり、教育・研究者の育成を主眼とした「看護学コース」、および、卓越した能力を備えた高度実践者・看護管理者を育成する「看護実践学コース」に大別され、さらに「看護実践学コース」には『看護管理学プログラム』『高度実践看護学プログラム』『特定看護学プログラム』が含まれる。

「看護学コース」においては、社会の要請にこたえる新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者を育成することを旨とする。

「看護実践学コース」においては、課題やニーズの分析及び看護理論やモデルの実践的検証に必要な研究力、看護実践の質向上や組織変革に必要となるリーダーシップを発揮する能力を備えた高度実践者・看護管理者を育成することを旨とし、以下3つのプログラムごとに特徴を記す。『看護管理学プログラム』では、組織変革のためのリーダーシップが発揮できる人材を育成する。修了者は認定看護管理者の受験資格を得ることができる。『高度実践看護学プログラム』では、科学的根拠に基づくケア改善のリーダーシップが発揮できる人材、研究能力のある専門看護師を育成する。本プログラムはがん看護専門看護師ならびに小児看護専門看護師の教育課程として、日本看護系大学協議会から認定を受けている。『特定看護学プログラム』では、根拠に基づいた特定行為を含むケア提供のためのクリニカルリーダーシップが発揮できる人材を育成する。本プログラムは、2021年度に新設され、厚生労働省が定める特定行為研修と連動している。

2021年度からの新カリキュラムでは、共通基盤科目として、研究方法や研究倫理等に関わる科目を含む「研究学術モジュール」、看護学革新力の基礎や看護管理学等に関わる科目を含む「実装モジュール」、臨床推論や臨床病態学、地域包括ケア論等を含む「実践モジュール」の3つの科目群を設置し、大学院生は各プログラムの特性に応じて指定された必須・選択科目を履修し、その後の専門関連科目や研究科目を学修する。特に、共通基盤科目においては、看護学コース等、他コースや他プログラムの大学院生も履修することから、背景の異なる大学院生が共に会し、意見交換をすることによる学修を促すことも意図している。

国際プログラムは「看護学コース」のみであり、英語による独立したカリキュラムである。

〔看護学コース〕 修了要件：30単位以上

<p>研究：12単位 必修</p> <p>看護実践に必要な諸理論、知識、方法を修得し、問題を解決する能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●理論開発特別研究 (12) 	<p>演習：6単位 必修</p> <p>専門分野の深い学識を、問題解決に活用するための実践的考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護研究演習 (6) 	<p>専門科目：主専攻の2単位 選択必修</p> <p>社会や人々を多層な視座からとらえ、自己の専門分野における研究開発の必要性を検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先端実践看護学Ⅰ (1) ●先端実践看護学Ⅱ (1) ●文化創成看護学Ⅰ (1) ●文化創成看護学Ⅱ (1) ●生活創成看護学Ⅰ (1) ●生活創成看護学Ⅱ (1) 	
<p>共通基盤科目：研究学術モジュール5単位、実装モジュール1単位、実践モジュール4単位を含む10単位以上</p>			
<p>研究学術モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護学研究Ⅰ (必修1) ●看護学研究Ⅱ (必修1) ●看護学研究Ⅲ (必修1) ●看護学研究Ⅳ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅠ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅡ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅢ (1) 		<p>実装モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護革新力の基礎 (必修1) ●EBP実装 (1) ●プロジェクト・マネジメント (1) ●看護管理学 (2) ●看護教育学 (2) ●専門職連携教育論 (1) ●専門職連携実践論 (1) 	
<p>実践モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護理論 (1) ●看護倫理 (1) ●e-learning演習臨床推論 (1) ●コンサルテーション (1) ●看護専門職論 (1) ●ナーシングフィジカルアセスメント (2) ●臨床病態学 (2) ●臨床薬理学 (2) ●e-learning演習フィジカルアセスメント (1) ●e-learning演習臨床病態生理学 (1) ●e-learning演習疾病臨床病態学 (1) ●e-learning演習臨床薬理学 (1) ●組織マネジメント論 (1) ●e-learning医療安全学 (1) ●災害看護活動論(復旧・復興) (1) ●災害マネジメント論 (1) ●災害時専門職連携演習 (1) ●地域包括ケア論 (1) ●看護政策 (1) 			

〔看護実践学コース看護管理学プログラム〕 修了要件：30単位以上

<p>研究：12単位 必修</p> <p>自組織の課題を解決するためのプロジェクト型研究を行うことで高度な探究能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護管理課題研究 (12) 	<p>演習：6単位 必修</p> <p>職場の課題解決のための情報活用や解決能力を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護管理学演習 (6) 	<p>専門科目：主専攻の2単位 選択必修</p> <p>保健医療システムの変化や、医療の高度化、多様化、国際化した看護について深い学識を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ●先端実践看護管理学Ⅰ (1) ●先端実践看護管理学Ⅱ (1) ●文化創成看護管理学Ⅰ (1) ●文化創成看護管理学Ⅱ (1) ●生活創成看護管理学Ⅰ (1) ●生活創成看護管理学Ⅱ (1) 	
<p>共通基盤科目：研究学術モジュール4単位、実装モジュール4単位、実践モジュール2単位を含む10単位以上</p>			
<p>研究学術モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護学研究Ⅰ (必修1) ●看護学研究Ⅱ (必修1) ●看護学研究Ⅲ (必修1) ●看護学研究Ⅳ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅠ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅡ (1) ●アカデミックコミュニケーションⅢ (1) 		<p>実装モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護革新力の基礎 (必修1) ●EBP実装 (1) ●プロジェクト・マネジメント (必修1) ●看護管理学 (2) ●看護教育学 (2) ●専門職連携教育論 (1) ●専門職連携実践論 (1) 	
<p>実践モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護理論 (1) ●看護倫理 (1) ●e-learning演習臨床推論 (1) ●コンサルテーション (1) ●看護専門職論 (1) ●ナーシングフィジカルアセスメント (2) ●臨床病態学 (2) ●臨床薬理学 (2) ●e-learning演習フィジカルアセスメント (1) ●e-learning演習臨床病態生理学 (1) ●e-learning演習疾病臨床病態学 (1) ●e-learning演習臨床薬理学 (1) ●組織マネジメント論 (1) ●e-learning医療安全学 (1) ●災害看護活動論(復旧・復興) (1) ●災害マネジメント論 (1) ●災害時専門職連携演習 (1) ●地域包括ケア論 (1) ●看護政策 (1) 			

〔看護実践学コース高度実践看護学プログラム〕 修了要件：54単位以上

<p>研究：12単位 必修</p> <p>高度実践を行う際にエビデンスを活用するだけでなく、自らエビデンスを生み出す問題解決能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門看護特別研究 (12) 	<p>演習・実習：14単位 必修</p> <p>複雑な健康問題をもつ対象にケアとキュアを統合し役割を担う能力を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護学実習I-III (10) ● 看護学演習 (4) 	<p>専門科目：主専攻の10単位 選択必修</p> <p>保健医療福祉のシステムの変化や高度実践に必要な役割を学び、ケアシステムの改善に向けた幅広く深い学識を修得する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>小児看護専門看護師 10単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小児看護学A・B ● 小児と環境の査定 ● 小児の病態 ● 小児の保健・医療制度 </div> <div style="width: 45%;"> <p>がん看護専門看護師 10単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 成人看護学A・B ● 臨床腫瘍学概論 ● 腫瘍医療ケアコーディネーション ● エンドオブライフケア看護学 </div> </div>
<p>共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上</p>		
<p>研究学術モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護学研究Ⅰ (必修1) ● 看護学研究Ⅱ (必修1) ● 看護学研究Ⅲ (必修1) ● 看護学研究Ⅳ (1) 	<p>実装モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護革新力の基礎 (必修1) ● EBP実装 (1) ● プロジェクト・マネジメント (1) ● 看護管理学 (必修2) ● 看護教育学 (必修2) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門職連携教育論 (1) ● 専門職連携実践論 (1)
<p>実践モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護理論 (必修1) ● 看護倫理 (必修1) ● e-learning演習臨床推論 (1) ● コンサルテーション (必修1) ● 看護専門職論 (1) ● ナーシングフィジカルアセスメント (必修2) ● 臨床病態学 (必修2) ● 臨床薬理学 (必修2) ● e-learning演習フィジカルアセスメント (1) ● e-learning演習臨床病態生理学 (1) ● e-learning演習疾病臨床病態学 (1) ● e-learning演習臨床薬理学 (1) ● 組織マネジメント論 (1) ● e-learning医療安全学 (1) ● 災害看護活動論(復旧・復興) (1) ● 災害マネジメント論 (1) ● 災害時専門職連携演習 (1) ● 地域包括ケア論 (1) ● 看護政策 (必修1) 		

〔看護実践学コース特定看護学プログラム〕 修了要件：41単位以上

<p>研究：6単位 必修</p> <p>自組織の課題や専門職連携の障壁の分析、特定行為の効果・検証を行う能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特定看護課題研究 (6) 	<p>演習・実習：10単位 必修</p> <p>特定行為を看護と統合して提供するため専門職連携・問題解決能力を涵養する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特定看護実習 (6) ● 特定看護演習 (4) 	<p>専門科目：7単位～29単位 選択必修</p> <p>特定行為を患者・利用者の価値を尊重して実践し、地域包括ケアシステムを推進するために必要となる深い学識と確かな技術を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特定看護実践論Ⅰ (1) ● 特定看護実践論Ⅱ (1) ● 特定行為研修区分別科目 (5～27) <p>コンフォートケア科目群(5) リカバリーケア科目群(8) ロングタームケア科目群(6) クリティカルケア科目群(8)</p>
<p>共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上</p>		
<p>研究学術モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護学研究Ⅰ (必修1) ● 看護学研究Ⅱ (必修1) ● 看護学研究Ⅲ (必修1) ● 看護学研究Ⅳ (1) 	<p>実装モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護革新力の基礎 (必修1) ● EBP実装 (必修1) ● プロジェクト・マネジメント (1) ● 看護管理学 (2) ● 看護教育学 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門職連携教育論 (1) ● 専門職連携実践論 (1)
<p>実践モジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 看護理論 (1) ● 看護倫理 (1) ● e-learning演習臨床推論 (必修1) ● コンサルテーション (1) ● 看護専門職論 (1) ● ナーシングフィジカルアセスメント (2) ● 臨床病態学 (2) ● 臨床薬理学 (2) ● e-learning演習フィジカルアセスメント (必修1) ● e-learning演習臨床病態生理学 (必修1) ● e-learning演習疾病臨床病態学 (必修1) ● e-learning演習臨床薬理学 (必修1) ● 組織マネジメント論 (1) ● e-learning医療安全学 (必修1) ● 災害看護活動論(復旧・復興) (1) ● 災害マネジメント論 (1) ● 災害時専門職連携演習 (1) ● 地域包括ケア論 (必修1) ● 看護政策 (1) 		

② 臨地実習協力施設一覧

<病院・診療所>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県こども病院
- ・千葉徳洲会病院
- ・千葉中央メディカルセンター
- ・成田赤十字病院
- ・おゆみのクリニック
- ・東京女子医科大学附属八千代医療センター

<その他>

- ・訪問看護ステーションフレンド
 - ・ひびき金港町保育園
- (敬称略、順不同)

(2) 看護学専攻：博士後期課程・国際プログラム

① 教育目的および特徴

博士前期課程は、3年間の教育課程であり、社会の要請に応える新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者、及び学際的な視点をもつ理論やモデルを創出・検証する研究者を育成する。

2021年度からの新カリキュラムでは、共通基盤科目として学際研究や看護革新力の展開等に関わる科目、専門科目として研究テーマに応じた看護特論、コンソーシアム科目として災害マネジメント論等の科目が開講される。

国際プログラムは、英語による独立したカリキュラムである。

〔博士後期課程〕 修了要件：12単位以上

研究：5単位 必修 研究の進捗管理について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する ●特別研究(5)	演習：2単位 必修 研究課題の設定、研究計画の策定について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する ●特別演習(2)	専門科目：主専攻の2単位 選択必修 専門性の高い研究領域における新しい知見や価値の創造に向けた考察 ●先端実践看護学特論(2) ●生活創成看護学特論(2) ●文化創成看護学特論(2)
共通基盤科目：3単位以上 選択必修 ●学際研究Ⅰ(導入)(必修1) ●看護革新力の展開(必修1) ●Academic Writing(必修1) ●学際研究Ⅱ(発展)(1) ●看護イノベーション特論(1) ●Systematic Review(1) ●グローバル演習(1)		

2. 令和4年度教育の取り組み

1) 看護学部令和4年度DX推進プロジェクトの取り組み

(1) DX推進プロジェクトの経緯

令和3年度補正予算として文部科学省は、ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業として39億円を計上し、本学部はこの事業のうち、「実習等に資するシミュレータ等のDX設備整備」に採択された。

この補助金事業は、社会全体のデジタルトランスフォーメーション(DX)革命と今般の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、医療環境及び医療職の養成段階においても早急な対応が必要であり、実習等の在り方についても、当該感染症の完全収束が見通せない中、対面に加えDX等を活用するハイブリッドの実習が必須ということから、DX等の手法により従来の実習ではできなかった取り組みも可能とし教育手法の高度化を目指すというものである。

補助金事業申請では、

- ・根拠に基づいた看護技術提供と専門的判断能力の強化
- ・臨床で専門的な判断と技術を駆使し模擬的に看護実践
- ・実習前に施設の映像と指導者の視点を視聴し、実習の「場」と実践者の行動や意図の理解を深め、実習の準備性を高める

の3点についてDX化を図る計画とした。採択後、令和4年7月にDX推進プロジェクトチーム(PT)を発足し、教授会にて承認を受け、活動を開始することとなった。

なお、PTの進捗については、令和4年10月教員懇談会にて報告した。

(2) 看護学研究院DX推進プロジェクトチーム

PTは、実習担当領域の若手教員を中心とした組織づくりをした。

PTのメンバーは以下の通りである。

◎斉藤しのぶ、前原邦江、飯田貴映子、佐伯昌俊、佐野元洋、仲井あや、齊藤可紗、犬山彩乃
(◎はリーダー)

PT内で役割分担をし、それぞれの専門領域に関連して主体的に動くことをグランドルールとした。

統括	斉藤しのぶ
情報収集	飯田貴映子 犬山彩乃
事業計画立案・シナリオ作成	前原邦江、佐野元洋、仲井あや、齊藤可紗
研究計画・実施	佐伯昌俊、斉藤しのぶ
事業まとめ	斉藤しのぶ、佐伯昌俊

(3) DX推進PTの役割

学部教育においてDXの各技術および機器の活用可能性を検討し、実際に活用した授業を展開する。その効果を検証し、看護実践能力育成に向けた教育の質的転換を図る。

- (1)本学が購入した各機器の活用可能性を中心に、DXによる教育の先進事例に関する情報収集を行う。
- (2)補助金等によって購入した機器の活用に関するFDを業者と連携して開催する。
- (3)補助金等によって購入した機器を活用した授業の展開と評価を行う。
- (4)上記(3)を研究として取り組む。
- (5)学部教育におけるDXに関する教員からの相談に対応する。

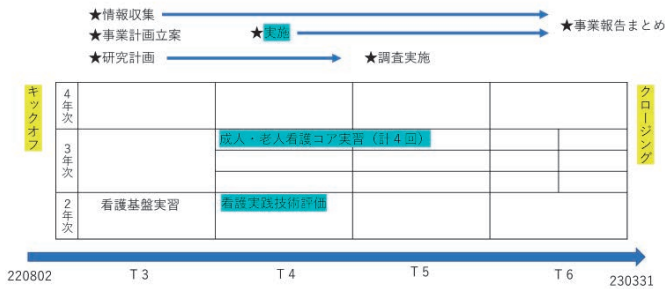
補助金による購入機器； ハンディエコー

事例の電子カルテと連動する高機能シミュレーター

アイマークレコーダー DVD(医学映像社；医療チームに必要な画像医学の知識と技術超音波検査、薬の基礎知識)

(4) DX 推進 PT の事業展開

DX推進プロジェクト 大まかな流れ

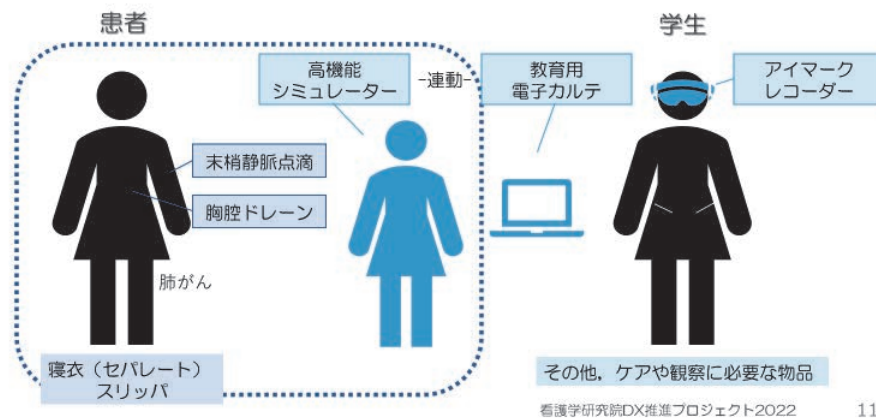


① デジタル技術を活用した看護過程展開の演習 2年次開講科目『看護実践技術評価』における演習

本科目において、看護基盤実習を終えた2年次学生に、シチュエーションベースド・シミュレーションを実施した。使用機器及びセッティングは以下の通りである。

看護実践技術評価 (シチュエーションベースド・シミュレーション)

使用機器、準備物品



事例とする患者は、肺がんの術後で、術後疼痛があり、排液ドレーンの観察が必要、場面設定としては洗髪の基本技術を使い、学生の看護過程展開および技術修得の評価をねらいとし演習を展開した。

⇒この演習から検討課題として以下のことが明らかになった。

<課題>・学生がシミュレーション演習に対して、やや緊張気味である。

- ・高機能シミュレータの準備に時間・マンパワーを要する。
- ・使いこなせるまでに機器の扱いに関して修得が必要である。
- ・アイマークレコーダーの使用の可能性と課題について要検討である。

<対応策案>

- 高機能シミュレータを常時使えるような実習室の体制づくり
- シナリオを各領域で作成し、評価指標の構築
- メンテナンス・管理等に必要なランニングコストの確保

② 周術期実習前のシミュレーション演習導入による効果 3年次開講「成人・老人コア実習」における演習

高機能シミュレータを使用し、術後観察などの演習を実施した。

③ ①②の取り組みにおける学生の教育効果については、研究的に取り組むこととし、今後学部教育へのDXの導入について検討することとした。

2) 大学院看護学研究科

新たな教育への取り組み

本研究科のミッションは、看護学の新領域の研究及び先進的教育プログラムの開発により、我が国の看護学の発展をグローバルに牽引する人材を育成すること、看護系大学の教育を担う教育研究者養成の日本における最大規模の拠点としての役割を果たすことである。このミッションを確実に果たすために、2021年度に教員組織新体制の始動と共に、博士前期・後期課程の新カリキュラムを稼働した。2022年度は博士前期課程の新カリキュラムの完成年度となる。そこで、2022年度には博士前期課程新カリキュラムの評価を行った。

(1) 看護学研究科博士前期課程：新カリキュラム評価の経緯

本研究科は、旧来の3専攻である看護学専攻（区分制博士課程）、看護システム管理学専攻（修士課程の独立専攻・3年）、共同災害看護学専攻（一貫性博士課程）から、2021年度より看護学専攻1専攻への統合（博士前期課程・2年・博士後期課程・3年）、および、共同災害看護学副専攻へと区分けした。さらに、博士前期課程は2コース3プログラム看護学コースおよび看護実践学コース（看護管理学プログラム、高度実践看護学プログラム、特定看護学プログラム）に区分けし、各コースおよびプログラムの人材育成像に合うカリキュラムへと大幅に改訂された。

カリキュラム変更に至った背景には、多様な視点で大学院生が指導を受けられる体制の必要性、教員数の削減に伴い限りある人員での効果的なカリキュラム運営、教員組織と教育組織の分離に関わる課題が生じたことがある。これらの課題に対応すべく、教育改革・改善、学位授与の方針（ディプロマポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー：CP）に基づく人材育成を目指し新カリキュラムが構築された。新カリキュラムでは、研究科目強化のために全員必修の共通基盤科目を設置、各専門領域で担っていた専門科目（Ⅰ・Ⅱ）を研究部門単位で運用、教員は、看護学コースと看護実践学コース（3つのプログラムのうちいずれか）を担うこととなった。各プログラムにおける大きな変化として、看護管理学プログラムは履修期間が3年から2年となったこと、高度実践看護学プログラムは日本看護系大学協議会から専門看護師教育課程として認定を受けている部分（38単位）に共通基盤科目が加わり修了要件が54単位に増加したこと、特定看護学プログラムは千葉大学医学部附属病院での特定看護研修を組み込む2021年度からの新設プログラムであったことである。

(2) 新カリキュラムの評価方法

新カリキュラムの評価は、大学院教務委員会教務部会カリキュラム評価班を中心とした組織で計画および実施した。令和4年度の大学院教務委員会は以下の通りである。

◎増島麻里子、○手島恵、○黒田久美子、中村伸枝、小宮山政敏、

*酒井郁子、宮崎美砂子、佐藤奈保、杉田由加里、佐野元洋

（◎委員長、○副委員長、下線は教務部会カリキュラム評価班、*カリキュラム評価班長）

(1)カリキュラム評価の目的・必要性

- ①学生が授業の学修目標を達成するために、カリキュラムは有効であったかを確認する
- ②教育内容や指導方法における改善点を見つける
- ③教員の科目担当のあり方など、運用方法を検討する
- ④教員へのフィードバックに用いる
- ⑤教育業績の評価に用いる
- ⑥社会からのニーズに応えられるカリキュラムの開発・構築に生かす

(2)カリキュラム評価の方法

研究科の教員、大学院生、研究科以外の教員や実習フィールドの担当者等を対象に、形

成的評価及び総括的評価を実施した。評価の段階は、教員、大学院教務委員会、研究科全体へと進める予定である。

(3)カリキュラム評価の実施

① Google Form によるアンケート調査「看護学研究科博士課程のカリキュラム運用上の課題と現状について」

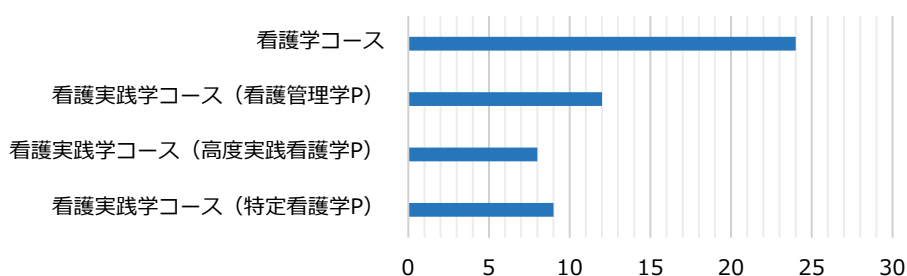
方 法：参考文献¹⁾をもとに調査票を作成し Google Form を用いて回答を得た。調査票は本項最後に示す。

対 象 者：研究科教員

調査期間：2022年12月22日～2023年1月16日

結 果 1：回答者数 26 名（回答率 54.2%）

担当している博士前期課程のコース・プログラム（複数回答可, n=26）



結 果 2：職位

教授 11 名（42%）、准教授・講師 8 名（31%）、助教・助手 7 名（27%）

結 果 3：博士前期課程新カリキュラムについての理解と DP、CP との整合性についての考え

各コースプログラムの DP、CP 及びカリキュラムの趣旨や方針を理解しているかの質問には、「とてもそう思う」19%、「そう思う」81%の回答であった。各科目の到達目標は DP、CP、カリキュラムの趣旨や方針に関連づいたものになっているかの質問には、「とてもそう思う」23%、「そう思う」73%、「どちらとも言えない」4%の回答であった。授業内容は DP、CP 及びカリキュラムの趣旨や方針と関連づいたものになっているかの質問には「とてもそう思う」16%、「そう思う」69%、「どちらとも言えない」15%の回答であった。

結 果 4：博士前期課程新カリキュラムの成果と課題

新カリキュラムは各コース・プログラムの DP、CP に照らした成果があると思うかの質問には「とてもそう思う」8%、「そう思う」54%、「どちらとも言えない」38%の回答であった。学生の学習が向上した内容、学生の負担や学習内容の主な課題は下表の通りである。

学生の学習が向上した内容
<ul style="list-style-type: none"> ・学術的な思考が向上した ・始めに研究の進め方について学ぶことができる ・研究方法論、プロジェクトマネジメントなどは計画書を書く際に参考になっている ・初めて担当する教員にわかりやすくプレゼンテーションする力が向上した ・より広い視点から多角的に自己の関心や問題意識等を考察、検討する機会となる ・1年次早期から、研究計画や課題研究のイメージを持ち、計画書作成に取り組むことができる ・自分で調べまとめ上げる能力が向上した ・学生が自律的に学習を進めていくことができている ・他領域の院生との交流がもてている

学生の負担や学習内容の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・時期によってはレポート等の課題が重なり、学生の負担が大きい（調整が必要） ・オンライン授業が多くなり、学生同士が切磋琢磨する環境が乏しい ・共通基盤科目：院生のレディネスに幅がある ・看護学コース：専門科目を研究部門を単位として開講し、博士前期の段階で多領域の院生と討議するためには、より小範囲の専門領域で、研究動機となった現象を関連の理論や概念を用いて整理しておくことが効果的 ・看護実践学コース：調査票の設計、データ分析の方法や分析したデータの示し方、文章作成力 ・看護管理P：専門科目を部門ごとではなく一緒に学べるようにした方が学習が深まる

結果 5：博士前期課程新カリキュラム運用上の課題や意見

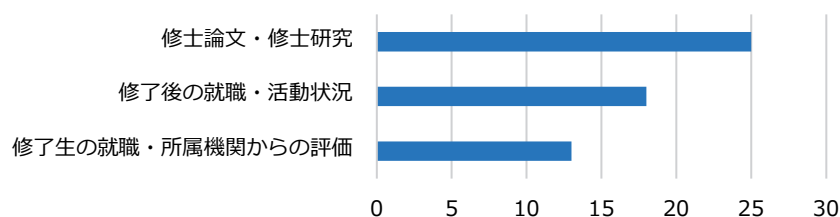
教員の負担、教員への教育支援・調整が必要だった主な事柄は下表の通りである。

担当する教員の負担
<ul style="list-style-type: none"> ・全員必修科目の担当教員数が少なく、グループ討議等の運営に負担が生じている ・研究部門単位の専門科目では、1コマを担当する教員が多過ぎる ・研究部門単位の専門科目Ⅰ・Ⅱは、部門別を実施する必要があるのか。また、科目担当者を決めた方がよい ・担当教員数が多い授業は教員の調整に時間を要する ・看護学コースと看護実践学コースを担うことにより、2専攻担当に相当する負担増となる ・学部、博士後期課程の授業との重複を回避することが困難である

担当する教員への教育支援・調整
<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的に沿った進め方や指導の留意点などを共有するための資料 ・Google Classroomの効果的な活用方法 ・前期の上級生や、博士後期学生を研究指導、授業補助等にTAとして積極的に活用できる仕組み ・科目内容・到達目標・開講時期（特に土曜開講・夏期集中講義）の調整 ・学部（特に実習）・博士後期課程の授業との調整 ・受講者名簿の前年度末での入手 ・教員異動（退官）の際、科目を担当する教員数やオムニバス授業を担当する教員の調整 ・ENGINEへの対応 ・国際プログラムに向けた英訳支援

結果 6：博士前期課程のカリキュラム評価の指標として必要と考える項目

（複数回答可, n=26）



(3) 教員アンケート調査結果を踏まえたFD・グループワーク

(2023年1月25日(水) 16:30~17:30 Zoomにて実施)

上記調査概要を共有したうえで、以下の論点について3・4名で1グループのグループワークを実施した。今後は大学院生の評価なども含め、教員の科目担当のあり方などの運用方法を順次検討し、よりよいカリキュラムへと充実させていく。

論点 1-1: 新カリキュラムとなり、学生の学習が向上した内容

論点 1-2: 新カリキュラムとなり、学生の負担や学習内容における課題

論点 2-1: カリキュラムを担当する教員の負担

論点 2-2: カリキュラムを担当する教員への教育支援や運用方法の改善点

<調査票：看護学研究科博士前期課程のカリキュラムの現状と課題について>

・あなたが担当している博士前期課程のコース・プログラムを教えてください（複数選択）

- 看護学コース
- 看護実践学コース（看護管理学プログラム）
- 看護実践学コース（高度実践看護学プログラム）
- 看護実践学コース（特定看護学プログラム）

博士前期課程新カリキュラムについての理解と、DP, CP との整合性についての考え

*以下5件法で回答（とてもそう思う、そう思う、どちらとも言えない、あまりそう思わない、全くそう思わない）

・あなたは、看護学コース・看護実践学コース（看護管理学 P, 高度実践看護学 P, 特定看護学 P）のディプロマポリシー（DP）・カリキュラムポリシー（CP）及びカリキュラムの趣旨や方針を理解していますか*

・看護学コース・看護実践学コースの各科目の到達目標は、DP・CP 及びカリキュラムの趣旨や方針と関連づいたものになっていると思いますか*

・看護学コース・看護実践学コースの各科目の授業内容は、DP・CP 及びカリキュラムの趣旨や方針と関連づいたものになっていると思いますか*

・DP・CP 及びカリキュラムの趣旨や方針に照らして、現在の看護学コース・看護実践学コースで過不足があると考えられる学習内容があれば、自由に記載してください

博士前期課程新カリキュラムの成果と課題

・新カリキュラムは、看護学コース・看護実践学コースの DP および CP に照らした成果があると思いますか*

・新カリキュラムになり、学生の学習が向上したと考える内容があれば、自由に記載してください

・新カリキュラムになり、学生の負担や学習内容など課題があれば、自由に記載してください

博士前期課程新カリキュラム運用上の課題や意見

・新カリキュラムを担当する教員の負担について課題があれば、自由に記載してください

・新カリキュラムを担当する教員への教育支援として必要と考える事柄があれば、自由に記載してください

・新カリキュラムの運用上、他の科目と調整が必要だった事柄があれば、自由に記載してください

・新カリキュラムの運用上、工夫している事柄があれば、自由に記載してください

博士前期課程新カリキュラム評価

・カリキュラム評価の指標として必要と考える項目をチェックし（複数選択）、項目以外に必要と考えることがあれば、自由に記載してください。

- 学生による授業評価や、カリキュラムに対する意見収集
- 学生の成績（GPA など）や単位取得状況
- 学生の留年・退学・長期履修率

3. 研究科学位論文一覧

令和4年度千葉大学大学院看護学研究科学位論文一覧

〔博士論文（甲号）〕

専門領域	論文名	氏名	指導教員
看護病態学	Newer Approaches to Wound care in Diabetes Mellitus; The Role of Oxidative Stress in Clinical Outcomes in Diabetic Foot Complications	NYAMADZAWO Amos Tinashe	岡田 忍
看護病態学	ソーシャル・ネットワーク・サービス・アプリ WeChat を活用した人工呼吸器関連イベント (VAE) 予防策実施状況の改善に対する取り組みとその評価	康 龍飛	岡田 忍
小児看護学	食物アレルギーのある思春期・青年期の子どもの社会的食事場面におけるヘルスリテラシーの促進に向けた学習会プログラム開発と有用性の検討	橋本 美穂	中村 伸枝
成人看護学	通院治療中のがん患者に対する就労継続への看護支援プログラムの開発	小林 成光	増島麻里子
健康管理看護学	Development and Evaluation of an Educational Program to Enhance Transcultural Self-Efficacy of Clinical Nurses in China	Tong Ling	北池 正
災害看護学	被災した妊婦の母になる体験を支える看護アセスメントモデルの開発	鈴木 聡子	佐藤 奈保
成人看護学	循環器病棟における一般看護師向け心不全緩和ケア看護実践モデルの開発	東辻 朝彦	眞嶋 朋子
老人看護学	HOMEの意味に着目する訪問看護実践の理論的枠組みの開発 ー慢性疾患と共に生きる独居高齢者に焦点を当ててー	拜田 一真	正木 治恵
老人看護学	在留中国人高齢者の老いへの準備教育プログラムの開発 ービデオカンファレンスを活用してー	姚 利	正木 治恵
健康管理看護学	在宅移行困難な患者に対する専門看護師・認定看護師による入退院支援を促進するプログラムの開発	芥田 ゆみ	池崎 澄江
地域看護学	自然災害を経験した市町村保健師に対する災害時保健活動リフレクション支援プログラムの開発 ー外傷後成長の促進をねらいとしてー	井口 紗織	石丸 美奈
地域看護学	壮年期独身男性のソーシャルサポートを活かした生活習慣病予防につながるセルフケア行動支援指針の開発	高橋 秀治	石丸 美奈
地域看護学	保健師による支援対象者へのケアリングを促すための職場内教育 (On-the-Job Training) としての事例検討会モデルの開発	佐藤 太一	石丸 美奈
訪問看護学	認知症をもつ高齢シスターの修道生活を支える文化ケア	得居みのり	諏訪さゆり

〔修士論文〕

教育研究分野	修士論文題目	氏名	指導教員
看護教育学	実習指導者との連携に伴い看護学教員が直面する困難の解明－病院をフィールドとする看護学実習に焦点を当てて Challenges of Nursing Faculty Collaborating With Clinical Instructors: A Focus on Nursing Clinical Practicum in Hospitals	寶田 真希	中山登志子
看護実践学 コース/高度 実践看護学 プログラム	発達に特別な支援が必要なアトピー性皮膚炎の幼児・学童前期の子どもへのスキンケアに対して養育者が感じる困難と工夫 Difficulties and Coping Strategies of Caregivers in Skincare for Children with Atopic Dermatitis Who Have Developmental Disabilities	遠藤 健司	中村 伸枝
看護学コース	混合研究法による子宮頸がん検診受診者の特徴と体験の分析 Characteristics and Experiences of Cervical Cancer Screening Examinees: A Mixed Method study	岡村 望有	岡田 忍
看護学コース	後期回復期心臓リハビリテーションに参加している心不全患者の身体活動の調整 Coordinating physical activities for patients with heart failure during late Phase II cardiac rehabilitation	曾 嶸	眞嶋 朋子
看護学コース	妊娠前から産後1か月における関節リウマチ女性の困難とその対処に関する経験 Experiences of Difficulties and Coping in Women with Rheumatoid Arthritis During Pre-pregnancy Until One Month Postpartum	中山 瑠理	黒田久美子
看護学コース	分娩介助シミュレーション教育における教員のデブリーフィングの経験 Experiences of Midwifery Educators' Debriefing with Students in Simulated Training for Childbearing Care	結城ちなみ	森 恵美
看護学コース	自然災害により被災した母親が新生児とともに産後1ヵ月まで被災地で過ごした経験 Experience of spending up to one month after birth with a newborn of a mother affected by a natural disaster in a disaster area	吉見 萌々	宮崎美砂子
看護学コース	メンタルヘルス不調者の復職支援における産業看護職による管理監督者支援 Manager support by occupational nurses during the reinstatement of personnel with mental health disorders	田原 郁恵	田上美千佳
看護学コース	中国の病院における老年専科看護師の役割遂行とその関連要因 Role performance and associated factors among gerontological nurse specialist in China	楊 静文	黒田久美子
看護学コース	急性期病院における認知症高齢者をケアする新人看護師の困難感 Difficulties Encountered by Novice Nurses in Providing Care for Older People with Dementia in Acute Care Settings	CHEN TINGTING	正木 治恵

教育研究分野	修士論文題目	氏名	指導教員
看護学コース	病院における助産師外来の実践と助産師のエンパワメント認識との関連 Associations between Midwifery Outpatient Practice and Midwives' Perceptions of Empowerment in hospitals	武川 美樹	池崎 澄江
看護学コース	外来化学療法を受ける上部消化器がん患者の身体活動量に関連する要因 Factors Associated with Physical Activity in Patients with Upper Gastrointestinal Cancer during Outpatient Chemotherapy	有松 夏子	雨宮 歩
看護学コース	大学附属病院認知症外来センター受診者の初回受診時の特徴 Outpatient characteristics at first visit in the Medical Center for Dementia of a University Hospital	沢田佳志乃	雨宮 歩
看護学コース	重度認知症患者のデイケアの専門職がケースカンファレンスを通して認知症の人への理解を深めていく様相 Phase of professionals in daycare for severe dementia patients to deepen their understanding of people with dementia through case conferences	増田 文月	諏訪さゆり
看護学コース	オンライン面会における NICU・GCU 児とその親に対するボンディング形成に向けての看護実践 Nursing Practices to Promote Parent-Infant Bonding Using Virtual Visits in the NICU/GCU	石井 柚衣	森 恵美
看護学コース	ビーチチェア体位の肩関節手術における合併症予防のための看護実践に関する研究 A Study on the Nursing Practice for Preventing Complications in a Shoulder Joint Surgery in the Beach-Chair Position	保坂ひとみ	岡田 忍

[修士研究報告書]

研究領域	修士研究題目	氏名	主査
看護管理学	急性期病院における病棟看護師のセルフケア支援能力向上プロジェクト －退院支援リンクナースへの教育システムの構築による変化－	安部 節美	石橋みゆき
看護管理学	気付きを築く「はぐくみプロジェクト」 －特別養護老人ホームにおいて、多職種で気付きを共有することで、アサーティブな関係を構築する－	矢代 瞳	諏訪さゆり
看護管理学	急性期病院一般病棟看護師の退院支援実践力向上プロジェクト	磯村真由子	諏訪さゆり
看護管理学	DPC 対象病院における消化器外科患者の退院支援体制の再構築	飯塚 貴美	杉田由加里
看護管理学	利用者の力を最大限に発揮することを支援するマネジメントへの変革 －訪問看護ステーションにおける在宅看取りに焦点を当てて－	柴尾裕加里	和住 淑子
特定看護学	肝切除術高齢患者へのせん妄予防を焦点とした周手術期看護の効果	出穂麻智子	酒井 郁子
特定看護学	医療療養病棟において中心静脈栄養中の高齢者のコンフォートを促進する看護援助の効果	相川 理沙	酒井 郁子
看護管理学	高齢者専門病院の急性期一般病棟において患者が望む療養生活の場へつながる情報を法人内施設と共有する業務フローの構築	高橋あかね	諏訪さゆり
病院看護システム管理学	ポスト COVID-19 禍を見据えた新人教育体制の再構築	内田 智栄	手島 恵
病院看護システム管理学	急性期病院における看護師長と主任看護師が協働して成長する支援システムの構築	木村 美詠	手島 恵
病院看護システム管理学	国立大学病院における次世代の看護管理を担う副看護師長の育成	宇野 光子	手島 恵
病院看護システム管理学	地域における高齢者の看取りに応える訪問看護ステーションの機能強化 －訪問看護師の ACP 推進支援と評価－	森 美香子	手島 恵
実践看護評価学	急性期ケアミックス型病院における認定看護師の役割発揮に向けた取り組み －指導・相談能力に焦点をあてて－	祓川 恵子	黒田久美子
継続教育・政策管理学	高度急性期病院における患者の回復促進に向けたスタッフと看護管理者の協働	篠原 美代	和住 淑子
継続教育・政策管理学	組織の役割発揮と個人のキャリア開発を調和させる看護継続教育システムの構築に向けて	徳山 薫	和住 淑子
病院看護システム管理学	People-Centered Careの実現に向けた看護実践の強化 －患者と職員が共に安心できる組織づくり－	嶽肩美和子	手島 恵
ケア施設看護システム管理学	ヘルスケアテック企業におけるサービス品質改善のシステム構築	根廻 麻美	酒井 郁子

Ⅲ. 研究

1. 教員の研究業績（講座別）

※本研究院に所属している研究者の業績については下線を引いてあります。

（教員：実線、大学院生：点線、学部生：波線）

高度実践看護学

〔原著〕

1. Amos, T. N., Nishio, J., Ogawa, T., & Okada, S. (2022). Influence of oxidative stress and effect of topical application of α -tocopherol on wound healing in a diabetic animal model. *International Journal of Research in Medical Sciences*, 10(7), 1431-1442, DOI: 10.18203/2320-6012.ijrms20221785
2. Higasitsuji, A., & Majima T. (2022). Factors associated with Japanese nurses' support on End-of-life decision-making: A cross-sectional study. *Journal of Community Health Nursing*, 39(3), 139-149.
3. Kobayashi, M.*, Sezai, I., Ishikawa, T., & Masujima, M. (2022). Psychological and educational support for cancer patients who return to work: A scoping review. *Work*, 73(1), 291-300. DOI: 10.3233/WOR-205326
*博士後期課程修了
4. Xiao, M.*, Higashitsuji, A., Majima, T., & Masujima, M. (2022). Experiences of patients with lymphoedema after breast cancer surgery: a meta-synthesis, *Lynphoedema Research and Practice*, 10(1), 8-19.
*博士前期課程修了
5. Ishikawa, T., Sakai, I., Amemiya, A., Komatsu, R., Sakuraba, S., & Isono, S. (2022). Long-term body weight change assessed by non-contact load cells under the bed in older people with and without eating assistance: a preliminary study. *Scientific Reports*, 12(1), 1-5.
<https://doi.org/10.1038/s41598-022-12291-5>
6. Shikino, K., Ide, N., Kubota, Y., Ishii, I., Ito, S., Ikusaka, M., & Sakai, I. (2022). Effective situation-based delirium simulation training using flipped classroom approach to improve interprofessional collaborative practice competency: a mixed-methods study. *BMC Medical Education*, 22(1), 1-11. <https://doi.org/10.1186/s12909-022-03484-7>
7. Saiki, M., Takemura Y., & Kunie K. (2022). Relationship between unit-level nurses' expectations from nursing assistant roles and individual nursing assistants' information-sharing behaviors: A multilevel mediation analysis. *Asian Nursing Research*, 17(1), 1-7.
<https://doi.org/10.1016/j.anr.2022.11.003>
8. Kameda, N., & Okada, S. (2022). Evaluation of postoperative warming care protocol for thermal comfort and temperature management immediately after surgery: Nonrandomized controlled trial. *Journal of PeriAnesthesia Nursing*, (22)00432-4. DOI: 10.1016/j.jopan.2022.07.001
9. Higashitsuji, A., Sano, M., & Majima, T. (2022). Advance care planning experiences of heart failure patients and their families: a qualitative systematic review protocol. *JBI Evidence Synthesis*, 21(2), 441-448. DOI:10.11124/JBIES-22-00107
10. Ogawa, T., & Nishio, J. (2022). Evaluation of wiping edible sesame oils in the oral cavities of hospitalized older patients who resist oral hygiene management. *Indian Journal of Dental Research*, 33(4), 356-362. DOI: 10.4103/ijdr.ijdr_410_22
11. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., & Okumura-Hiroshige, A. (2023). Factors affecting the critical appraisal of research articles in Evidence-Based practices by advanced practice nurses: A descriptive qualitative study. *Nursing Open*, (in press).

<https://doi.org/10.1002/nop2.1628>

12. 中村伸枝, 水野芳子, 奥朋子, 瀬尾智美, 眞嶋朋子, 仲井あや (2022). 10年以上の活動経験をもつ専門看護師の認定から5年目までの活動の広がりとお自己教育—文化の視点からの一考察—. 文化看護学会会誌, 14(1), 11-20.
13. 中水流彩, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2022). 幼児期に先天性心疾患手術を受ける患児の情動反応と体験. 日本小児看護学会誌, 31, 186-193.
14. 土井英子*, 眞嶋朋子 (2022). 放射線療法を受ける頭頸部がん患者の口腔粘膜炎症重症化予防のための自己管理プロセス. 日本がん看護学会, 36, 137-147.
*博士後期課程修了
15. 依田智未, 楠潤子, 増島麻里子 (2022). 終末期患者の尊厳を重視する集中治療室看護師の実践知. 日本看護科学会誌, 42, 484-493. <https://doi.org/10.5630/jans.42.484>
16. 小柴梨恵 (2022). 単心室型心奇形の乳児をもつ母親の自宅における育児—母親のとらえる子どもの様子と病状, 育児行動, 育児に対する感情に着目して—. 千葉看護学会会誌, 28(1), 11-22.
17. 橋本美穂*, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2022). 食物アレルギーのある思春期の子どもの社会的食事場面におけるヘルスリテラシー. 千葉看護学会会誌, 28(1), 35-44.
*博士後期課程修了
18. 荻野麻美 (2022). 造血幹細胞移植後に中等度・重度の合併症を抱える思春期患者の療養生活. 千葉看護学会会誌, 28(1), 67-76.
19. 長坂育代, 増島麻里子, 佐藤奈保, 渡邊美和 (2022). 青年期後期にある子における親のがん罹患体験と医療者に求める支援. 千葉看護学会会誌, 28(1), 89-98.
20. 高須清子*, 眞嶋朋子 (2022). 外来化学療法を受ける大腸がん患者の緊急入院に至った経緯. 千葉看護学会会誌, 28(1), 117-125.
*博士後期課程修了
21. 佐野唯*, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2023). 長期フォローアップ受診における小児がん経験者の判断と行動化の過程. 千葉看護学会会誌, 28(2), 49-59.
*博士前期課程修了
22. 可児幸恵 (2023). 泌尿器の手術を受けた幼児・学童の苦痛の表出と対処および親の関わり. 千葉看護学会会誌, 28(2), 61-70.
23. 小熊亜希子, 岡田忍, 飯野理恵 (2023). 介護老人保健施設入所者の誤嚥性肺炎の包括的ケアを促す看護モデルの開発. 千葉看護学会会誌, 28(2), 71-80.
24. 山本武志, 酒井郁子 (2023). 専門職連携実践コンピテンシーに関連する要因の検討: 特定機能病院の医療専門職を対象とした調査から. 札幌保健科学雑誌, 12, 21-27.

〔論文等(査読あり)〕

25. Suzuki, S., Sato, N., & Miyazaki, M. (2022). Experiences of pregnant people affected by natural disasters: a qualitative systematic review protocol. *JBI Evidence Synthesis*, 20(9), 2312-2318.
26. Yamakawa, M., Kanamori, T., Fukahori, H., & Sakai, I. (2022). Sustainable nurse-led care for people with dementia including mild cognitive impairment and their family in an ambulatory care setting: A scoping review. *International Journal of Nursing Practice*, 28(3), e13008. <https://doi.org/10.1111/ijn.13008>
27. Kako, J., Kobayashi, M.*, Kanno, Y., Kajiwara, K., Nakano, K., Morikawa, M., Matsuda, Y., Shimizu, Y., Hori, M., Niino, M., Suzuki, M., & Shimazu, T. (2022). Nursing support for symptoms in patients with cancer and caregiver burdens: a scoping review protocol. *BMJ Open*, 12(9), e061866-e061866. <https://doi.org/10.1136/bmjopen-2022-061866>
*博士後期課程修了
28. 東辻朝彦 (2022). 中小規模病院の集中治療室で新人看護師のチーム教育体制に携わった看護師の認識. 日本医療マネジメント学会誌, 23(1), 37-42.
29. 伊藤裕佳, 山本武志, 井出成美, 酒井郁子 (2022). 看護師等学校養成所における専門職連携教育の実装状況と課題. 日本保健医療福祉連携教育学会学術誌・保健医療福祉連携, 15(1), 2-10.

30. 依田智未, 田代理沙, 小西美ゆき, 萩谷翔太, 水流添秀行, 増島麻里子 (2023). 日本の救急・集中治療領域におけるエンドオブライフケア研究の動向: マッピングレビュー. 千葉看護学会会誌, 28(2), 28(2), 9-17.
31. 佐伯昌俊, 小松亮, 西宮岳, 酒井郁子 (2023). 急性期病院において複数の特定行為研修修了者の活動を支援する管理実践の要素—管理者へのインタビューによる質的研究. 看護管理学会誌, (印刷中).
32. 山本武志, 佐伯昌俊, 西宮岳, 小松亮, 山本則子, 酒井郁子 (2023). 特定行為研修を修了した看護師の導入・配置に関わる要因: 全国 300 床以上の病院の看護管理者を対象とした横断的研究. 看護管理学会誌, (印刷中).

〔論文等(査読なし)〕

33. 中村伸枝 (2022). 糖尿病療養指導士を知る. 小児看護, 46(1), 23-25.
34. 水流添秀行, 増島麻里子 (2022). 直腸がん術後排便障害を抱えながらの社会復帰—就労者に焦点を当てて—. 東邦大学健康科学ジャーナル, 5, 11-21.
35. 酒井郁子 (2022). 【多職種連携のためのタスクシフティングを考える—効率的な医療提供のために】特定行為研修修了看護師. カレントセラピー, 40(4), 362-367.
36. 酒井郁子 (2022). 多職種連携教育の潮流とそのインパクト—今後の展望と可能性—総合大学必修積み上げ型 IPE の運営拠点としての専門職連携教育研究センターの課題と展望. 医学教育, 53(Suppl), 22.
37. 佐伯昌俊 (2022). 連載 集まる つながる 広がる 若手研究者のバトン・23. 看護職と看護補助者の協働推進に向けた研究を通して, 最善のケアを提供するために. 看護研究, 55(2), 121-125.
38. 佐伯昌俊 (2022). 看護職と看護補助者双方が看護補助者の役割を理解すること—看護職と看護補助者の協働推進の鍵を握る. 看護管理, 32(12), 976-981.
39. 小林成光* (2022). 薬だけじゃない! 呼吸困難の緩和ケア 呼吸困難に対するポジショニングの工夫・体位変換. 緩和ケア, 33(1), 27-30.
*博士後期課程修了
40. 小林成光* (2022). スペシャリストが伝えたい 消化器の症状マネジメント I 患者さんからこう言われたら?～口腔編～ 口が乾く～唾液分泌障害～. がん看護, 33(1), 27-30.
*博士後期課程修了
41. 小林成光* (2022). 田舎に住むがん患者の cancer-related distress (CRD)に対する遠隔診療を用いた看護介入. 日本緩和医療学会ニューズレター, 97.
*博士後期課程修了
42. 酒井郁子 (2023). 特集 老年看護学の新しい姿 総説 2. 老年看護における教育. 老年医学, 61(3), 193-197.

〔報告書〕

43. 酒井郁子: 特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査. 令和 2 年度～令和 3 年度厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 地域医療基盤開発推進研究 総括報告書, 2021.
44. 秋山智弥, 荒木暁子, 酒井郁子, 谷口陽子, 禰屋文恵, 美代賢吾, 山田雅子: 令和 4 年度厚生労働省委託事業 人生 100 年時代の看護職キャリア継続支援ツール作成事業 事業実施報告書, 2023.

〔単行書〕

45. 岡田忍: 山内豊明(編), ナーシンググラフィカ疾病の成り立ちと回復の促進①病態生理学, 第 7 版, メディカ出版, 3 章 8 節 倦怠感 303-304, 15 節 浮腫 322-332, 2023.
46. 依田智未: 第 II 章 死をとりまく社会状況 2. 死を迎える場所とかかわる人たち B. 死を迎える人にかかわる人たち コラム 救急・集中治療におけるエンドオブライフケアへの取り組みの実際. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア, 第 1 版, 南江堂, 42,

2022.

47. 増島麻里子: 第IV章 最期までよりよく生きることを支えるエンドオブライフケアの考え方 3 対象理解の視点. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア, 第1版, 南江堂, 85-90, 2022.
48. 藤澤陽子, 増島麻里子: 第V章 エンドオブライフの時期にある人への援助 1 症状マネジメント. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア, 第1版, 南江堂, 92-99, 2022.
49. 松山直美: 第VI章 臨死期の看護 2 看取り時の看護. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア, 第1版, 南江堂, 121-134, 2022.
50. 橋爪由樹, 増島麻里子: 第VII章 エンドオブライフに関わる人への支援 一 家族 親近者 1 家族および親近者の心理・心理過程. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア, 第1版, 南江堂, 136-139, 2022.
51. 小林成光*: 1 病院で最期を迎えるまでの意思決定と調整. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア, 第1版, 南江堂, 153-164, 2022.
*博士後期課程修了
52. 渡邊朋, 佐藤奈保: 第VIII章 事例で学ぶエンドオブライフケア. 6 エンドオブライフの時期にある子どもの理解と看護. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア, 第1版, 南江堂, 208-220, 2022.

[学会発表抄録]

53. Higashitsuji, A., Majima, T. (2022, May 23). Intervention tool for palliative care among general registered nurses of cardiovascular ward. *European Journal of Cardiovascular Nursing ACNAP congress 2022*, Madrid, Spain & Online, DOI: 10.1093/eurjcn/zvac060.071
54. Sawada, Y., Nakamura, N., Amemiya, A., Nakashima, Y., Yuguchi, A., Watanabe, T., & Takatani, T. (2022, July 11-15). *Thermographic images of previous insulin infusion sites showing hypothermic area: a case report*. 44th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBC), Glasgow, England.
55. Nakai, A. (2022, Sep 7-10). *The respiratory pattern of preterm infants and the mother's perception at the CA of 33-37 weeks: a case report*. National Neonatal, Advanced Practice & Mother Baby Nurses Conferences, Palm Springs, California, USA.
56. Matsuzawa, A., Sato, N., Nakazuru, A., & Looman, W. (2022, October 18-19). *Developing Japanese version of the social capital scale for families raising children with chronic health conditions: Focusing on linguistic validation*. 7th International Research Conference of World Academy of Nursing Science, Taipei, Taiwan.
57. Suzuki, S.*, Sato, N., & Miyazaki, M. (2022, October 20-21). *The process of maternal experiences for pregnant women living in disaster areas: a qualitative study*. 7th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, Taipei, Taiwan.
*5年一貫制博士課程修了
58. Ohashi, A., Komuro, K., Numaguchi, C., Sato, N., Hara, A., & Kato, R. (2022, October 20-21). *Disaster prevention education for challenged children using ICT teaching materials*. 7th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, Taipei, Taiwan.
59. Amos, T. N., Okada, S., Nishio, J., Inuyama, A., Iida, K., Yumoto, A., Yu, W., & Suwa, S. (2022, November 30). *Considerations for implementation of autonomous care robots in a Japanese nursing home: an action research*. 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health Research Network (AQUHN) Conference, 53. Hong Kong Special Administrative Region of the People's Republic of China.
60. Tsuruzoe, H., & Masujima, M. (2022, November 30). *Literature review on the post-discharge experience of patients with LARS after sphincter-preserving surgery for rectal cancer in Japan*. The 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health

Research Network (AQUHN) Conference, Abstract No. 874, Hong Kong Special Administrative Region of the People's Republic of China.

61. Amos, T. N., Nishio, J., Ogawa, T., & Okada, S. (2022, 12. 3-4). *Relationship between oxidative stress and severity of diabetic foot ulcers*. 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 広島.
62. Matsuzawa, A., Yoshizawa, G., Torimoto, Y., Masaki, Y., & Sato, N. (2023, March 10-11). *Comparing child-rearing values among fathers and mothers raising children with disabilities in Japan using Q-methodology*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo.
63. Sato, M., Sato, N., & Miyazaki, M. (2023, March 10-11). *Literature review: The impact of snow damage on daily life and health in Japan*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo.
64. Tanaka, S., Saiki, M., & Takemura, Y. (2023, March 10-11). *Exploring factors related to discharge support practices: secondary analysis of cross-sectional study data*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo.
65. Okamura, M., Ogawa, T., & Okada, S. (2023, March 10-11). *Characteristics and experiences of Japanese cervical cancer -screening examinees: a mixed method study*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo.
66. Matsuyama, N. (2023, March 10-11). *End-of-life experiences of patients with hematopoietic malignancies*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo.
67. 森貞敦子, 栗田直央子, 黒田光恵, 川上直子, 水野芳子, 仁尾かおり, 山崎啓子, 内海加奈子, 中村伸枝, 檜垣高史, 西村あをい (2022, 6.24-26). 小児を対象とした診療科に通院する成人期の小児期発症慢性疾患患者の通院及び入院に関する思いと要望. 第 69 回日本小児保健協会学術集会, 津市.
68. 藤岡乙美*, 土肥真輔, 羽賀靖子, 熊坂マユミ, 小山香織, 稲葉有紀, 明石菜穂子, 葛西友香, 北崎彩奈, 河村陽子 (2022). 回復期リハビリテーション病棟における看護部 ICT の構築と活用. 日本老年看護学会第 27 回学術集会抄録集, 148.
*修士課程修了
69. 藤田冬子, 辻村真由子, 村松真澄, 黒河内仙奈, 伊藤裕佳, 福井小紀子, 酒井郁子 (2022). 特別養護老人ホーム等における入居者のエンドオブライフを支えるケアプロセスとの様相. 日本老年看護学会第 27 回学術集会抄録集, 170.
70. 佐野唯*, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2022). 長期フォローアップ受診における小児がん経験者の判断と行動化の過程. 日本小児看護学会第 32 回学術集会抄録集, 110.
*博士前期課程修了
71. 長橋由実香*, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2022). 造血幹細胞移植を受けた学童期から青年期にある小児がん経験者における退院後の身体調整と健康管理. 日本小児看護学会第 32 回学術集会抄録集, 111.
*博士前期課程修了
72. 鈴木佳澄*, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2022). 白血病を経験した小中学生とその保護者の学校生活に向けた準備と退院後の調整. 日本小児看護学会第 32 回学術集会抄録集, 113.
*博士前期課程修了
73. 栗田直央子, 森貞敦子, 黒田光恵, 川上直子, 水野芳子, 仁尾かおり, 山崎啓子, 内海加奈子, 中村伸枝, 西村あをい (2022). 成人を対象とした診療科に通院・入院する小児期発症の慢性疾患患者の親の思いと要望. 日本小児看護学会第 32 回学術集会講演集, 126.
74. 平塚克洋, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2022). 思春期・青年期胆道閉鎖症患者が自ら療養生活を整えていくための患者と親へのケアガイドラインの開発. 日本小児看護学会第 32 回学術集会抄録集, 127.
75. 橋本美穂, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2022). 食物アレルギーのある中学生の社会的食事場面におけるヘルスリテラシー促進に向けたプログラムの教材開発. 日本小児看護学会第 32 回学術集会抄録集, 130.
76. 今田寛, 高谷具純, 雨宮歩, 湯口梓, 沢田佳志乃, 中島由紀子, 渡邊朋, 中村伸枝, 濱田洋通 (2022). 当院管理中の 1 型糖尿病患児における SAP デバイス装着部位に関する検討. 第 27 回日

- 本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会プログラム・抄録集, 59.
77. 沢田佳志乃, 中村伸枝, 雨宮歩, 湯口梓, 木村八恵, 中島由紀子, 渡邊朋, 今田寛, 高谷具純 (2022). 持続皮下インスリン注入療法をおこなう児が自覚する皮膚の乾燥状態と QOL の関連. 第 27 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会プログラム・抄録集, 61.
 78. 田中慎吾, 武村雪絵, 佐伯昌俊 (2022). 病棟看護師による退院患者受け入れ先施設スタッフへの視点取得尺度の開発. 第 26 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 235.
 79. 佐伯昌俊, 武村雪絵, 國江慶子 (2022). 看護職者と看護補助者が共に看護補助者役割の認識を共有する介入プログラムの効果検証. 第 26 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 240.
 80. 岡田忍 (2022). 感染防御のしくみと看護ケア. 第 22 回日本感染看護学会学術集会講演集, 19.
 81. 石橋みゆき, 雨宮有子, 佐藤奈保, 坂上明子, 高橋良幸, 栞田一真 (2022, 8.27-28). 自然災害からの回復・復興と災害に強い地域づくりに向けた住民と支援者とのパートナーシップ形成過程. 第 25 回地域看護学会学術集会, 富山.
 82. 雨宮有子, 石橋みゆき, 佐藤奈保, 坂上明子, 高橋良幸, 栞田一真 (2022, 8.27-28). 自然災害からの回復・復興と災害に強い地域づくりに向けた住民と外部専門家のパートナーシップ形成の要素. 第 25 回地域看護学会学術集会, 富山.
 83. 秋田伸介, 増島麻里子, 武居昌宏, 三川信之 (2022). 下肢リンパ浮腫皮膚色と静脈異常の関連についての研究. 第 6 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 75.
 84. 小川良磨, 大池玲子, 佐藤睦, 武居昌宏, 増島麻里子 (2022). リンパ浮腫診断器開発に向けたリンパ浮腫患者の浮腫早期発見に関する意識調査-KJ 法による分析-. 第 6 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 78.
 85. 小野可夢偉, 小池黎明, 宮崎悠, 増島麻里子, 小川恵子, 津村徳道 (2022). 3D カメラによるリンパ浮腫患者の患部の周径計測におけるサポート技術の提案. 第 6 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 79.
 86. 臼井智子, 眞嶋朋子 (2022). 短期間で看取りを迎えた患者と家族に対する救急医療機関の一般病棟における看護援助. 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 27.
 87. 飛田洋輔*, 眞嶋朋子, 佐野元洋 (2022). 食道がん術後患者の全人的苦痛に対する看護実践. 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 28.
*博士前期課程修了
 88. 湯澤奈緒子*, 仲井あや, 中村伸枝 (2022). 早産児を出産した母親が子どものサインを読み取る過程に影響を及ぼす要因についての文献検討. 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 29.
*看護学部卒業
 89. 小川華歩*, 中水流彩, 中村伸枝 (2022). 小児アトピー性皮膚炎をもつ幼児後期の患児のセルフケアと母親の関わりを高めるための看護援助. 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 39.
*看護学部卒業
 90. 室伏香里*, 中水流彩, 中村伸枝 (2022). 思春期の炎症性腸疾患患児の服薬に関わる看護師が抱く思いと行動. 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 40.
*看護学部卒業
 91. 東辻朝彦, 岡田将, 金城芽里, 藤澤陽子, 田口奈津子, 佐野元洋, 眞嶋朋子, 増島麻里子, 小林欣夫 (2022, 9.24-25). 循環器内科・緩和ケア科・看護大学院・病院看護部の協働による心不全アドバンス・ケア・プランニング外来の取り組み. 第 70 回日本心臓病学会学術集会, 京都.
 92. 東辻朝彦, 佐野元洋, 永田絵理香 (2022, 10.1-2). 心不全患者のアドバンス・ケア・プランニング外来における体験. 第 19 回日本循環器看護学会学術集会, 大阪.
 93. 板垣瑞穂, 一戸美紀, 増嶋宏行, 中水流彩 (2022). 先天性心疾患により段階的に手術を行う患児の、母親が抱く入院中の不安と看護師の関わり. 第 40 回千葉県看護研究学会抄録集, 26-28.
 94. 東辻朝彦, 岡田将, 小池俊光, 大塚勇平, 津村徳道, 佐野元洋, 金城芽里, 小林欣夫, 眞嶋朋子 (2022, 10.15-16). 心臓機能評価のための人工知能を用いた歩行分析ソフトウェアの開発. 第 10 回看護理工学会, 東京.
 95. 小西美樹, 仲井あや, 中村典子, 上原和代 (2022). 世界と一緒に創る新生児看護の未来 (企画: 日本新生児看護学会国際交流委員会). 第 31 回日本新生児看護学会学術集会講演集, 17.

96. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022, 12.3-4). 看護系大学教員を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島.
97. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022, 12.3-4). 看護管理者および中堅看護者を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島.
98. 田中慎吾, 佐伯昌俊, 武村雪絵 (2022, 12.3-4). 病棟看護師による退院患者受け入れ先施設スタッフへの視点取得と退院支援実践の関連の検討. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島.
99. 松澤明美, 鳥本靖子, 眞崎由香, 佐藤奈保 (2022, 12.3-4). 障がいのある子どもの父親の子育て観: Q方法論による予備的研究. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島.
100. 中村伸枝, 水野芳子, 奥朋子, 川西智美, 眞嶋朋子, 仲井あや (2022, 12.3-4). 新型コロナウイルス感染症拡大のなかでの専門看護師の活動. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島.
101. 水野芳子, 仁尾かおり, 山崎啓子, 中村伸枝, 黒田光恵, 森貞敦子, 栗田直央子, 川上直子 (2022, 12.3-4). 小児期発症慢性疾患患者への小児診療科における成人期移行支援の現状. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島.
102. 内山優花, 松下あかね, 根本結真, 内海加奈子, 小暮貴代, 佐藤奈保 (2022). 在宅腹膜透析管理のこどもをもつ養育者の在宅移行後とライフイベントによる思いやストレスの変化. 第43回日本小児腎不全学会学術集会抄録集, 58.
103. 橋本美穂*, 中村伸枝, 佐藤奈保 (2023, 1.28). 食物アレルギーのある中学生を対象としたADDIEモデルによる「社会的食事場面におけるヘルスリテラシーを高める」学習会プログラムの実践報告. 第47回千葉県小児保健協会総会・学術集会, 千葉市.
*博士後期課程修了
104. 松井美佐保*, 依田智未, 増島麻里子 (2023). 緩和ケア病棟における看護師の倫理的ジレンマへの対処に関わるカンファレンスの意義. 第37回日本がん看護学会学術集会講演集.
*博士前期課程修了
105. 細羽祐依*, 楠潤子, 増島麻里子 (2023). がんに罹患した母親がソーシャルサポートを得て母親役割を再構築していく体験. 第37回日本がん看護学会学術集会講演集.
*博士前期課程修了
106. 岡村望有, 岡田忍 (2023). 子宮頸がん検診受診者の受診経験. 第37回日本がん看護学会学術集会講演集, 93.
107. 中村伸枝, 水野芳子, 奥朋子, 川西智美, 眞嶋朋子, 仲井あや (2023, 3.19). 新型コロナウイルス感染症拡大のなかで施設や職種が異なる専門職と協働する専門看護師の活動と文化的視点. 第15回文化看護学会学術集会抄録集, 31.
108. 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, 酒井郁子 (2023). IPE 最終段階プログラム終了後の Interprofessional アイデンティティ. 第15回文化看護学会学術集会抄録集, 32.

[シンポジウム・招聘講演]

109. 増島麻里子 (2022). 第6回日本リンパ浮腫治療学会学術総会 招聘講演 Short Lecture: 廃用性・末期. 第6回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 15.
110. 小林成光* (2022, 9.3). 第28回千葉看護学会学術集会 理事会企画シンポジウム: ガイドラインの開発過程から紐とく臨床での活用. (オンライン).
*博士後期課程修了
111. 東辻朝彦 (2022, 9.17-18). 第27回日本臨床死生学会学術集会 シンポジウム: 心不全患者が命を終えたいと言ったとき～心不全の多様性・特殊性を考える～. 東京.
112. 東辻朝彦, 岡田将, 金城芽里, 藤澤陽子, 田口奈津子, 佐野元洋, 眞嶋朋子, 増島麻里子, 小林欣夫 (2022). 第70回日本心臓病学会学術集会 パネルディスカッション「終末期医療を考える: アドバンス・ケア・プランニングの導入における現状と課題」: 循環器内科・緩和ケア科・看護大学院・病院看護部の協働による心不全アドバンス・ケア・プランニング外来の取り組み, 第70回日本心臓病学会学術集会抄録集, O-22-2.

113. 酒井郁子 (2022, 5.21). 公益社団法人地域医療振興協会 NP・NDC 研修センター JADECOM 特定行為研修修了者の育成配置活用に関する WEB シンポジウム「診る」と「見る」の力をつけた看護の可能性ー特定行為研修修了者の活用ガイドラインの提案 講演 3: 特定行為研修修了者の活用ガイドラインの紹介. (オンライン).
114. 酒井郁子 (2022, 8.5). 第 54 回日本医学教育学会 特別シンポジウム 多職種連携教育の潮流とそのインパクトー今後の展望と可能性: 総合大学必修積み上げ型 IPE の運営拠点としての専門職連携教育研究センターの課題と展望. G メッセ群馬.
115. 酒井郁子 (2022). 第 20 回日本神経理学療法学会学術大会 共催シンポジウムⅣ (日本看護科学学会共催)身体性変容から生きにくさを探る: 「回復期にある脳卒中患者の生きにくさの様相とケア」. 23.
116. Sakai, I., & Sun, J. (2022). Chiba University Inohana IPE: Challenges, Prospects, and Impact. 2022 年度 東京都立大学健康福祉学部・教育改革事業記念 多職種連携教育(IPE)国際シンポジウムー世界と日本の IPE の 20 年、これまでの変遷とこれからの進化を探るー. (オンライン).
117. 酒井郁子, 大島拓, 島田陽子, 佐伯昌俊, 西宮岳 (2023, 3.10). 千葉大学特定行為研修シンポジウム: 特定行為研修修了看護師のさらなる活用にむけて. (オンライン).
118. Sakai, I. (2023, March 10-11). Workshop 1 Promoting implementation of Evidence-Based Practice: Asian JBI Centre Initiatives. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS conference, 2023, Tokyo.

〔受賞(国内・国外)〕

119. 第 19 回日本循環器看護学会学術集会最優秀演題賞. (国内)
東辻朝彦, 佐野元洋, 永田絵理香 (2022). 心不全患者のアドバンス・ケア・プランニング外来における体験.
120. 第 42 回日本看護科学学会学術集会優秀演題口頭発表賞. (国内)
水野芳子, 仁尾かおり, 山崎啓子, 中村伸枝, 黒田光恵, 森貞敦子, 栗田直央子, 川上直子 (2022). 小児期発症慢性疾患患者への小児診療科における成人期移行支援の現状.

〔その他〕

121. 来生奈巳子, 岩崎美和, 佐藤奈保, 西田志穂, 山田咲樹子, 野村智実 (2022). [テーマセッション 2] 新型コロナウイルス感染症流行下における新人看護師への小児看護教育の現状と今後の展望. 日本小児看護学会第 32 回学術集会抄録集, 85.
122. 市原真穂, 荒木暁子, 及川郁子, 河上智香, 熊谷智子, 小林瑞穂, 佐藤奈保, 西田みゆき (2022). [テーマセッション 6]子どもと家族のニーズの変化から考える小児看護領域の中での高度実践看護. 日本小児看護学会第 32 回学術集会抄録集, 89.
123. 仁尾かおり, 西田みゆき, 野間口千香穂, 小柴梨恵 (2022). [テーマセッション 18]小児慢性疾患をもつ子どもの保育園・幼稚園への就園支援を考えよう. 日本小児看護学会第 32 回学術集会抄録集, 101.
124. 小林京子, 入江亘, 上原章江, 佐藤奈保, 新家一輝, 浅野みどり (2022). [テーマセッション 21]COVID-19 パンデミック下における子どもの療養生活: 看護師の思い・経験を共有しよう. 日本小児看護学会第 32 回学術集会抄録集, 104.
125. 酒井郁子, 北川裕利, 中井智子, 山下祐貴, 藤谷茂樹, 鈴木靖子, 山本則子, 山本武志, 西宮岳, 佐伯昌俊 (2022). インフォメーション・エクステンヂ, 複数の特定行為研修修了者を組織に導入し活用するためのガイドの紹介. 第 26 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 203.
126. 荒木暁子, 佐藤奈保, 西田みゆき, 市原真穂, 熊谷智子, 小林瑞穂, 川上智香 (2022). [インフォメーション・エクステンヂ 33]小児医療の集約化、混合病棟化の中で子どもたちの療養環境を守る. 第 26 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 219.
127. 岡田忍: 令和 3 年度日本感染看護学会教育セミナー. 優れた感染看護の実践を共有するためにー実践活動報告における量的データの分析ー.
128. 辻村真由子, 石丸美奈, 島田美紀代, 佐野元洋, 島村敦子, 湯本品代, 河井伸子, 佐々木ちひろ,

- 内藤知佐子 (2022). 交流集会. 学生の学びの深化と心理的安全性を保证するシミュレーション教育の実践. 千葉看護学会第 28 回学術集会.
129. 深堀浩樹, 福井小紀子, 森恵美, 桶水理恵, 五十嵐歩, 大江真琴, 大久保暢子, 柏木公一, 小池智子, 小玉淑臣, 酒井郁子, 新福洋子, 武村雪絵, 友滝愛 (2022, 12.3-4). 交流集会. 看護学研究の発展を目指して: 大型研究の準備・マネジメント・組織づくりから学ぼう! 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 広島.
 130. 増島麻里子 (2022). 文部科学省 DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業講演. 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護.
 131. 増島麻里子 (2022). 厚労省委託事業ライフプランニングセンター リンパ浮腫研修 E-LEARN 講義. リンパ浮腫予防指導.
 132. 増島麻里子 (2022). 一般社団法人キャンサーフィットネス Workshop. 医療機関への相談—医療とつながる、伝える—.
 133. 増島麻里子 (2022). NPO 法人キャンサーネットジャパン第 18 期 BEC 乳がん体験者コーディネーター養成講座. アドバンス・ケア・プランニング.
 134. 酒井郁子 (2022). 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医療教育センター運営会議. 医療教育センター運営会議への参加および専門職連携教育に関するコンサルテーション. (オンライン).
 135. 酒井郁子 (2022). 東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル. 質管理 I.
 136. 酒井郁子 (2022). 千葉県看護協会 令和 4 年度生涯教育計画に基づく研修会. 「高齢者の起こりやすい機能低下と生活適応を支える看護」. (オンライン).
 137. 酒井郁子 (2022). 藤田医科大学アセンブリ教育センター アセンブリ教育ワークショップ特別講演. 「段階的・系統的な専門職連携教育の到達目標と評価方法」および全体講評. 藤田医科大学豊明キャンパス.
 138. 酒井郁子 (2022). 茨城県きぬ看護専門学校 茨城県看護教員連絡会講演. 「専門基礎教育での IPE の実際と課題」. ホテルグランド東雲 (茨城).
 139. 酒井郁子 (2022). 横浜市立大学医学科・看護学科 合同 FD. 「多職種連携教育」講師. (オンライン).
 140. 酒井郁子 (2022). 群馬大学大学院 第 9 回群馬大学 IPE トレーニング 2022. 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース 講師. (オンライン).
 141. 酒井郁子 (2022). 千葉県看護協会 第 21 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル. 「統合演習 II」講師.
 142. 酒井郁子 (2022). 岩手県看護協会 令和 4 年度訪問看護事業所・医療機関等に勤務する看護職員の相互研修. 岩手看護研修センター.
 143. 酒井郁子 (2022). 千葉大学医学部附属病院第 3 回看護師長研修. 「成果が出せるチームとして機能するためのリーダーシップとメンバーシップの発揮」.
 144. 酒井郁子 (2022). 金沢医科大学病院キャリア支援センター 令和 4 年度特定行為研修フォローアップ事業. 「特定行為研修修了看護師が活躍するために」(WEB セミナー)特定行為研修修了看護師の組織的配置・活用ガイドの概説.
 145. 酒井郁子 (2022). 東京都看護協会 職能 II 委員会の研修会. 特定行為制度の基本的な理解と修了者の活用～看護管理者の役割～講師. (WEB ライブ)
 146. 酒井郁子 (2022). 回復期リハビリテーション病棟協会 2022 年度回復期リハ看護師認定コース. 第 15 期 講師. 「看護とリハビリテーションの考え方」「QOL の考え方と評価」「生活の再構築と自立支援」. (オンライン).
 147. 酒井郁子 (2022). 介護施設看護力推進事業. 高齢者施設で働く看護部門の責任者のマネジメント. 青森県看護協会. (オンライン).
 148. 酒井郁子 (2022). 東京都看護協会 東京都受託事業 令和 4 年度東京都看護師等キャリアアップ支援事業. 「特定行為研修修了者の活動を支える組織的配置と仕組みづくり」講師. (オンライン).
 149. 酒井郁子 (2022). 神奈川県看護協会 令和 4 (2022)年度介護保険施設等看護研修Ⅲにおける講師. 「介護保険施設での看護管理者としての役割と責務」. (オンライン).

150. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. 専門職連携の基礎的知識.
151. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. チームについて.
152. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修. 専門職連携の基礎知識.
153. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修. IPE カリキュラムマネジメント基礎編.
154. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修. IPE 組織改革.
155. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修. 実践編①職種間の理解.
156. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修. 実践編②チーム内の効果的なコミュニケーション.
157. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修. 実践編③チームワークの促進スキル.
158. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修. 実践編④他職種カンファレンス.
159. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修. 実践編⑤対立の解決.
160. 酒井郁子 (2022). 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種共同研修. 多職種連携に必要な考え方と基礎的知識.
161. 佐野元洋 (2022). 特定非営利活動法人 千葉医師研修支援ネットワーク主催 第14回 在宅に役立つ心不全セミナー (基本編).
162. 酒井郁子 (2023). 北関東救急看護協会「北関東救急看護研究会」教育セミナー. 救急看護領域の特定行為と看護師の役割拡大.
163. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPW マネジメント研修実践編. プロジェクトの基本的知識と進捗管理.
164. 酒井郁子 (2023). 京都府病院協会・京都府立医科大学医学部看護学科 看護実践キャリア開発センター共催 看護師特定行為研修セミナー「特定行為看護師としての役割開発と発展を目指して」. 特定行為研修修了者の配置・活用.

高齢社会実践看護学講座

〔原著〕

1. 姚利, 石井優香*, 山崎由利亜, 石橋みゆき, 正木治恵 (2022). 在留中国人高齢者の健康に関する思い—中国人が集まる地域活動に参加する対象者に焦点を当てて. 文化看護学会誌, 14(1), 21-30.
*博士後期課程修了
2. Musgrave-Takeda, M., Ishibashi, M., & Masaki, H. (2022). The experience of being a spouse of a person with dementia in respect to their marital relationship in Japan. *Dementia*, 21(6), 2020-2034. <https://doi.org/10.1177/14713012221107529>
3. 辻育恵, 石橋みゆき, 山崎由利亜, 正木治恵 (2022). 患者会に所属するパーキンソン病を持つ高齢者にとっての社会参加の意味. 日本難病看護学会誌, 27(1), 64-75.
4. Sugama, J., Ishibashi, M., Ota, E., Kamakura, Y., Saitoh, E., Sanada, H., Nakayama, T., Nomura, T., Yamada, M., Nakagami, G., Sato, N., Shibata, S., Hase, T., Fukada, J., Miki, T., Arita, M., Urai, T., Okawa, Y., Kitamura, A., Dai, M., Takahashi, T., Tamai, N., Tobita, I., Noguchi, H., Matsumoto, M., Miura, Y., Mukai, K., Mugita, Y., Yoshida, M., Kurachi, M., Shirasaka, T., & Yamane, Y. (2022). Japanese clinical practice guidelines for aspiration and pharyngeal residual assessment during eating and swallowing for nursing care. *Japan Journal of Nursing Science*, DOI: 10.1111/jjns.12496

5. 段曉楠, 山崎由利亜, 正木治恵 (2022). 日本の病院における高齢者のエンドオブライフケア質指標の作成とその内容の妥当性の検討. 千葉看護学会会誌, 28(1), 23-34.
6. 藤村眞紀, 石橋みゆき, 佐々木ちひろ, 山崎由利亜, 正木治恵 (2022). 特別養護老人ホームに入所している認知症を有する高齢者の家族との面会の有り様. 千葉看護学会会誌, 28(1), 1-10.
7. 伊東(小笠原)真理*, 正木治恵 (2022). 高齢者の過去の背景に関する情報共有ツールの開発—看護師間における活用に焦点を当てて—. 千葉看護学会誌, 28(1), 109-116.
*博士後期課程修了
8. 劉彦*, 正木治恵, 高橋良幸 (2022). 糖尿病患者の生活全体のバランス. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 26(2), 111-119.
*博士後期課程修了
9. Saito, T., Yamada, T., Miyauchi, Y., Emoto, N., & Okajima, F. (2022). Use of the Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment to estimate cognitive decline in patients aged 75 years or older with and without type 2 diabetes mellitus. *J Nippon Med Sch*, 89(2), 196-202.
10. 西村多寿子, 高橋宙矢, 福島宥平, 小松正, 石橋みゆき, 中山登志子, 池崎澄江 (2022). 医学英語のオンラインツール利用で英語発音は向上するのか: シャドーイング演習を含む教育介入の効果検証. 日本医学英語教育学会会誌, 31(3), 78-86.
11. 深澤友里, 石井優香*, 正木治恵 (2023). 介護老人福祉施設における認知症高齢者のセルフケアを捉えるためのケア提供者の関わり. 千葉看護学会会誌, 28(2), 91-100.
*博士後期課程修了
12. 近藤絵美*, 正木治恵 (2023). 一般病棟看護師に対する「豊かな存在としての高齢者のあり様」に着目したリフレクションシートの開発. 千葉看護学会会誌, 28(2), 81-90.
*博士後期課程修了
13. 江藤祥恵, 河田萌生, 綿貫茂明, 坂井志麻, 石橋みゆき, 立原怜, 小長谷百絵, 菅原峰子, 金盛琢也, 亀井智子 (2023). 認知症及び認知機能低下を有する入院高齢者への多職種退院支援の有効性. 老年看護学, 27(3), 35-46.

〔論文等(査読あり)〕

14. 楊惠晴, 正木治恵 (2022). 台湾の集中治療室における終末期患者の意思決定支援に関する文献検討. 文化看護学会誌, 14(1), 39-47.
15. 栢田一真, 正木治恵 (2022). 在宅高齢者の HOME の意味に関する文献レビュー. 文化看護学会会誌, 14(1), 48-56.
16. 清水なつみ, 栢田一真, 石橋みゆき, 正木治恵 (2022). 看護学基礎教育における災害看護教育の実態調査—web シラバス調査から—. 日本看護学教育学会誌, 32(1), 55-63.
17. 坂本明子 (2023). 心不全終末期患者への end-of-life ケアの明確化 (第一報): 看護師のケアの移行に関する判断内容. 日本循環器看護学会誌, 18(1), (印刷中).
18. 姚利, 正木治恵, 石井優香* (2023). 日本に長期在住する中国人高齢者の健康管理—地域で自立した生活を送る 1 事例の語りより—. 日中医学, 37(4), 26-32 (日本語), 55-60 (中国語).
*博士後期課程修了
19. 段曉楠, 河井伸子, 山崎由利亜, 小野年弘, 正木治恵 (2023). 高齢者ケアにおけるセンサーと IoT 機器の使用に関する文献検討—日本語, 英語, 中国語のデータベースを用いて—. 日本看護科学会誌, (印刷中).
20. 須釜淳子, 石橋みゆき, 大田えりか, 鎌倉やよい, 才藤栄一, 真田弘美, 中山健夫, 野村岳志, 山田雅子, 仲上豪二郎, 佐藤直子, 柴田斉子, 長谷剛志, 深田順子, 三鬼達人, 有田弥棋子, 浦井珠恵, 大川洋平, 北村言, 臺美佐子, 高橋聡明, 玉井奈緒, 飛田伊都子, 野口博史, 松本勝, 三浦由佳, 向井加奈恵, 麦田裕子, 吉田美香子, 倉知雅子, 白坂誉子, 山根由起子 (2023). 摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン. 日本看護科学学会会誌, (印刷中).

〔論文等(査読なし)〕

21. 正木治恵 (2023). 巻頭言雑感: これからの日本老年看護学会に向けて. 老年看護学, 27(2), 3-4.

22. 正木治恵 (2023). 総説 1. これからの老年看護学研究への期待. *Geriatric Medicine*, 61(3), 187-191.

〔報告書〕

23. 黒田久美子: 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター 令和4年度シンポジウム報告書 激動の時代における看護系大学教員の次世代育成.
https://www.n.chiba-u.jp/center/static/pdf/training/symposium_hokoku_r4.pdf, 2022

〔単行書〕

24. 山崎由利亜: 第I章 2C. 老年期における死. 谷本真理子, 増島麻里子(編), エンドオブライフケア: その人にとっての最善をめざして, 初版, 南江堂, 24-25, 2022.
25. 石橋みゆき: 第II章 死をとりまく社会状況 2. 死を迎える場所とかかわる人たち. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア: その人にとっての最善をめざして, 南江堂, 35-41, 2022.
26. 小野年弘: コラム 臨床において代諾者がいない人の意思決定を支援する. 谷本真理子, 増島麻里子(編), エンドオブライフケア: その人にとっての最善をめざして, 初版, 南江堂, 113, 2022.
27. 佐々木ちひろ: 第VIII章 事例で学ぶエンドオブライフケア 2. 療養場所の移行における調整と連携. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア: その人にとっての最善をめざして, 南江堂, 165-174, 2022.
28. 正木治恵: 第I章 老年看護学を理解するための基盤 1. 人間の一生と発達. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第4版, 南江堂, 2-6, 2023.
29. 正木治恵: 第I章 老年看護学を理解するための基盤 3. 老いを生きることの意味. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第4版, 南江堂, 12-17, 2023.
30. 正木治恵: 第I章 老年看護学を理解するための基盤 4. 高齢者を介護する家族の理解 2. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第4版, 南江堂, 67-71, 2023.
31. 野口美和子, 正木治恵: 第II章 老年看護の理念と目標 1. 老年看護の理念. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第4版, 南江堂, 88-91, 2023.
32. 正木治恵: 第II章 老年看護の理念と目標 2. 老年看護の目標. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第4版, 南江堂, 92-94, 2023.
33. 正木治恵: 第IV章 老年看護の対象理解 1. 対象特性. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第4版, 南江堂, 152-158, 2023.
34. 山崎由利亜: 第IV章 老年看護の対象理解 2. 対象理解のための5つの側面 A. からだ. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改定第4版, 南江堂, 159-161, 2023.
35. 山崎由利亜: 第IV章 老年看護の対象理解 2. 対象理解のための5つの側面 C. 暮らし. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改定第4版, 南江堂, 166-168, 2023.
36. 佐々木ちひろ: 第IV章 老年看護の対象理解 2. 対象理解のための5つの側面 E. 生きがい. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第4版, 南江堂, 168-173, 2023.
37. 山崎由利亜: 第V章 対象把握のためのアセスメント 1. 対象理解のための5つの側面の把握 A. からだの把握. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改定第4版, 南江堂, 188-190, 2023.
38. 山崎由利亜: 第V章 対象把握のためのアセスメント 1. 対象理解のための5つの側面の把握 D. 暮らしの把握. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改定第4版, 南江堂, 194-196, 2023.
39. 佐々木ちひろ: 第V章 対象把握のためのアセスメント 1. 対象理解のための5つの側面の把握 E. 生きがいの把握. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護学テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第4版, 南江堂, 196-198, 2023.
40. 石橋みゆき: 第V章 対象把握のためのアセスメント 4. 介護を必要とする高齢者の家族のアセス

メント. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改定第 4 版, 南江堂, 218-223, 2023.

41. 正木治恵: 第VI章 高齢者の健康の維持・回復への支援 1. 豊かな生の創出支援. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第 4 版, 南江堂, 226-230, 2023.
42. 黒田久美子: 第VI章 高齢者の健康の維持・回復への支援 3. セルフケア能力の維持・向上への支援. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改定第 4 版, 南江堂, 236-239, 2023.
43. 正木治恵: 第VI章 高齢者の健康の維持・回復への支援 4. 健康問題の予測と予防への支援. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第 4 版, 南江堂, 240-245, 2023.
44. 佐々木ちひろ: 第VII章 高齢者の療養生活の支援 5. 介護保険施設に入居している高齢者の看護. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第 4 版, 南江堂, 287-292, 2023.
45. 石橋みゆき: 第X章 生かし生かされる地域づくり 4. 災害に備える. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改定第 4 版, 南江堂, 370-373, 2023.
46. 正木治恵: 第XI章 老年看護学の課題 2. 老年看護学の教育・研究の発展. 正木治恵, 真田弘美(編), 看護テキストシリーズ NiCE 老年看護学概論, 改訂第 4 版, 南江堂, 381-385, 2023.

[学会発表抄録]

47. Yang, H. C., & Masaki, H. (2022, April 21-22). *Evaluation of a practice guide to decision-making focusing on the comfort of terminally ill older adults in Intensive Care Units.* The 25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference 2022, Taiwan. (online).
48. Yamasaki, Y., & Masaki, H. (2022, June 12-16). *Adaptation issues of using the Environmental Assessment Tool-Higher Care (EAT-HC) in care and nursing homes for older adults in Japan.* 22nd World Congress of Gerontology and Geriatrics IAGG 2022 Proceedings of the Conference Abstracts, 183. (online).
49. 黒田久美子, 清水安子, 内海香子 (2022, 9.17-18). 認知症レディネス向上につながる慢性疾患外来における取り組み. 日本糖尿病教育・看護学会誌 26 巻特別号.
50. 橋本祐子, 原田和子, 黒田久美子, 内海香子, 梶野美保, 佐藤果苗, 高橋良恵, 中村美幸, 桃坂真由美 (2022, 9.17-18). どうしたらいいの? 地域で生活するインスリンを使用する高齢糖尿病患者の支援. 日本糖尿病教育・看護学会誌 26 巻特別号.
51. 小野年弘, 段暁楠, 正木治恵 (2022, 6.25-7.25). 高齢者ケア施設への介護ロボット及び AI 導入に関する国内外のガイドラインの検討—倫理的・法的・社会的課題を中心に. 第 27 回日本老年看護学会学術集会抄録集, 166. (online).
52. 段暁楠, 小野年弘, 正木治恵, (2022, 6.25-7.25). 高齢者ケアで活用しているセンサーと IoT 機器に関する文献検討. 日本老年看護学会第 27 回学術集会抄録集, 166. (online).
53. 石井優香*, 正木治恵 (2022, 6.25-7.25). 一般病棟における看護師の認知症ケア困難場面ワークシートの開発—有用性の検討—. 日本老年看護学会第 27 回学術集会抄録集, 102. (online).
*博士後期課程修了
54. 石橋みゆき, 中山登志子, 池崎澄江, 植田満美子, 西村多寿子 (2022). シャドーイングを含むオンライン学習支援ツールを用いた看護専門英語教育の効果. 第 32 回日本看護学教育学会学術集会講演集, 121.
55. 雨宮有子, 石橋みゆき, 佐藤奈保, 坂上明子, 高橋良幸, 栢田一真 (2022, 8.27-28). 自然災害からの回復・復興と災害に強い地域づくりに向けた住民と外部専門家のパートナーシップ形成の要素. 日本地域看護学会第 25 回学術集会, 富山市.
56. 石橋みゆき, 雨宮有子, 佐藤奈保, 坂上明子, 高橋良幸, 栢田一真 (2022, 8.27-28). 自然災害からの回復・復興と災害に強い地域づくりに向けた住民と支援者のパートナーシップ形成過程. 日本地域看護学会第 25 回学術集会, 富山市.
57. 太倉瑞代, 前澤善朗, 小野啓, 正木治恵 (2022). FGM を併用し CSII 療法を行っている後期高齢 1

- 型糖尿病患者に対する効果的なセルフケア支援. 日本糖尿病教育・看護学会誌 26 巻特別号, 141.
58. 石井彩, 石橋みゆき, 黒田久美子, 正木治恵 (2022). インスリン療法を継続する高齢糖尿病患者への外来看護援助ー認知機能低下の疑いを契機とした支援の展開ー. 日本糖尿病教育・看護学会誌 26 巻特別号, 139.
 59. 工藤郁香, 佐々木ちひろ, 正木治恵 (2022). 新型コロナウイルスの感染予防行動・活動自粛が地域で暮らす高齢者にもたらした日常生活上の変化. 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 23.
 60. 吉田佳世, 石橋みゆき, 正木治恵 (2022). 看護職者がケアを通して捉える認知症高齢者のその人らしさ, 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 38.
 61. 伊東明莉*, 山崎由利亜, 正木治恵 (2022, 8.27-9.18). 2 型糖尿病患者が糖尿病と向き合う過程における看護師の関わり. 千葉看護学会第 28 回学術集会, 千葉市. (online).
*看護学部卒業
 62. 西川裕理, 坂井志麻, 大西知子, 岩崎孝子, 長江弘子, 高井ゆかり, 石橋みゆき (2022). 介護保険施設入所者の入退院支援プロセスにおける本人の意向をつなぐかかわり. 日本エンドオブライフケア学会誌第 5 回学術集会抄録, 6(2), 159.
 63. Yang, H. C., & Masaki, H. (2022, October 18-19). *Feasibility of a practical guide to decision-making focusing on the comfort of terminally ill older adults in the Intensive Care Unit*. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2022, Taipei, Taiwan.
 64. Yao, L., Yang, H. C., Masaki, H., & Zhou, W. (2022, October 18-19). *Chinese older adults' perspective of home care: A systematic review and meta-ethnography of qualitative studies*. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science 2022, Taipei, Taiwan. (online).
 65. Ono, T. (2022, November 11-12). *Should adult guardians in Japan exercise their right to consent to vaccination against COVID-19?* 19th International Scientific Conference of the International Society for Clinical Bioethics, Okayama, Japan. (online).
 66. 小野年弘, 佐々木ちひろ, 正木治恵 (2022, 11.19-20). 成年後見人等が抱える身上保護業務における困難感. 第 34 回日本生命倫理学会年次大会予稿集, 63. 西宮市.
 67. 正木治恵, 楊惠晴, 坂口葵*, 山崎由利亜, 三宅徳久 (2022, 12.3-4). ICT 等テクノロジー活用による高齢者ケアモデルの開発に向けたニーズ調査. 第 42 回日本看護科学学会学術集会 2022, 広島市.
*特任研究員
 68. 山崎由利亜, 楊惠晴, 正木治恵, 坂口葵*, 三宅徳久 (2022, 12.3-4). 認知症を有する高齢者のための長期ケア施設の環境調査に関する事例報告ーEAT-HC の視点を活用して. 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 広島市.
*特任研究員
 69. 坂井志麻, 大西知子, 西川裕理, 岩崎孝子, 石橋みゆき, 高井ゆかり, 長江弘子 (2022, 12.3-4). 介護保険入所者の入退院支援プロセスにおける病院・施設間連携の課題. 第 42 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 42, O62-2.
 70. 石橋みゆき, 小山田恭子, 池田真理, 田中幸子, 西垣昌和, 野村陽子 (2022, 12.3-4). 看護基礎教育の政策教育プログラム開発に向けたフォーカスグループインタビュー調査結果報告. 第 42 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 42, O2-3.
 71. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022, 12.3-4). 看護系大学教員を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果. 第 42 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 71, O8-1.
 72. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022, 12.3-4). 看護管理者および中堅看護者を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果. 第 42 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 124, O56-4.
 73. Haida, K., & Masaki, H. (2023, March 10-11). *Home-visit nursing focusing on the meaning of home among older people living alone with chronic diseases*. 26th East Asian Forum of Nursing

Scholars 2023, Tokyo, Japan. (in press).

74. Okura, M., Maezawa, Y., & Masaki, H. (2023, March 10-11). *Nursing care in an adult patient with Werner syndrome guided by insights from the patient's experience: a case study*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, Japan. (online).
75. Ishimaru, A., Ishibashi, M. (2023, March 10-11). *Build a discharge support system using the checklist in the ophthalmology outpatient department of an acute hospital in Japan*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, Japan. (online).
76. 立石順久, 石橋みゆき, 岩崎寛, 黒田久美子 (2023, 3.10-11). 学部教養教育としての「災害シチズンサイエンス演習」の報告—音声 SNS アプリを用いた防災まち歩きによる地域防災への理解と関与を深める試み. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会, O38-7, 盛岡市.
77. マスグレイブ武田美果, カズノブ・ダビッド, 楊惠晴, 正木治恵 (2023, 3.19). 多文化対応ケアコミュニケーションツールの開発における文献レビュー. 第 15 回文化看護学会学術集会, 21, 千葉市.
78. 吉田佳世, 石橋みゆき, 正木治恵 (2023, 3.19). 保健師が認知症高齢者の個人の文化的側面を捉えて援助する様相. 第 15 回文化看護学会学術集会, 25, 千葉市.

〔受賞(国内・国外)〕

79. 第 27 回日本糖尿病教育看護学会 27th JADEN AWARD
石井彩, 石橋みゆき, 黒田久美子, 正木治恵 (2022). インスリン療法を継続する高齢糖尿病患者への外来看護援助—認知機能低下の疑いを契機とした支援の展開—. 第 27 回糖尿病教育・看護学会誌 26 巻特別号, 139.
80. 第 42 回日本看護科学学会学術集会優秀演題抄録賞
石橋みゆき, 小山田恭子, 池田真理, 田中幸子, 西垣昌和, 野村陽子 (2022). 看護基礎教育の政策教育プログラム開発に向けたフォーカスグループインタビュー調査結果報告. 第 42 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 42, O2-3.

〔その他〕

81. 黒田久美子: 2022 年度千葉県看護協会研修. (認定看護管理者教育課程セカンドレベル)組織管理論 II.
82. 正木治恵: 2022 年度千葉県看護協会研修. No.33 地域における看取りを考える～在宅・介護施設における看取り～.
83. 黒田久美子: 2022 年度東京都看護協会研修. 看護にいかすりフレクシオン—リフレクシオンで看護の質を向上させる—.
84. 黒田久美子: 駒沢女子大学看護学部 FD. FD マザーマップの基本的な考え方と活用法.
85. 大倉瑞代: 第 13 回肥満症総合治療セミナー. 術後の管理とフォローアップ「看護師の役割」.
86. 小野年弘: 第 9 回釧路生命倫理フォーラム. 看護倫理におけるケアリング理論とはなにか?.
87. 正木治恵: 滋賀医科大学 令和 4 年度大学院 FD 研修会.
88. 石橋みゆき: 青森県立保健大学 看護学科 FD 研修会. 大学におけるキャリア形成教育とは.

健康増進看護学

〔原著〕

1. Tong, L., Tong, T., Noji, A., Kitaike, T., & Wang, X. (2022). Nurses' experiences of providing transcultural nursing care to minority patients in Yunnan province: A descriptive qualitative study. *Nursing & Health Sciences*, 24(3), 661-669.
2. Matsumura, A., & Amemiya, A. (2022). Verification of the feeling of heat and stuffiness in a medical full wig using each material inner cap: A randomized crossover trial. *Journal of Nursing Science and Engineering*, 10, 1-10. https://doi.org/10.24462/jnse.10.0_1

3. Kitagawa, Y., Amemiya, A., Ogata, H., Koshizaka, M., Shoji, M., Maezawa, Y., Akita, S., Mitsukawa, N., & Yokote, K. (2023). Quality of life in Werner syndrome and associated subjective foot/ankle symptoms: A cross-sectional survey. *Geriatrics & Gerontology International*, 23(3), 188-193.
<https://doi.org/10.1111/ggi.14541>
4. Mashida, Y., Fukahori, H., Ikezaki, S., & Fukui, S. (2023). Patterns of visiting nurse services for older adults in Japanese residential facilities: A latent class analysis. *Geriatrics & Gerontology International*, (in press).
5. Takemura, Y., Inoue, M., Ichikawa, N., Kida, R., Koyanagi, H., Ikezaki, S., & Ikeda, M. (2022). Key strategies for managing nursing care under the COVID-19 pandemic: A multiple-case study of nursing directors. *Journal of Nursing Management*, 30(8), 4042-4053.
6. Ishikawa, T., Sakai, I., Amemiya, A., Komatsu, R., Sakuraba, S., & Isono, S. (2022). Long-term body weight change assessed by non-contact load cells under the bed in older people with and without eating assistance: a preliminary study. *Scientific Reports*, 12(1), 8107-8107.
7. Iwata, H.*, Mori, E., Maehara, K., Kimura, K., Toyama, F., Kakehashi, A., Seki, M., Abe, S., & Kosaka, M.* (2023). Preventive interventions for paternal perinatal depression: a scoping review protocol. *BMJ Open*, 13(3), e065126. doi: 10.1136/bmjopen-2022-065126
*本研究院特任教員
8. 中村伸枝, 雨宮歩, 中島由紀子*, 仲井あや, 下屋聡平 (2022). 持続皮下インスリン注入療法を行う1型糖尿病のある小児・青年の皮膚トラブルとスキンケア. 千葉看護学会会誌, 27(2), 21-29.
*博士前期課程修了
9. 芥田ゆみ, 池崎澄江, 北池正 (2022). 病院に所属する専門看護師・認定看護師による在宅看護を支援する活動の実態と要因. 日本看護管理学会誌, 26(1), 21-31.
10. 田原裕希恵, 雨宮歩, 加瀬竜太郎, 北川柚香, 小笠原定久, 加藤直也, 小宮山政敏 (2022). 切除不能な肝細胞がん患者を対象とした Hand-foot skin reaction -発生の実態手と足の違いに着目して-. 日本がん看護学会誌, (印刷中).
11. 西村多寿子, 高橋宙矢, 福島宥平, 小松正, 石橋みゆき, 中山登志子, 池崎澄江 (2022). 医学英語のオンラインツール利用で英語発音は向上するのか: シャドーイング演習を含む教育介入の効果検証. 日本医学英語教育学会会誌, 31(3), 78-86.
12. 楊貴, 小宮山政敏 (2022). 植物を用いた食卓の装飾が食事環境の印象および食欲と食事満足度に及ぼす影響. 千葉看護学会会誌, 28(1), 57-65.
13. 榎あさな, 森恵美, 岩田裕子* (2022). 妊娠期にバースプランを作成して出産をした女性の経験. 日本母性看護学会誌, 22(2), 9-16.
*本研究院特任教員
14. 北村美紀*, 森恵美, 前原邦江 (2022). 生後4か月までの双子の親の子育てにおけるソーシャル・サポート体験. 日本母性看護学会誌, 23(1), 9-16.
*博士前期課程修了
15. 遠山房絵, 森恵美, 岩田裕子*, 前原邦江, 木村佳代子, 榎あさな (2023). 助産師の実践するリモート立会い出産のケアの提供方法とその課題. 日本母性看護学会誌, 23(2), 25-33.
*本研究院特任教員

〔論文等(査読あり)〕

16. Kitagawa, K., Umeda, M.*, Nakashima, Y.**, Kawano, M.*, & Amemiya, A. (2022). Formal pump heel height affects the external force exerted on the foot during normal walking. Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society. *IEEE Engineering in Medicine and Biology Society. Annual International Conference*, 1797-1800.
*看護学部卒業, **博士前期課程修了
<https://doi.org/10.1109/EMBC48229.2022.9870998>
17. Matsumura, A., Amemiya, A., Minowa, T., & Ichida, M. (2022, July 11-15). Study of alarm

threshold for assumed nasogastric tube self-removal action using the contact sensor system. *2022 44th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBC)*, 4249-4252. <https://doi.org/10.1109/EMBC48229.2022.9871854>

18. 榊原のぞみ*, 池崎澄江 (2022). 大学病院の脳神経内科病棟看護師における拡大代替コミュニケーション (Augmentative and Alternative Communication)の認知度. 日本看護科学会誌, 42, 385-390.

*博士前期課程修了

19. 路璐, 北池正, 池崎澄江 (2023). 病院内の看護研究を指導する看護職のための教育プログラムの開発と妥当性の検証. 千葉看護学会誌, 28(2), 1-9.

〔論文等(査読なし)〕

20. 池崎澄江 (2022). 多様化する高齢者向け住まいの現状—サービス付き高齢者向け住宅とグループホームを中心に. コミュニティケア, 20(12), 50-54.
21. 雨宮歩 (2023). 看護理工学アプローチによる臨床課題解決法を考える. 週刊医学界新聞(看護号), 第 3507 号.

〔報告書〕

22. 雨宮歩, 松村彩: ICT で身体拘束を減らす—医療用カテーテル自己抜去システムの開発—. 2020 年度研究助成 公益財団法人 三井住友海上福祉財団 研究結果報告書集, 2022.
23. 雨宮歩, 有松夏子: 外来化学療法を受ける消化器がん患者の身体活動量と日常生活行動の実態. 第 3 回 SGH がん看護研究助成報告書集, 2023.

〔単行書〕

24. 池崎澄江: 第 II 章 1. 日本における終末期医療・ケア. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト Nice エンドオブライフケア, 初版, 南江堂, 28-34, 2022.
25. 池崎澄江: 第 2 章 3. エンドオブライフケアに関連した社会状況と医療制度. 長江弘子(編), 看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア, 第 2 版第 3 刷, 32-43, 2022.
26. 北池正: 第 6 章 健康管理と方法. 野尻雅美, 北池正(編), 最新保健学～公衆衛生・疫学～改訂第 2 版, 真興交易(株)医書出版部, 135-140, 2023.
27. 北池正: 第 8 章 成人の健康管理. 野尻雅美, 北池正(編), 最新保健学～公衆衛生・疫学～改訂第 2 版, 真興交易(株)医書出版部, 162-176, 2023.
28. 北池正: 第 11 章 家庭における健康管理. 野尻雅美, 北池正(編), 最新保健学～公衆衛生・疫学～改訂第 2 版, 真興交易(株)医書出版部, 222-237, 2023.
29. 北池正: 第 12 章 学校における健康管理. 野尻雅美, 北池正(編), 最新保健学～公衆衛生・疫学～改訂第 2 版, 真興交易(株)医書出版部, 240-254, 2023.
30. 前原邦江(訳): 受胎から誕生まで. Paul Moran, et al. (鮫島浩, 大月恵理子 監訳), みえる生命誕生 受胎・妊娠・出産. 改訂新版, 南江堂, 76-77, 94-95, 108-109, 128-129, 136-137, 146-147, 158-159, 166-167, 172-173, 2022.
31. 岩田裕子*(訳): 受胎から誕生まで. Paul Moran, et al. (鮫島浩, 大月恵理子 監訳), みえる生命誕生 受胎・妊娠・出産. 改訂新版, 南江堂, 74-75, 92-93, 106-107, 126-127, 134-135, 144-145, 156-157, 164-165, 170-171, 2022.

*本研究院特任教員

〔学会発表抄録〕

32. Maehara, K., Iwata, H.*, & Mori, E. (2022, November 30 - December 2). *Perceived social support for older primiparous women in the first 4 months postpartum during the COVID-19 pandemic in Japan*. 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health Research Network (AQUHN) Conference, Hong Kong. (Online).

*本研究院特任教員

33. Amemiya, A., Yokoh, H., Yamakawa, H., Go, H., Kase, R., Kitagawa, Y., Ono, H., & Yokote, K. (2022, July 11-15). *Evaluation of the effects of wearing suitable footwear on the prevention of callus formation*. 44th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), Glasgow, UK.
34. Takehashi, A., Mori, E., & Iwata, H.* (2022). *Differences between primipara and multiparous women's perception of birth plans*. The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Taiwan. (Online).
*本研究院特任教員
35. Arimatsu, N., Amemiya, A., Kitagawa, Y., Kawasumi, C.*, Nagasawa, T., Koike, R., & Tsumura, N. (2022, July 11-15). *Difference in autonomic balance in continued measurements using a conversational robot*. 44th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), Glasgow, UK.
*看護学部卒業
36. Sawada, Y., Nakamura, N., Amemiya, A., Nakashima, Y.*, Yuguchi, A., Watanabe, T., & Takatani, T. (2022, July 11-15). *Thermographic images of previous insulin infusion sites showing hypothermic area: a case report*. 44th Annual International Conference of the IEEE (EMBC), Glasgow, UK.
*博士前期課程修了
37. Kamimoto, T., Ikezaki, S. (2022, November 30-December 2). *The relationship between nurse characteristics and turnover intentions of Japanese home care nurses: A cross-sectional study*. 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health Research Network (AQUHN) Conference. (online).
38. Arimatsu, N., Amemiya, A., Hayano, K., Murakami, K., Toyozumi, T., Matsumoto, Y., Kurata, Y., & Matsubara, H. (2023, March 10-11). *Relationship between physical activity and patient characteristics during outpatient chemotherapy in upper gastrointestinal cancer patients*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Japan.
39. Kamimoto, T., Ikezaki, S., & Onishi, M. (2023, March 10-11). *Factors associated with home care nurse staff's intention to continue working: A cross-sectional study*. 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Japan.
40. Jiang, D., & Kitaike, T. (2023, March 10-11). *Issues for Chinese nurses in Japan to improve their nursing practice competence*. 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Japan.
41. Yang, G. & Komiyama, M. (2022, April 21-22). *Effects of plant decorations on appetite and meal satisfaction*. 25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference, Taipei, Taiwan.
42. Iwata, H.*, Seki, M., Mori, E., Maehara, K., Kimura, K., & Toyama F. (2023, March 10-11). *Paternal sleep and depressive symptoms during pregnancy: an actigraphic study*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Japan.
*本研究院特任教員
43. 雨宮歩 (2022). 新時代に向けた看護学との共創. 第61回日本生体医工学会大会, オーガナイズドセッション 新時代の健康ニーズに応える看護学と工学の共創, 新潟.
44. 遠山房絵, 森恵美, 前原邦江, 木村佳代子, 岩田裕子*, 棧あさな (2022). COVID-19 感染拡大下におけるリモート立会い出産の提供方法とその課題. 第24回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集, 39.
*本研究院特任教員
45. 北村美紀*, 森恵美, 前原邦江 (2022). 生後4か月までの双子の親の子育てにおけるソーシャル・サポート体験. 第24回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集, 45.
*博士前期課程修了
46. 関まりか, 森恵美, 前原邦江 (2022). 妊婦の身体活動を促す看護介入に関する文献レビュー. 第

- 24 回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集, 58.
47. 石橋みゆき, 中山登志子, 池崎澄江, 植田満美子, 西村多寿子 (2022). シャドーイングを含むオンライン学習支援ツールを用いた看護専門英語教育の効果. 第 32 回日本看護学教育学会学術集会講演集, 121.
48. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 銭淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022). 看護系大学教員を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果. 第 42 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 71.
49. 深堀浩樹, 福井小紀子, 森恵美, 涌水理恵, 五十嵐歩, 大江真琴, 大久保暢子, 柏木公一, 小池智子, 小玉淑巨, 酒井郁子, 新福洋子, 武村雪絵, 友滝愛 (2022). 看護学研究の発展を目指して: 大型研究の準備・マネジメント・組織づくりから学ぼう! 第 42 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 97, 広島.
50. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 銭淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022). 看護管理者および中堅看護者を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果. 第 42 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 124.
51. 藤田淳子, 辻村真由子, 河井伸子, 池崎澄江, 福井小紀子 (2022). 慢性疾患高齢者に対する訪問看護による療養生活支援の過程—訪問看護開始期に着目して—. 第 42 回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 137.
52. 沢田佳志乃, 中村伸枝, 雨宮歩, 湯口梓, 木村八恵, 中島由紀子*, 渡邊朋, 今田寛, 高谷具純 (2022). 持続皮下インスリン注入療法をおこなう児が自覚する皮膚の乾燥状態と QOL の関連. 第 27 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会プログラム・抄録集, 61.
*博士前期課程修了
53. 芥田ゆみ, 池崎澄江 (2022). 病院に所属する専門看護師・認定看護師による在宅ケアへの継続に焦点を当てた入退院支援に関する全国調査. 第 42 回日本看護科学学会学術集会講演集プログラム集, 141.
54. 加瀬竜太郎, 田中裕二, 高田雄貴, 小宮山政敏 (2022). 訪問看護ステーションに勤務する医療従事者の脱水状態と関連要因の予備的検討～健康的な職場を目指して～. 第 12 回日本在宅看護学会学術集会講演集, O12-5, 100.
55. 玉井萌佳*, 前原邦江 (2022). 不妊治療後の女性における母親役割獲得に関する文献レビュー. 第 40 回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集, 4.
*看護学部卒業
56. 今田朱音*, 森恵美, 木村佳代子 (2022). 助産学の教科書における性教育に関する記載の分析. 第 40 回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集, 4.
*看護学部卒業
57. 廣富紗雪*, 前原邦江, 森恵美 (2022). 男性不妊症患者の心理に関する文献レビュー. 第 20 回日本生殖看護学会学術集会, 東京. (オンライン).
*看護学部卒業
58. 今田寛, 高谷具純, 雨宮歩, 湯口梓, 沢田佳志乃, 中島由紀子*, 渡邊朋, 中村伸枝, 濱田洋通 (2022). 当院管理中の 1 型糖尿病患児における SAP デバイス装着部位に関する検討. 第 27 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会プログラム・抄録集, 59.
*博士前期課程修了
59. 湯口梓, 石井由美, 中嶋隆裕, 吉野有希子, 高橋明子, 遠藤健司, 仕子優樹, 川崎洋平, 雨宮歩, 中島裕史, 下条直樹 (2022). 新生児期の保湿を重視したスキンケア指導によるアトピー性皮膚炎予防効果の検証. 第 59 回日本小児アレルギー学会学術大会, 沖縄.
60. 北川柚香, 河野実桜*, 中島由紀子**, 梅田真帆*, 雨宮歩 (2023). 健常者の階段昇降時の前足部外力の軽減方法の検討. 第 3 回日本フットケア・足病医学会年次学術集会プログラム・抄録集, (印刷中).
*看護学部卒業, **博士前期課程修了
61. 有松夏子, 雨宮歩, 早野康一, 村上健太, 豊住武司, 松本泰典, 藏田能裕, 松原久裕 (2023). 外来化学療法を受ける上部消化器がん患者の日常生活活動の変化. 第 37 回日本がん看護学会学術集

会, 横浜.

62. 小宮山政敏, 佐野遥* (2023). 回内位の前腕における安全な皮静脈穿刺部位の検討. 第128回日本解剖学会総会・全国学術集会講演プログラム・抄録集, 3P-068.
*看護学部卒業

[シンポジウム・招聘講演]

63. 池崎澄江 (2022). 第5回日本エンドオブライフケア学術集会: 介護施設の看護職に求められること. 日本エンドオブライフケア学会誌, 6(2), 92.
64. 雨宮歩, 松村彩, 木村八恵, 箕輪隆城, 市田誠 (2022). パネルディスカッション 看工連携による“ものづくり”: 非拘束ケアの実現に向けて. 第10回看護理工学会学術集会, 東京.
65. 雨宮歩, 松村彩, 木村八恵, 箕輪隆城, 市田誠 (2022). パネルディスカッション 2 (日本看護科学学会・看護理工学会共同企画): 看護理工学アプローチによるケア機器開発. 第42回日本看護科学学会学術集会, PD-2, 広島.
66. 雨宮歩, 松村彩, 木村八恵, 箕輪隆城, 市田誠 (2023). 招待講演: 看護学研究者が実施している工学と看護学の異分野融合研究. 電子情報通信学会, 回路とシステム研究会, 東京.

[受賞(国内・国外)]

67. 2022年度千葉看護学会表彰論文(国内)
前原邦江, 岩田裕子*, 森恵美 (2022). Effectiveness of nursing guidelines when implementing postpartum care for older primiparas: A quasi-experimental intervention study. 高年初産婦に特化した看護ガイドラインの産後のケアの実装における効果: 準実験介入研究. 千葉看護学会会誌, 27(1), 43-50.
*本研究院特任教員

[その他]

68. 松村彩, 雨宮歩, 箕輪隆城, 市田誠 (2023). 経鼻経管栄養胃チューブ接触センサシート構造の検討と自己抜去想定動作の定量化. 公益財団法人千葉市産業振興財団主催 産学合同技術シーズ交流会, 千葉.
69. 木村八恵, 雨宮歩, 松村彩, 箕輪隆城, 市田誠 (2023). 接触検知センサの臨床における予備的検討. 公益財団法人千葉市産業振興財団主催 ビジネス交流会, 千葉.

[特許]

70. 山下(雨宮)歩, 松村彩, 市田誠, 箕輪隆城: 接触動作判断モジュール、及びこれを用いた生体接触検知装置. 出願番号 特願 2022-110849.

地域創成看護学講座

[原著]

1. Iida, K., Ryan, A., Hasson, F., Payne, S., & McIlfatrick, S. (2022). An exploration of the views of staff on cultural aspects of end-of-life care in Japanese long-term care facilities: A qualitative study. *Ageing and Society*, 1-23. <https://doi.org/10.1017/S0144686X22000307>
2. Kodate, N., Maeda, Y., Hauray, B., Tsujimura, M., Chan, W. C. H., Mannan, H., Yu, W., Dalgalarondo, S., Cheung, M. C., Yumoto, A., Suwa, S., Donnelly, S., Sakata, N., O'Shea, D., Obayashi, K., & Masuyama, S. (2022). Hopes and fears regarding care robots: Content analysis of newspapers in East Asia and Western Europe, 2001-2020. *Frontiers in Rehabilitation Sciences*, 3, 1019089. doi:10.3389/fresc.2022.1019089
3. Sato, T., & Ishimaru, M. (2022). Hypothetical model for on-the-job training through case conferences of public health nurses. *Public Health Nursing*, 39(6), 1334-1345.

<https://doi.org/10.1111/phn.13115>

4. Ishimaru, M., Nagata, A., Sato, T., Sakai, A., Suzuki, S., & Kubota, K. (2022). Developing an instructional design-based dementia education program. *Gerontology and Geriatric Medicine*, 8, 233372142211348. <https://doi.org/10.1177/23337214221134874>
5. Suzuki, S., Sato, N., & Miyazaki, M. (2022). Experiences of pregnant people affected by natural disasters: a qualitative systematic review protocol. *JBI Evidence Synthesis*, 20(9), 2312-2318. DOI: 10.11124/JBIES-21-00258
6. 高橋秀治, 石丸美奈 (2022). 壮年期独身男性の生活習慣病予防につながるセルフケア行動とソーシャルサポートの構造. 千葉看護学会誌, 28(1), 45-55.
7. 岩田尚子, 諏訪さゆり (2022). 外来化学療法を受ける高齢がん患者と共に訪問看護の導入を検討するための指針開発. 千葉看護学会誌, 28(1), 77-87.
8. 高橋秀治, 石丸美奈 (2023). 生活習慣改善プログラムにおいて壮年期男性に効果的なソーシャルサポートの内容: 質的文献レビュー. 千葉看護学会誌, 28(2), 1-8.
9. 佐藤優子, 石丸美奈, 鈴木悟子 (2023). 人々との関わりを通じた母子保健推進員の役割認識の特徴 - 母子保健推進協議会の役員経験者の役割認識の考察から - . 千葉看護学会誌, 28(2), 29-38.
10. 島村敦子, 諏訪さゆり, 兪文偉, 松島英介 (2023). 熟練訪問看護師の眼球運動に基づく観察の特徴 - 訪問看護熟練者, 初心者, 看護学生の眼球運動の比較 - . 日本在宅ケア学会誌, 26(2), 97-110.
11. 周璐, 諏訪さゆり (2023). 介護老人保健施設に入所している高齢者の睡眠の特徴と日常生活における影響因子. 千葉看護学会誌, 28(2), 19-27.
12. 石坂晴奈, 諏訪さゆり, 西村拓一, 押山千秋 (2023). 認知症高齢者の排泄における生活障害とケアに関する知識の構造化. 日本認知症ケア学会誌, (in press).
13. 湯本晶代, 諏訪さゆり (2023). レビー小体型認知症療養者への訪問看護ケア指針の開発 - デルファイ法による妥当性の検証 - . 日本認知症ケア学会誌, (in press).

〔論文等(査読あり)〕

14. 高橋秀治, 石丸美奈 (2023). 生活習慣改善プログラムにおいて壮年期男性に効果的なソーシャルサポートの内容: 質的文献レビュー. 千葉看護学会誌, 28(2), 1-8.
15. 佐藤優子, 石丸美奈, 鈴木悟子 (2023). 人々との関わりを通じた母子保健推進員の役割認識の特徴 - 母子保健推進協議会の役員経験者の役割認識の考察から - . 千葉看護学会誌, 28(2), 29-38.
16. 上原たみ子, 飯野理恵, 宮崎美砂子, 杉田由加里 (2023). 新興感染症確認後1年間の健康危機における市町村保健師の活動. 千葉看護学会誌, 28(2), 121-129.

〔論文等(査読なし)〕

17. 柴崎祐美, 湯本晶代 (2023). コロナ禍における老人クラブの活動と社会参加における役割. 法政大学多摩論集, 第39巻, 1-18.
18. 宮崎美砂子 (2023). 特集 大規模災害の“食べる”支援 - 多職種による実践報告と今後の展望 第1部各職種から 保健領域から - 災害時の地域マネジメントと連携促進. 臨床栄養, 142(3), 341-345.

〔報告書〕

19. 佐藤太二: 事例検討会における学習の構造モデルを活用した体系的な保健師のOJT推進を実現するためのガイドブックの作成. 2020年度 北野生涯教育振興会 生涯教育研究助成金 研究報告書, 2022.
20. 石丸美奈: 認知症との地域共生を実現するケアリング・コミュニティを協働デザインするためのツールの作成と検証: 地域活動プランニング・ゲーム. 公益財団法人科学技術融合振興財団報告書, 2023.
21. 宮崎美砂子, 尾島俊之, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 花井詠子, 井口紗織: 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)令和4年度

〔単行書〕

22. 湯本晶代: 事例で学ぶエンドオブライフケア 7 独居高齢者の在宅での看取りに向けたシステムづくりと看護. 谷本真理子, 増島麻里子(編), 看護学テキスト NiCE エンドオブライフケア その人にとっての最善をめざして, 株式会社南江堂, 221-231, 2022.
23. 諏訪さゆり: 第 4 章 III. 職場内教育(OJT)の実践-4. 認知症介護実践研修テキスト編集委員会(監修), 新訂・認知症介護実践リーダー研修標準テキスト, ワールドプランニング, 233-249, 2022.
24. 諏訪さゆり: 第 2 章 認知症のひとへの具体的支援のためのアセスメントとケアの実践. I. 学習成果の実践展開と共有. 認知症介護実践研修テキスト編集委員会(監修), 新訂・認知症介護実践者研修標準テキスト, ワールドプランニング, 165-170, 2022.
25. 宮崎美砂子: 第 1 章 公衆衛生看護学概論. 宮崎美砂子, 北山三津子他(編), 最新公衆衛生看護学総論. 第 3 版(2023 年版), 日本看護協会出版会, 2-24, 2022.
26. 宮崎美砂子: 第 2 章 地区活動論. 宮崎美砂子, 北山三津子他(編), 最新公衆衛生看護学総論. 第 3 版(2023 年版), 日本看護協会出版会, 122-145, 2022.
27. 宮崎美砂子: 第 4 章 公衆衛生看護学研究. 宮崎美砂子, 北山三津子他(編), 最新公衆衛生看護学総論. 第 3 版(2023 年版), 日本看護協会出版会, 322-358, 2022.
28. 宮崎美砂子: 第 3 章 公衆衛生看護管理活動論. 宮崎美砂子, 北山三津子他(編), 最新公衆衛生看護学各論 2. 第 3 版(2023 年版), 日本看護協会出版会, 194-217, 2022.
29. 石丸美奈: 第 1 章 発達段階の特性に応じた活動論 II 成人・高齢者保健福祉活動 1. 健康づくり活動 2. 生活習慣病予防活動. 宮崎美砂子他(編), 最新公衆衛生看護学. 第 3 版(2023 年版)各論 1, 日本看護協会出版会, 84-131, 2023.
30. 宮崎美砂子: 第 VIII 章 対象別にみた災害看護の実践 1 地域看護と災害. 酒井明子, 増野園恵(編), 災害看護. 改定第 4 版, 南江堂, 222-234, 2023.
31. 宮崎美砂子: III 地域看護の方法 4) コミュニティ支援の実践方法 (5) 健康危機管理. 木下由美子(編集代表), エssenシャル地域看護学. 第 2 版新カリキュラム対応, 医歯薬出版, 116-122, 2023.
32. 岡本聡美: 認知症のある高齢者の中核症状により生じる困難への看護. 泉キヨ子, 小山幸代(編), 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術, 第 4 版, 329-340, 2022.

〔学会発表抄録〕

33. 鈴木美央, 田上美千佳, 森千鶴 (2022). 統合失調症者の他者の意図理解の特徴と精神症状の関連-ヒント課題を用いた検討. 日本精神保健看護学会第 32 回学術集会. (オンライン).
34. 菊池敦子, 鈴木美央 (2022). 精神科急性期病棟における服薬自己管理アセスメントシートの有用性の検証. 日本精神保健看護学会第 32 回学術集会. (オンライン).
35. 小林信, 神澤尚利, 寺岡征太郎, 寺田美樹, 須藤公裕, 本武敏弘, 則村良, 田上美千佳, 細谷真由, 葛島慎吾 (2022. 6.13). 精神力動論を活用した看護ケア: 事例を読み解きながら. 日本精神保健看護学会第 32 回学術集会. (オンライン).
36. Tsujimura, M., Kodate, N., Suwa, S., Yu, W., Kitinoja, H., Ide, H., Ishimaru, M., & Shimamura, A. (2022, Jun 6-10). *Exploring expectations and concerns regarding home-care robots among older people in Japan*. Royal Anthropological Institute. (online).
37. 村田涼子 (2022, 6.11-12). 新型コロナ禍でのせん妄対応の実践報告. 第 8 回日本医療安全学会学術総会抄録集, 78. (浜松)
38. Ishimaru, M., Sato, T., Ushio, Y., Iwase, S., Suzuki, S., Sakai, A., Isomura, S., Saito, M., & Murakami, Y. (2022, June 21-22). *Caring community oriented approach in the local community setting: A scoping review*. The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference, Växjö, Sweden. (online).
39. Miyazaki, M., Iino, R., Ishimaru, M., Sugita, Y., Sato, N., Tokita, R., Suzuki, S., Sakai, A., Sato, T., Kurisu, C., & Tsuchiya, H. (2022, June 21-22). *Developing components of on-the-job training for public health nurses to promote preventive activities*. The 7th International Collaboration

- for Community Health Nursing Research Conference, Växjö, Sweden. (online).
40. Sato, T., & Ishimaru, M. (2022, June 21-22). *Implementation strategies for promoting on-the-job training for public health nurses through case conferences: Literature review*. The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference, Växjö, Sweden. (online).
 41. Matsuura, M., Ishimaru, M., Suzuki, S., & Iwase, S. (2022, June 21-22). *The difficulties of engaging in social activities for Japanese adolescents requiring medical care at home*. The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference, Växjö, Sweden. (online).
 42. Iguchi, S. & Ishimaru, M. (2022, June 21-22). *Extraction of proposed items for post-traumatic growth index for municipal public health nurses experiencing natural disasters: A literature review*. The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference, Växjö, Sweden. (online).
 43. Yoshida, Y., Hoshiai, H., Ryu, M., & Ishimaru, M. (2022, June 21-22). *Public health nurses' perceptions about new staff education in service-learning*. The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference, Växjö, Sweden. (online).
 44. Takahashi, S. & Ishimaru, M. (2022, June 21-22). *The relationship among social support, help-seeking, and sense of coherence in unmarried middle-aged men: a multiple regression analysis*. The 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference, Växjö, Sweden. (online).
 45. 湯本晶代, 柴崎祐美 (2022, 6.18-10.31). コロナ禍における認知症対応型通所介護のサービス提供状況と利用者の心身の状態の変化. 日本認知症ケア学会誌, 21(1), 148. 第23回日本認知症ケア学会大会. (オンライン).
 46. 柴崎祐美, 湯本晶代 (2022, 6.18-10.31). コロナ禍における地域包括支援センターの認知症総合支援事業運営の動向. 日本認知症ケア学会誌, 21(1), 148. 第23回日本認知症ケア学会大会. (オンライン).
 47. 小川真紀 (2022, 7.23). コロナ禍でリカバリー志向とは何か考えるー精神科訪問看護に携わる私の体験ー. 第6回千葉県精神科リハビリテーション研究会. (オンライン).
 48. 湯本晶代, 柴崎祐美 (2022, 7.30-31). 通所介護事業所のコロナ禍での感染対策の実態と社会参加における役割. 第27回日本在宅ケア学会学術集会講演抄録集, 95.
 49. Suzuki, M., Tanoue, M., & Mori, C. (2022, August 3-6). *Development of a program for theory of mind and working memory in hospitalized schizophrenic patients*. 22nd WPA World Congress of Psychiatry. Bangkok, Thailand. (online).
 50. Tanoue, M., Hirabayashi, M., Watanabe, A., Suzuki, M., Okubo, S., & Katayama, T. (2022, August 3-6). *Developing guidelines for severe psychiatric outpatient care in Japan*. 22nd WPA World Congress of Psychiatry. Bangkok, Thailand. (online).
 51. Watanabe, A., Tanoue, M., & Hashimoto, Y. (2022, August 3-6). *Post-bereavement changes in people with dementia who have lost their loved ones*. 22nd WPA World Congress of Psychiatry. Bangkok, Thailand. (online).
 52. 渡邊紗帆*, 湯本晶代, 飯田貴映子, 諏訪さゆり (2022, 8.27-9.18). 認認介護世帯で見られる困難と訪問看護師の支援ー食事、排泄、内服、セルフケアに焦点を当ててー. 千葉看護学会第28回学術集会講演集, 24. (オンライン).
*看護学部卒業
 53. 原田千聡, 諏訪さゆり, 湯本晶代, 飯田貴映子 (2022, 8.27-9.18). 認知症高齢者の日常生活における訪問看護師の意思決定支援に関する倫理的困難感と対応. 千葉看護学会第28回学術集会講演集, 25. (オンライン).
 54. 北村昌子, 諏訪さゆり, 湯本晶代 (2022, 8.27-9.18). 社会参加をする認知症の人の支援過程から得た支援者の学び. 千葉看護学会第28回学術集会講演集, 26. (オンライン).
 55. 杉村美広, 諏訪さゆり, 島村敦子 (2022, 8.27-9.18). 初回家庭訪問における看護学生と訪問看護

熟練者の情報収集の特徴－観察と質問内容に焦点を当てて－. 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 37. (オンライン).

56. 小林明生* (2022, 8.27-28). 終末期がん患者の在宅移行に向けた家族支援の検討－家族の支援ニーズと病棟看護師の支援内容の比較を通して－. 日本看護研究学会第 48 回学術集会. (オンライン).

*看護学部卒業

57. 小田原美羽* (2022, 8.27-28). クライシスプランの活用の効果－事例介入研究の文献検討－. 日本看護研究学会第 48 回学術集会. (オンライン).

*看護学部卒業

58. 坂井文乃 (2022, 8.27-28). 乳児を育てる親の育児に対するヘルスリテラシー: 文献レビュー. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 148.

59. 鈴木悟子, 高橋秀治 (2022, 8.27-28). メタボリックシンドローム予備群・該当者の男性への生活習慣病予防のための支援の評価方法. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 183.

60. 松浦めぐみ, 石丸美奈, 鈴木悟子, 岩瀬靖子 (2022, 8.27-28). 在宅で生活する青年期にある医療的ケア者の日常生活の様相. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 183.

61. 丸山あかね*, 石丸美奈 (2022, 8.27-28). 離島で暮らす人々の健康に関する認識と行動の研究: 文献レビュー. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 190.

*研究生

62. 鈴木久美子*, 石丸美奈 (2022, 8.27-28). 地域包括支援センターにおける独居認知症高齢者の地域生活継続を目指した支援指針の内容妥当性の検証. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 210.

*博士後期課程修了

63. 石丸美奈, 牛尾裕子, 岩瀬靖子, 佐藤太一, 坂井文乃, 鈴木悟子, 斎藤美矢子, 村上祐里香 (2022, 8.27-28). 認知症との共生を目指した地域づくり活動協働デザイナー協働方法によるケアリングコミュニティモデル検討－. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 220.

64. 牛尾裕子, 石丸美奈, 斎藤美矢子, 岩瀬靖子, 佐藤太一, 坂井文乃, 鈴木悟子, 村上祐里香 (2022, 8.27-28). 認知症との共生を目指した地域づくり活動協働デザイナー活動成果によるケアリングコミュニティモデル検討－. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 221.

65. 井口紗織, 石丸美奈 (2022, 8.27-28). Covid-19 に関する保健活動を実施した保健師の専門職者としての成長: 文献レビュー. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 229.

66. 飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 杉田由加里, 石丸美奈, 時田礼子, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤太一, 栗栖千幸, 土屋裕子 (2022, 8.27-28). 予防活動の持続・発展のための地域看護実践の OJT の条件. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 255.

67. 橋口直子, 川上理英子, 高田睦月, 大窪恭子, 石井聡子, 勝山修行, 柳井秀勝, 鈴木美央 (2022). アドヒアランス不良の糖尿病患者への外来看護～ペプロウ看護論を活用した対象者に寄り添う関係づくり～. 第 27 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会抄録集, 147.

68. 鈴木美央, 田上美千佳, 森千鶴 (2022, 9.17-18). 統合失調症者の心の理論への介入についてのナラティブレビュー. 第 30 回精神科救急学会抄録集, 138.

69. 宮崎美砂子, 時田礼子, 奥田博子, 雨宮有子, 相馬幸恵, 藤原真里, 井口紗織 (2022, 10.7-9). 災害時保健活動における所属機関の異なる保健師間の連携. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 山梨市.

70. 時田礼子, 宮崎美砂子, 奥田博子, 雨宮有子, 相馬幸恵, 藤原真理, 井口紗織 (2022, 10.7-9). 災害時保健活動における地元関係団体との連携. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 山梨市.

71. 雨宮有子, 奥田博子, 宮崎美砂子, 時田礼子, 藤原真里, 相馬幸恵, 井口紗織 (2022, 10.7-9). 災害時の保健活動推進のための連携強化に資する体制(1)所属機関の異なる保健師間. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 山梨市.

72. 奥田博子, 雨宮有子, 宮崎美砂子, 時田礼子, 藤原真里, 相馬幸恵, 井口紗織 (2022, 10.7-9). 災害時の保健活動推進のための連携強化に資する体制(2)地元関係団体. 第 81 回日本公衆衛生学会総会, 山梨市.

73. Iguchi, S. & Ishimaru, M. (2022, October 18-21). *Examination of the content validity of the*

- draft of post-traumatic growth index items for public health nurses in disaster-affected areas.* The 7th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing Abstract book, 225.
74. Suzuki, S., Sato, N., & Miyazaki, M. (2022, October 20-21). *The process of maternal experiences for pregnant women living in disaster areas: A qualitative study.* The 7th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, 2022.
 75. 柴崎祐美, 湯本晶代 (2022, 11.13). コロナ禍における老人クラブの活動と社会参加における役割. 老年行動科学会第 24 回京都大会プログラム抄録集, 29.
 76. Yumoto, A. (2022, Nov 30-Dec 2). *Difficulties experienced by visiting nurses caring for people with dementia with Lewy bodies.* The 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health Research Network (AQUHN) Conference, Hong Kong, People's Republic of China. (online).
 77. Iida, K. (2022, Nov 30-Dec 2). *Palliative and end-of-life care educational needs for staff working in long-term care facilities: A qualitative study.* The 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health Research Network (AQUHN) Conference, Hong Kong, People's Republic of China. (online).
 78. Amos, T. N., Okada, S., Nishio, J., Inuyama, A., Iida, K., Yumoto, A., Yu, W., & Suwa, S. (2022, Nov 30-Dec 2). *Considerations for implementation of autonomous care robots in a Japanese nursing home: an action research.* The 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health Research Network (AQUHN) Conference, Hong Kong, People's Republic of China. (online).
 79. Sato, T., & Ishimaru, M. (2022, November 30- December 2). *Development of a model for on-the-job training through case conferences for public health nurses: A situation-specific theory.* The 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health Research Network (AQUHN) Conference, Hong Kong. (online).
 80. 吉田愛子*, 諏訪さゆり (2022). 認知症高齢者の家族介護経験を有する看護師の急性期病院における認知症看護の認識. 第 42 回日本看護科学学会学術集会講演集.
*博士前期課程修了
 81. 村田涼子, 鈴木美央, 田上美千佳 (2022, 12.3-4). 日本における終末期がん看護に携わる看護師の感情についてのスコーピングレビュー. 第 42 回日本看護科学学会学術集会. (オンライン).
 82. 佐藤太一, 石丸美奈 (2022, 12.17-18). 事例検討会による職場内教育 (On-the-Job Training) を体系的に推進するための体制づくりと進行管理: 質的記述的研究. 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 151.
 83. 星合裕美, 石丸美奈 (2022, 12.17-18). 中堅期保健師の人材育成に関する課題の焦点化: SWOT 分析を用いて一誇りを持ち, いきいきと中核的役割を担える保健師に育っていけるように. 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 151.
 84. 高橋秀治, 石丸美奈 (2022, 12.17-18). 壮年期独身男性のソーシャルサポートを活かした生活習慣改善支援指針案の評価: 適切性・内容妥当性の観点から. 第 11 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 218.
 85. Zhou, L., & Suwa, S. (2023, Mar 10-11). *Characteristics of objective sleep indexes for older people with dementia in a long-term care facility.* 26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS), Tokyo. (online).
 86. Ishizaka, H., & Suwa, S. (2023, Mar 10-11). *Review of structured knowledge in the medical and nursing care field.* 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo. (online).
 87. Sato, A., & Suwa, S. (2023, Mar 10-11). *A literature review: Characteristics of the family developmental issues children with acquired disabilities and their families need to deal with.* 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo. (online).
 88. Shimamura, A., Ishimaru, M., Akuta, Y., Tsujimura, M., Ide, H., Kodate, N., Yu, W., & Suwa, S. (2023, Mar 10-11). *Daily life of Japanese older people as measured by the Japan Science and*

Technology Agency Index of Competence (JST-IC). 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo. (online).

89. Suzuki, Y., Miyazaki, M., & Iino, R. (2023, March 10-11). *Competencies required of public health nurses in response to disaster cycles: A literature review in Japan*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo. (online).
90. Nagano, M., Suzuki, M., & Tanoue, M. (2023, March 10-11). *Difficulties and coping with discharge support for patients with schizophrenia in long-term care in Japan*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo, Japan. (online).
91. Ishimaru, M., Sato, T., Yoshida, Y., Iwase, S., Sakai, A., Iguchi, S., & Maejima, S. (2023, March 10-11). *Co-design card game for creating a place toward dementia-inclusive community: Initial challenges and expectations*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo, Japan.
92. Matsuura, M., & Ishimaru, M. (2023, March 10-11). *Decision-making of adolescents with medical care living-at-home to achieve independence in daily life in Japan*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo, Japan.
93. Iguchi, S., & Ishimaru, M. (2023, March 10-11). *Development of disaster health activity reflection program aimed at promoting posttraumatic growth for public health nurses in disaster areas*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo, Japan.
94. Sato, M., Sato, N., & Miyazaki, M. (2023, March 10-11). *The impact of snow damage on daily life and health in Japan*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo, Japan.
95. Uemura, N., & Miyazaki, M. (2023, March 10-11). *Characteristics of public health nurses capability to support community organization*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo, Japan.
96. 石丸美奈, 小館尚文, 村井早苗, 吉田靖代, 井口紗織, 佐藤太二, 岩瀬靖子, 坂井文乃 (2023, 3.19). カナダケベック州のケアリングコミュニティアプローチの原則と機能. 文化看護学会第15回学術集会抄録集, 30.

[シンポジウム・招聘講演]

97. 宮崎美砂子 (2022, 6.18). 長野県看護協会主催 2022 年度保健師職能集会. 【招聘講演】災害時保健活動体制の整備に向けた平時からの保健師としての心構え.
98. Suzuki, M., Tanoue, M., & Mori, C. (2022, August 3-6). 22nd WPA World Congress of Psychiatry: Development of a program for theory of mind and working memory in hospitalized schizophrenic patients. (online).
99. 辻村真由子, 石丸美奈, 鳥田美紀代, 佐野元洋, 島村敦子, 湯本晶代, 河井伸子, 佐々木ちひろ, 内藤知佐子 (2022, 9.3). 千葉看護学会第 28 回学術集会: 学生の学びの深化と心理的安全性を保障するシミュレーション教育の実践. 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 42, 2022. (オンライン).
100. 石丸美奈, 岩田裕子 (2022, 9.3). 千葉看護学会第 28 回学術集会: 実践と研究の往還: エビデンスを使う、広める、どう変わる? Evidence Based Nursing を推進する JBI の取り組み. 千葉看護学会第 28 回学術集会講演集, 6, 2022. (オンライン).
101. Miyazaki, M. (2022, September 19). The Faculty of Medicine, Public Health, and Nursing, Universitas Gadjah Mada, Indonesia. 【Guest Lecture】Community empowerment in disaster preparedness and response. (online).
102. 飯田貴映子 (2022, 10.1-10.2). 日本エンドオブライフケア学会第5回学術集会シンポジウム2 介護施設のエンドオブライフケアの質向上のために: 海外の緩和・エンドオブライフケアプログラムの紹介. 日本エンドオブライフケア学会誌, 6(2), 95.
103. Misako, M. (2022, December 7). 2022 Overseas Scholars Online Sessions, Shanghai Jiao Tong University School of Nursing (上海交通大学), 【招聘講演】Professional competencies in disaster nursing: Experiences of public health nurses in disaster preparedness and response in Japan.

(online).

104. 宮崎美砂子 (2023, 2.24). 厚生労働省主催 165 回市町村職員を対象とするセミナー, 市町村における災害体制構築の推進に向けて. 【招聘講演】都道府県と市町村間の連携・協働を促進する災害保健活動. (オンライン).

〔受賞(国内・国外)〕

105. 千葉看護学会第 28 回学術集会ポスター賞
杉村美広, 諏訪さゆり, 島村敦子. (2022, 8.27-9.18). 初回家庭訪問における看護学生と訪問看護熟練者の情報収集の特徴—観察と質問内容に焦点を当てて—.
106. 2022 年度千葉看護学会優秀論文賞
山下由香, 諏訪さゆり (2022, 9.3). 高齢者の不動による痛みの特徴—ケア提供者の語りから—.
107. 日本地域看護学会第 25 回学術集会優秀演題
石丸美奈, 牛尾裕子, 岩瀬靖子, 佐藤太一, 坂井文乃, 鈴木悟子, 斎藤美矢子, 村上祐里香 (2022, 8.27-28). 認知症との共生を目指した地域づくり活動協働デザイン—協働方法によるケアリングコミュニティモデル検討—. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 220.

〔その他〕

108. 諏訪さゆり: 2022 年度千葉県在宅医療スタートアップ事業ちば在宅医療ことはじめ. 認知症の人の自律と自立を支援する在宅ケア.
109. 諏訪さゆり: 千葉県主催委託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修. 認知症の人の理解とケア.
110. 諏訪さゆり: 令和 4 年度市川市認知症サポーターステップアップ講座. 認知症の人の思いの理解.
111. 村田涼子: エーザイ株式会社 医療安全 WEB 講演会. —睡眠薬適正使用を考える—当院における精神科リエゾンの取り組み～当院におけるせん妄対策～.
112. 村田涼子: エーザイ株式会社 医療安全 WEB 講演会. ～せん妄・不眠時対策と他職種連携～せん妄対策と不眠時の対応.
113. 村田涼子: 日本臨床医学リスクマネジメント学会 医療安全管理者養成研修. せん妄と医療事故.
114. 村田涼子: MSD 株式会社 精神科リエゾンチーム講演会. 当院の精神科リエゾンチームの取り組み ～チーム立ち上げのポイントと活動の実際～.
115. 宮崎美砂子 (2022, 5.30): 奈良県市町村看護職員協議会令和 4 年度第 1 回研修会 (オンライン開催). コロナ禍における保健活動～保健師の専門性とは～.
116. 田上美千佳 (2022, 7.23): 挨拶. 第 6 回千葉県精神科リハビリテーション研究会. (オンライン).
117. 石丸美奈 (2022, 8.9-29): 2022 年度千葉県新任期 II 保健師研修会前期 (WEB オンデマンド). 個別支援と地区診断.
118. 石丸美奈 (2022, 8.9-29): 2022 年度千葉県新任期 II 保健師研修会前期 (WEB オンデマンド). 地区組織・関係機関との連携による効果的な保健師活動の展開.
119. 石丸美奈 (2022, 8.9-29): 2022 年度千葉県新任期 II 保健師研修会前期 (WEB オンデマンド). 保健師としてのキャリア形成.
120. 田高悦子, 石丸美奈, 大森純子, 蔭山正子, 永田智子, 宮崎美砂子 (2022, 8.27-28): 【2021 年度理事会ワーキンググループ「次世代研究活動推進チーム」検討報告】「地域看護学」再定義 (日本地域看護学会, 2019)に基づく“2040 リサーチアジェンダ 24”の展開. 日本地域看護学会第 25 回学術集会講演集, 17.
121. 岩瀬靖子 (2022, 9.15): 市原市令和 4 年度災害時保健活動対応研修会. 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた災害時の保健活動について. 市原市保健センター.
122. Murai, S., Ishimaru, M., & Kodate, N. (2022, November 2): Public Seminar at The University of Montreal Hospital Research Centre (CRCHUM). 和-style Caring Community in Higashi-Chiba, Japan: In search of a community model which enables 'living the life we/elder people wish to live'.
123. 宮崎美砂子 (2022, 11.14): 江戸川区保健師研究会. 江戸川区. 健康危機管理における保健師活動.

124. 宮崎美砂子 (2022, 11.17): 令和 4 年度印旛郡市保健指導者研究会. 酒々井市. 災害時における保健活動について.
125. 宮崎美砂子 (2022, 11.21): 鹿児島県令和 4 年度管理期保健師研修会・新任期保健師指導検討会(オンライン開催). 講演 1: 組織における保健師の人材育成～管理期保健師の役割とマネジメント～. 講演 2: 効果的な OJT を実践するためのヒント～新任期保健師の理解と支援～.
126. 宮崎美砂子 (2022, 12.5): 世田谷区令和 4 年度災害時保健師活動研修会. 世田谷区. 首都災害に備えた平時の取り組みと受援力向上のポイント.
127. 宮崎美砂子 (2022, 12.16): 名古屋市令和 4 年度災害保健活動研修(オンライン開催). 災害時における統括保健師の役割.
128. 宮崎美砂子 (2022, 12.27): 一宮市保健師全体研修会(オンライン開催). 災害時に保健活動において求められるスタッフ保健師の役割～発災直後の初動に焦点を当てて～.
129. 宮崎美砂子 (2023, 1.6): 愛知県令和 4 年度災害時保健活動研修会. 名古屋市. 講義 1: 初動時の組織体制と災害時保健活動において求められるリーダー保健師の役割. 講義 2: 災害時の支援人材のマネージメント～応援派遣保健師等の受援に向けて～.
130. 宮崎美砂子 (2023, 1.23): 令和 4 年度横浜市保健師責任職全体研修. 横浜市. これからの保健師責任職に求められること.
131. 石丸美奈 (2023, 1.31): 2022 年度君津保健所管内研究会(オンライン開催). 君津保健所. 保健事業の評価方法の基本について.
132. 石丸美奈 (2023, 2.6): 2022 年度千葉県新任期Ⅱ保健師研修会後期. 千葉県教育会館. 住民活動の発展段階と必要な支援.
133. 成瀬昂, 板谷智也, 松永篤志, 松井理恵, 川崎涼子, 石丸美奈, 蔭山正子: LINE オープンチャット「地域看護の次世代を考えるグループ」開設の狙いと展望, 保健師ジャーナル, 79(1), 56-58.
134. 宮崎美砂子 (2023, 3.1): 千葉大学災害治療学研究所第 2 回ワークショップ. 千葉市. 大規模自然災害に対する地域の関係者間の連携～被災者の二次的健康被害を予防するために～.
135. 湯本晶代 (2023, 3.21): 全国 DLB (レビー小体型認知症)ケア研究会. アートフォーラムあざみ野. レビー小体型認知症の方の日常生活上の困りごと.

文化看護学

〔原著〕

1. 斉藤しのぶ, 飛世真理子, 和住淑子, 河部房子 (2022). 初めて模擬患者に対して看護過程を展開する場面における看護初学者の対象認識および表現の特徴. 日本看護学教育学会誌, 32(3-1), 1-13.

〔論文等(査読あり)〕

2. Shirasaki, K., Hifumi, T., Isokawa, S., Hashiuchi, S., Tanaka, S., Yanagisawa, Y., Takahashi, O., & Otani, N. (2022) Postintensive care syndrome-family associated with COVID-19 infection. *Critical Care Explorations*, 4(7):p e0725, July 2022. DOI: 10.1097/CCE.0000000000000725
3. 飛世真理子, 斉藤しのぶ, 山本利江 (2022). 学生の感染予防技術習得に微粒子可視化システムが与える影響. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 10, 89-96.

〔単行書〕

4. 斉藤しのぶ: 序章 腎・泌尿器疾患をもつ成人を理解するために. 要伸也(編), 新体系看護学全書 成人看護学⑦ 腎・泌尿器, 第 5 版, メヂカルフレンド社, 001-017, 2022.

〔学会発表抄録〕

5. Tobise, M., Saito, S., & Yamamoto, T. (2022, May 16). *The effects of a fine particle visualization system on students' acquisition of infection control skills - investigation of factors that make it difficult to acquire skills and support methods.* 5th World Congress on Nursing Education &

Health Care, Dubai, UAE.

6. 島野奨大, 田中亜実, 長瀬祐子, 関富昌子, 駒井瑞穂, 橋内伸介 (2022, 6.16-18). A 病院における点滴調整時の Personal protective equipment (PPE)装着の教育効果の検証. 第 37 回日本環境感染学会総会・学術集会, パシフィコ横浜.
7. 鏑木紗英*, 宇田川友佳, 飛世真理子, 斉藤しのぶ (2022). 看護学生が患者のニーズを把握し、かかわりの優先順位を判断する過程に生じる差異について. 千葉看護学会 第 28 回学術集会講演集, 43.
*看護学部卒業
8. 野村明日香*, 斉藤しのぶ, 飛世真理子 (2022). 新型コロナウイルス感染症流行に伴い臨地実習の代替として学内演習を経験した新人看護師の看護観の形成. 千葉看護学会 第 28 回学術集会講演集, 44.
*看護学部卒業
9. 菊池彩純*, 斉藤しのぶ, 飛世真理子 (2022). 学生時代にオンライン実習を経験した看護師が抱く自己効力感と困難の克服. 千葉看護学会 第 28 回学術集会講演集, 45.
*看護学部卒業
10. Tobise, M., Saito, A., & Saito, S. (2022, November 14-15). *Examining the nursing practice-related difficulties of new nurses who experienced on-campus training due to the COVID-19 crisis and how to overcome these difficulties.* World Nursing Education and Health care 2022, Rome, Italy.
11. Saito, A., Saito, S., & Tobise, M. (2022, November 14-15). *Literature review on case study meetings of nurses in Japan.* World Nursing Education and Health care 2022, Rome, Italy.
12. 飛世真理子, 斉藤しのぶ (2022). 病院に就業する臨地実習指導者の役割遂行下における看護実践. 第 42 回日本看護科学学会学術集会講演集, O1-04.
13. 斉藤しのぶ, 飛世真理子, 齊藤可紗, 和住淑子, 林恵里子, 河部房子, 高橋幸子, 山岸仁美 (2022). 対象の健康回復を目指した看護過程展開を目的としたシミュレーション演習の学習効果. 第 42 回日本看護科学学会学術集会講演集, P2-99.
14. 齊藤可紗, 斉藤しのぶ, 飛世真理子, 宇田川友佳 (2022). 病棟看護師の事例検討会における経験—事例への問題意識に焦点をあてて—. 第 42 回日本看護科学学会学術集会講演集, P8-07.
15. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022). 看護系大学教員を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果. 第 42 回日本看護科学学会学術集会講演集, O8-1.
16. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022). 看護管理者および中堅看護師を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学習効果. 第 42 回日本看護科学学会学術集会講演集, O56-4.
17. 金森正悟, 矢田紀子, 眞鍋佳嗣, 齊藤可紗, 飛世真理子, 斉藤しのぶ (2022). VR による看護教育アプリケーションの検討. 映像情報メディア学会 2022 年冬季大会. (オンライン).
18. 飛世真理子, 斉藤しのぶ, 齊藤可紗 (2023). COVID-19 流行に伴う基礎看護学実習中止によって代替えとなった学内演習の学習効果. 第 4 回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会, (印刷中).
19. 柳澤八恵子, 丸澤彩子, 近藤穂堯, 山崎麻衣, 曾我あゆみ, 中尾勇祐, 田中しのぶ, 瀧ヶ平拓哉, 安間布子, 橋内伸介 (2023). COVID-19 パンデミック下で高いモチベーションを維持した看護師の特徴～RN サーベイの分析から～. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, (印刷中).
20. Ikeda, Y., & Saito, S. (2023, March 10-11). *Effects of application of nursing theory on nursing process.* 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo, Japan. (in press).
21. Saito, A., Saito, S., & Tobise, M. (2023, March 10-11). *Reality of students' knowledge acquisition by flipped classroom in basic nursing education.* 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), Tokyo, Japan. (in press).

〔その他〕

22. 飛世真理子, 斉藤しのぶ, 齊藤可紗 (2022). 文部科学省: JVCampus (オンライン国際教育プラットフォーム事業)「見えないものを可視化する」. 当研究領域の研究紹介.
<https://mdl.jv-campus.org/course/view.php?id=40>

専門職育成学

〔原著〕

1. Shikino, K., Ide, N., Kubota, Y., Ishii, I., Ito, S., Ikusaka, M., & Sakai, I. (2022). Effective situation-based delirium simulation training using flipped classroom approach to improve interprofessional collaborative practice competency: a mixed-methods study. *BMC Medical Education*, 22(1), 1-11. <https://doi.org/10.1186/s12909-022-03484-7>
2. 植田満美子, 舟島なをみ, 中山登志子 (2022). 潜在看護師の離職から復職に至る過程—潜在看護師の経験の二次分析—. 千葉看護学会会誌, 28(1), 99-107.
3. 西村多寿子, 高橋宙矢, 福島宥平, 小松正, 石橋みゆき, 中山登志子, 池崎澄江 (2022). 医学英語のオンラインツール利用で英語発音は向上するのか—シャドーイング演習を含む教育介入の効果検証—. 日本医学英語教育学会会誌, 21(3), 78-86.
4. 野崎章子, 森内加奈恵, 小原泉, 吉村健佑 (2023). 特定機能病院有床精神科部門の特性—病床・医師数および地理的分布ならびに診療内容に関する記述的研究—. 総合病院精神医学, 35(1), 22-30.
5. 中山登志子, 舟島なをみ (2023). 看護学の修士論文指導に携わる教員が直面する問題の解明. 千葉看護学会会誌, 28(2), 39-47.
6. 泉澤清枝, 中山登志子 (2023). 学生が看護学実習の良否を決定づける基準—大学と専門学校の比較による基準の相違—. 千葉看護学会会誌, 28(2), 101-110.
7. 村井佳美*, 中山登志子, 植田満美子 (2023). 院内教育の講師を担当する看護職者が直面する困難と克服法—病院に就業し講師を担当する看護職者に着眼して—. 看護教育学研究, 32(1), 39-53.

*博士前期課程修了

〔論文等(査読なし)〕

8. 井出成美 (2022). 文化的視点からみた専門職連携教育—他職種を理解することとは—. 文化看護学会誌, 14(1), 58-62.
9. Rotzoll, D. E., Usui, I., & Sakai, I. (2022). Learning from one another: Comparing basic nursing and midwifery skills in Japan and Germany. *Journal of Medical English Education*, 21(3), 152-154.

〔報告書〕

10. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 臼井いづみ, 孫佳茹, 天井響子, 富永嘉子, 長谷川容佳, 佐野朋子: 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和4年度事業報告書, 2023.

〔単行書〕

11. 天井響子: 第13章 摂食障害・第18章 パニックおよび広場恐怖症. 川本哲也・喜入暁(編), 進化精神病理学, 福村出版, 2023.

〔学会発表抄録〕

12. Nosaki, A., & Noji, A. (2022, August 3-6). *A comparison of the descriptions of culture in the fields of psychiatry and nursing: a scoping review protocol*. 22nd WPA World Congress of Psychiatry, Bangkok, Thailand.
13. 石橋みゆき, 中山登志子, 池崎澄江, 植田満美子, 西村多寿子 (2022). シャドーイングを含むオンライン学習支援ツールを用いた看護専門英語教育の効果. 第32回日本看護学教育学会学術集

会講演集, 121.

14. 村井佳美*, 中山登志子, 植田満美子 (2022). 院内教育の講師を担当する看護職者が直面する困難と克服法—病院に就業し講師を担当する看護職者に着眼して—. 日本看護教育学会第 31 回学術集会講演集, 31(2), 10-11.
*博士前期課程修了
15. 森下裕咲子, 大浦祐矢, 小山博史, 臼井いづみ, 野村行弘, 中口俊哉 (2022). 多重課題シミュレーションに向けた目の応答による認知負荷量推定手法の検討. 第 21 回日本 VR 医学会学術大会プログラム・抄録集, 20.
16. 野地有子, 野崎章子 (2022, 8.27-9.18). 病院と看護の国際化ガイドラインの検討—国内外指針と看護職の経験知の集約から—. 千葉看護学会第 28 回学術集会. (オンライン).
17. 天井響子 (2022, 9.8-9.11). 中学 3 年間の学校適応変化と内的保護因子との関連. 日本心理学会第 86 回大会抄録集, 2PM-075-PO.
18. Fujiwara, N., Kohara, I., Yamamoto, M., Tamaki, S., Yabuki, M., Nakahama, H., Kojima, C., Nosaki, A., Tashiro, S., Yoshimura, K., & Fujiwara, K. (2022, October 17-19). *Development of learning program to nurses supporting patients' decision making in cancer clinical trials; the results of a 2nd-pilot study*. IACRN 14th Annual Conference, Atlanta, USA.
19. 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2022). 看護学部のカリキュラム改変が IPE の学習成果に与えた効果～学生の自己評価の分析から. 第 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 22.
20. 孫佳茹, 井出成美, 臼井いづみ, 朝比奈真由美, 飯野理恵, 関根祐子, 酒井郁子 (2022). 亥鼻 IPE 「Step2」のフードバック演習導入によるグループ活動評価の変化. 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 48.
21. 中山登志子, 舟島なをみ (2022, 12.3-12.4). 「問題診断尺度—看護学研究(修士論文)指導用—」の開発. 第 42 回日本看護科学学会学術集会. 広島.
22. Noji, A., Kamishima, S., Nosaki, A., Iijima, S., Mizobe, A., Kondo, M., & Kotera, S. (2023, March 10-11). *Internationalization guidelines to enhance nurses' cultural competence and hospital systems*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, Japan.
23. Yai, M., & Nosaki, A. (2023, March 10-11). *Social participation of people with adolescent-onset mental disorders who experienced social withdrawal: A descriptive study of narratives*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, Japan.
24. Izumisawa, K., & Nakayama, T. (2023, March 10-11). *Criteria by which students determine positives and negatives of nursing practice instruction: Differences stemming from the type of school*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, Japan.
25. 天井響子, 清河幸子 (2023, 3.3-3.5). 困難を克服した他者の動画は中学生の内的保護因子を高めるか. 日本発達心理学会第 34 回大会抄録集, 241.
26. 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, 酒井郁子 (2023, 3.19). IPE 最終段階プログラム終了後の Interprofessional アイデンティティ. 第 15 回文化看護学会学術集会抄録集, 32.

[シンポジウム・招聘講演]

27. 孫佳茹 (2022). 「童子軍(ボーイスカウト)」史研究—中国近代教育史に位置付ける意義—. ボーイスカウト日本連盟創立 100 周年記念 2022 年度全国大会. (オンライン).
28. 泉澤清枝 (2022). 学生にとってより良い実習指導の実現に向けて取り組んだ研究と成果の活用. 日本看護教育学会第 31 回学術集会シンポジウム. 看護教育学研究(第 31 回学術集会講演集), 31(2), 20-21.

[受賞(国内・国外)]

29. 第 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会学術集会長賞(国内)
臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2022). 看護学部のカリキュラム改変が IPE の学習成果に与えた効果～学生の自己評価の分析から.

30. 第 21 回日本 VR 医学会学術大会優秀賞(銀賞)(国内)
森下裕咲子, 大浦祐矢, 小山博史, 臼井いづみ, 野村行弘, 中口俊哉 (2022). 多重課題シミュレーションに向けた目の応答による認知負荷量推定手法の検討.

〔その他〕

31. 井出成美 (2022). 夢ナビ講義 video 超高齢社会で求められるコラボレーション力とは. フロムページ. (オンライン).
32. 井出成美 (2022). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. 対立の解決のためのストラテジー.
33. 井出成美 (2022): 夢ナビライブ高校生とのオンラインディスカッション フロムページ. (オンライン).
34. Usui, I. (2022). TMUN Online Exchange Program. Chiba University School of Nursing Curriculum and Clinical Practicum.
35. Ide, N. (2022). TMUN Online Exchange Program. The Community-based Integrated Care Systems for the older person in Japan.
36. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). 千葉大学医学部附属病院 特定行為研修「チーム医療演習」.
37. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, カズノブ・ダビッド (2022). 群馬大学大学院 第 9 回群馬大学 IPE トレーニング 2022 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース. (オンライン).
38. 臼井いづみ (2022). 神奈川県立保健福祉大学 シミュレーション勉強会 講師「多職種シナリオ作成のコツ その工夫と留意点」. (オンライン).
39. 野崎章子 (2022). 大学模擬授業(千葉県立佐倉高校). 国際保健と看護-Global Health and Nursing.
40. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). 千葉大学医学部附属病院 第 3 回 看護師長研修 「成果が出せるチームとして機能するためのリーダーシップとメンバーシップの発揮」.
41. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編①職種間の理解. (オンライン).
42. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編②チーム内の効果的なコミュニケーション. (オンライン).
43. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). 千葉大学医学部附属病院 令和 4 年度新規採用者研修(年度中途採用者向け)「専門職連携(IPW)」.
44. 井出成美 (2022). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修. 授業開発 インストラクショナルデザインと授業設計. (オンライン).
45. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編③チームワークの促進スキル. (オンライン).
46. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編④多職種カンファレンス. (オンライン).
47. 野崎章子 (2022). 日本国際看護学会(2022 年度研修会). 精神保健と国際看護学.
48. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤対立の解決. (オンライン).
49. 井出成美 (2022). 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 カンファレンスの基本動作. (オンライン).
50. 臼井いづみ (2022). 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 仕事におけるコミュニケーション. (オンライン).
51. 孫佳茹 (2022). 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 アイスブレイク 私の仕事紹介. (オンライン).
52. 中山登志子 (2022). 日本看護教育学会第 31 回学術集会会長挨拶: 看護実践・教育の基盤となる研究成果の産出とその活用. 看護教育学研究(第 31 回学術集会講演集), 31(2), 1.

53. 植田満美子 (2022). 日本看護教育学会第 31 回学術集会 演題 1: 看護学生が効果的であると知覚するオリエンテーション実習環境への適応促進に向けてーについての研究批評.
54. 植田満美子 (2023). 日本看護教育学会 令和 4 年度第 7 回定例会. 研究の意義や独自性をどう伝えるかー修正前後の研究計画書の比較を通してー.
55. カズノブ・ダビッド (2023). やむし 34 号 第 14 回ヤムシ研究会集会の報告(英語通訳).

看護政策・管理学

〔原著〕

1. 齊藤しのぶ, 飛世真理子, 和住淑子, 河部房子 (2022). 初めて模擬患者に対して看護過程を展開する場面における看護初学者の対象認識および表現の特徴. 日本看護学教育学会誌, 32(3-1), 1-13.
2. 小熊亜希子, 岡田忍, 飯野理恵 (2022). 介護老人保健施設入所者の誤嚥性肺炎の包括的ケアを促す看護モデルの開発. 千葉看護学会会誌, (印刷中).

〔論文等(査読あり)〕

3. 上原たみこ, 宮崎美砂子, 杉田由加里, 飯野理恵 (2022). 新興感染症確認後 1 年間の健康危機における市町村保健師の活動. 千葉看護学会会誌, (印刷中).

〔論文等(査読なし)〕

4. 手島恵 (2022). 日本看護協会 国際情報のページ 今こそともに困難を乗り越えていくとき. 日本看護協会機関誌「看護」, 74(5), 65-65.
5. 手島恵 (2022). 日本看護協会 国際情報のページ 世界の人々の健康をまもるために、私たちのウェル・ビーイングを確かなものに. 日本看護協会機関誌「看護」, 74(10), 84-84.
CRID 1390856207411251968 DOI:10.32181/jna.0000000362
6. 手島恵, 辻千芽, 長妻純子, 早川祥子 (2022). 危機を乗り越える看護管理のチカラ ポジティブ・マネジメント(特集 ポジティブ・マネジメントを活用した組織づくり). 看護のチカラ 27(587), 12-16. <http://id.ndl.go.jp/bib/025809511>

〔単行書〕

7. 和住淑子: ハーレイ街病院の再建レポートから読み解くナイチンゲールの看護管理. ナイチンゲールのマネジメント考 組織管理者としての責任 ナイチンゲールの越境 8・管理, 日本看護協会出版会, 33-46, 2022.
8. 井部俊子(監修), 手島恵(編): 看護管理学習テキスト 第3版 第3巻 人材管理論 2022年版, 日本看護協会出版会, <https://store.isho.jp/search/detail/productId/2205725610>
9. 吉田千文, 志田京子, 手島恵, 武村雪絵(編). ナーシング・グラフィカ 看護の統合実践(1)看護管理, 第5版, メディカ出版, 2023.

〔報告書〕

10. 和住淑子, 眞嶋朋子, 中山登志子, 池崎澄江, 黒田久美子, 錢淑君, 齊藤しのぶ, 飯野理恵, 高木夏恵, 仲井あや: 激動の時代における看護系大学教員の次世代育成. 看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター 令和4年度看護学教育シンポジウム報告書, 2022.
11. 杉田由加里, 鈴木悟子: 成果につながる特定保健指導スキルに関するスコーピングレビュー. 令和3年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「特定健康診査および特定保健指導における問診項目の妥当性検証と新たな問診項目の開発研究」分担研究報告書, 2022.
12. 杉田由加里, 中山健夫, 田原康玄, 赤松利恵, 齋藤良行, 鈴木悟子: 特定健康診査の標準的な質問票の活用状況に関する実態調査. 令和3年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「特定健康診査および特定保健指導における問診項目の妥当性検証と

〔学会発表抄録〕

13. Sugita, Y., & Suzuki, S. (2022, June 21-22). *Scoping review on specific health guidance skills that lead to results*. 7th International Collaboration for Community Health Nursing Research Conference 2022, Växjö, Sweden.
14. Kawasaki, T., Oshima, F., Shimizu, E., Taguchi, K., Nakamura, H., Okawa, S., & Iino, R. (2022, September 7-10). *Effectiveness of online cognitive behavioral therapy (CBTPAC) to understand children with autism spectrum tendencies and to deal with parenting stress: A pilot study protocol*. 52nd European Association for Behavioural and Cognitive Therapies (EABCT). Barcelona, Spain.
15. Katagiri, T., Chien, S. C., & Maruyama, K. (2022, September 15-17). *What led the nursing division to independence in Japanese hospitals after World War II?* AAHN (American Association for the History of Nursing) 39th Annual Conference. Lexington, Kentucky.
16. Wazumi, Y., Nakahata, T., & Chien, S. C. (2022, October 18-19). Shifting the hospital's primary function from solving medical problems to supporting patients' healthy life. 7th WANS Conference, Taipei, Taiwan.
17. Wazumi, Y., Saito, S., & Chien, S. C. (2022, October 19-22). The development of a new nursing technique education system through visualization of "vital power". NETNEP2020 - 8th International Nurse Education Conference, Sitges, Spain.
18. Katagiri, T., Chien, S. C., & Udagawa, Y. (2022, Oct 19-22). *The efficacy of the co-design health promotion for the return to society of hospitalized seniors*. NETNEP2022 -8th International Nurse Education Conference. Sitges, Barcelona, Spain.
19. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022). 看護管理者および中堅看護者を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, (現地開催+オンライン開催).
20. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 野地有子, 眞嶋朋子 (2022). 看護系大学教員を対象としたオンラインによる課題解決型研修の学修効果. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, (現地開催+オンライン開催).
21. Miyazaki, M., Iino, R., Ishimaru, M., Sugita, Y., Sato, N., Tokita, R., Suzuki, S., Sakai, A., Sato, T., Kurisu, C., & Tsuchiya, H. (2022). *Developing components of on-the-job training for public health nurses to promote preventive activities*. The 7th ICCHNR Conference 2022. Sweden.
22. 飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 杉田由加里, 石丸美奈, 時田礼子, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤太一, 栗栖千幸, 土屋裕子 (2022). 予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックのOJTの条件. 日本地域看護学会学術集会第25回講演集, 255.
23. 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2022). 看護学部のカリキュラム改変がIPEの学習成果に与えた効果～学生の自己評価の分析から. 第15回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 22.
24. 孫佳茹, 井出成美, 臼井いづみ, 朝比奈真由美, 飯野理恵, 関根祐子, 酒井郁子 (2022). 亥鼻 IPE 「Step2」のフードバック演習導入によるグループ活動評価の変化. 第15回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 48.
25. 甲斐茉莉奈*, 飯野理恵 (2022). 地域在住高齢者の自分らしい生活とその継続を支えていること. 第11回日本公衆衛生看護学会. 仙台.
*看護学部卒業
26. 杉田由加里, 米増直美, 田中美延里, 渡部恵子, 石田美由紀, 彦根倫子 (2022). 管理期保健師の組織マネジメントに関する行動目標の達成につながるリフレクションの様相. 日本地域看護学会第25回学術集会プログラム集, 37.
27. 杉田由加里, 米増直美, 田中美延里, 渡部恵子, 石田美由紀 (2022). 管理期保健師の組織マネジメント能力向上に向けたピア・ラーニングを用いた学習プログラムの評価. 第43回日本看護科学

学会学術集会, [O56-2].

28. 杉田由加里, 米増直美, 田中美延里, 渡部恵子, 石田美由紀, 彦根倫子, 上原たみ子 (2022). コロナ禍における管理期保健師の組織マネジメントの実態と課題. 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 120.
29. 杉田由加里, 米増直美, 田中美延里, 渡部恵子, 石田美由紀, 彦根倫子 (2022). 管理期保健師の組織マネジメント能力向上に向けた学習プログラムの事後評価. 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 142.
30. 齋藤良行, 中山健夫, 杉田由加里, 鈴木悟子, 田原康玄, 赤松利恵 (2022). 特定健康診査の標準的な質問票の活用状況に関する実態調査: 保険者別の分析. 第81回日本公衆衛生学会総会抄録集, 307.
31. 鈴木悟子, 杉田由加里, 齋藤良行, 中山健夫, 田原康玄, 赤松利恵 (2022). 特定健康診査の標準的な質問票の活用状況に関する実態調査: 保健事業における活用. 第81回日本公衆衛生学会総会抄録集, 308.
32. 杉田由加里, 鈴木悟子, 齋藤良行, 中山健夫, 田原康玄, 赤松利恵 (2022). 特定健康診査の標準的な質問票の活用状況に関する実態調査: 市町村国保の分析. 第81回日本公衆衛生学会総会抄録集, 308.
33. 早川祥子, 佐藤朋子, 手島恵 (2022). 特定感染症指定医療機関の看護師が働きやすい職場環境の再構築. 第26回日本看護管理学会学術集会, 273.
34. 辻千芽, 手島恵 (2022). 高度急性期医療の場で患者も看護師も安心して過ごせる環境を再構築する取り組み. 第26回日本看護管理学会学術集会, 274.
35. 佐藤十美*, 杉田由加里, 飯野理恵 (2022). A社における訪問看護ステーション所長の経営管理能力開発のしくみづくり. 第26回日本看護管理学会学術集会抄録集, 289.
*修士課程修了
36. 長妻純子, 手島恵 (2022). 患者中心の看護の実現—日常倫理に基づく看護の定着を目指して—, 第26回日本看護管理学会学術集会, 294.
37. 黒崎仁心*, 杉田由加里 (2022). 在宅療養する認知症高齢者の胃瘻を造設しない選択を代理決定した家族に対する訪問看護師の支援. 日本在宅看護学術集会プログラム・抄録集12回, 17.
*看護学部卒業

[シンポジウム・招致講演]

38. 和住淑子 (2023). 第37回日本がん看護学会学術集会 特別講演: F. Nightingale よりひも解く病気の見方と患者の生きる力. 第37回日本がん看護学会抄録, 3.
39. 趙可式, 錢淑君(通訳) (2023, 2.4). 山形県立保健医療大学看護学科医療従事者講習会 招待講演: 台湾の「自然死法」及び「患者自主権利法」の立法過程. (オンライン開催).
40. Teshima, M. (2022, May 11-13). Vision Zero Summit Japan 2022. Symposium ROOM M Health, Hygiene, and Covid-19: How can nurses leverage Covid experience to improve worldwide occupational health and safety (OHS). 2022, Japan.
41. Teshima, M. (2022, May 9-11). Statement of the 9th Triad Meeting on Nursing and Midwifery: Leveraging the SDNM to advance key priorities for nursing and midwifery. WHO, ICN, & ICM Triad Meeting on Nursing and Midwifery.
42. 手島恵 (2022, 11.26-2023. 1.12). 第10回大阪府看護学会 教育講演: これからの倫理と看護. (ハイブリッド形式).
43. 手島恵 (2022, 11.11-25). 2022年度第45回大分県看護研究学会 特別講演: 看護の多様性、創造性を支える. (ハイブリッド形式).
44. 手島恵 (2022). 第29回石川県看護学会 特別講演: 次世代につなぐこれからの倫理と看護. (ハイブリッド形式).
45. 手島恵 (2022). 第22回福岡県看護学会 特別講演: 新しい時代に向けて～日本の看護の未来～. (オンデマンド).
46. 手島恵, 安西恵梨子 (2022). 第53回日本看護学会学術集会 セミナー2: 医療・看護に係る国際

動向. 第 53 回(2022 年度)日本看護学会学術集会抄録集, 117.

47. 手島恵 (2022, 12.10-2023. 1.31). 第 20 回国立病院看護研究学会学術集会 特別講演: 激動の時代における次世代の看護人材育成—倫理的課題と専門職の役割—. 国立病院看護研究学会予稿集. (オンデマンド).
48. 手島恵 (2022). モンゴル看護協会 25 周年祝賀式典 特別講演: Nursing: A Voice to lead.
49. 手島恵 (2022, 12.5-2023. 1.6). 令和 4 年度北海道看護研究学会 基調講演(Web 講演): すべての人の健康と福祉をまもるために—看護師のウェル・ビーイングを確かなものに—. 令和 4 年度北海道看護研究学会プログラム, 5.
50. 吉沢豊予子, Ruppert, S. D., 高田早苗, 手島恵, 渡邊美和 (2022). 第 42 回日本看護科学学会学術集会 学術集会企画 パネルディスカッション 4: 看護学教育のグローバルスタンダードに向けて—コロナ禍を通して見えた、看護学教育として変わらなければならないこと—. 第 42 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 33.
51. 手島恵, 有森直子, 岡田淳子, 白鳥さつき, 田中真木, 鶴若麻理, 尺村井文江 (2022). 第 42 回日本看護科学学会学術集会 交流集会: SDGs×看護学・研究・倫理. 第 42 回日本看護科学学会学術集会抄録集, 98.

〔受賞(国内・国外)〕

52. 第 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会学術集会長賞(国内)
白井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2022). 看護学部のカリキュラム改変が IPE の学習成果に与えた効果～学生の自己評価の分析から.

〔その他〕

53. 和住淑子. 最後の臨地実習でようやくつかんだ看護の定義, 私とナイチンゲール「看護覚え書」. 週刊医学界新聞(看護号), 第 3495 号, 2022.
54. 杉田由加里: 令和 4 年度海匝保健所管内保健衛生連絡協議会保健師研修会. 成果につながる特定保健指導の効果的な実施方法について.
55. 杉田由加里: 令和 4 年度岐阜県特定健診・特定保健指導実践者研修会. 特定保健指導事業の運営—保健指導の質向上に向けた保健事業を目指して—.
56. 杉田由加里: 令和 4 年度山口県管理期地域保健関係職員研修会. 管理期にある行政専門職へ期待される役割と能力.
57. 杉田由加里: 令和 4 年度秦野市市内保健師研修会. PDCA サイクルを確実に回すための事業計画の立案の考え方.
58. 杉田由加里: 令和 4 年度千葉県特定健診・特定保健指導リーダー専門職研修. 特定保健指導事業の運営—保健指導の質向上に向けた保健事業を目指して—.
59. 杉田由加里: 令和 4 年度千葉県特定健診・特定保健指導運営責任者(事務担当等)研修. 特定健診・特定保健指導事業の運営—PDCA サイクルを回した適切な保健事業運営を目指して—.
60. 杉田由加里: 令和 4 年度千葉県保健師管理者能力育成研修. 保健師管理者に必要な機能と能力.
61. 飯野理恵: 令和 4 年度千葉県新任保健師研修会. 保健師活動の基本.
62. 飯野理恵: 令和 4 年度第 2 回長生管内保健師業務連絡研究会. 地区活動に必要な技術～担当地区や担当業務を多角的に見てみよう～.
63. 飯野理恵: 令和 4 年度長生管内看護管理者研修会. 看護管理者のチーム運営力.
64. 手島恵 (2022). Global Strategic Directions for Nursing and Midwifery 2021-2025 (GDNM)について. モンゴル保健省人材開発センター (CDH) 2022.0914.

専門職連携教育研究センター

〔原著〕

1. Ishikawa, T., Sakai, I., Amemiya, A., Komatsu, R., Sakuraba, S., & Isono, S. (2022). Long-term

body weight change assessed by non-contact load cells under the bed in older people with and without eating assistance: a preliminary study. *Scientific Reports*, 12(1), 1-5. <https://doi.org/10.1038/s41598-022-12291-5>

2. Shikino, K., Ide, N., Kubota, Y., Ishii, I., Ito, S., Ikusaka, M., & Sakai, I. (2022). Effective situation-based delirium simulation training using flipped classroom approach to improve interprofessional collaborative practice competency: a mixed-methods study. *BMC Medical Education*, 22(1), 1-11. <https://doi.org/10.1186/s12909-022-03484-7>
3. 野崎章子, 森内加奈恵, 小原泉, 吉村健佑 (2023). 特定機能病院有床精神科部門の特性—病床・医師数および地理的分布ならびに診療内容に関する記述的研究—. *総合病院精神医学*, 35(1), 22-30.
4. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., & Okumura - Hiroshige, A. (2023). Factors affecting the critical appraisal of research articles in Evidence - Based practices by advanced practice nurses: A descriptive qualitative study. *Nursing Open*. <https://doi.org/10.1002/nop2.1628>. (in press).
5. 山本武志, 酒井郁子 (2023). 専門職連携実践コンピテンシーに関連する要因の検討: 特定機能病院の医療専門職を対象とした調査から. *札幌保健科学雑誌*, 12, 21-27.

〔論文等(査読あり)〕

6. Yamakawa, M., Kanamori, T., Fukahori, H., & Sakai, I. (2022). Sustainable nurse-led care for people with dementia including mild cognitive impairment and their family in an ambulatory care setting: A scoping review. *International Journal of Nursing Practice*, 28(3), e13008. <https://doi.org/10.1111/ijn.13008>
7. 佐伯昌俊, 小松亮, 西宮岳, 酒井郁子 (2023). 急性期病院において複数の特定行為研修修了者の活動を支援する管理実践の要素—管理者へのインタビューによる質的研究. *看護管理学会誌*, (印刷中).
8. 山本武志, 佐伯昌俊, 西宮岳, 小松亮, 山本則子, 酒井郁子 (2023). 特定行為研修を修了した看護師の導入・配置に関わる要因: 全国 300 床以上の病院の看護管理者を対象とした横断的研究. *看護管理学会誌*, (印刷中).

〔論文等(査読なし)〕

9. 酒井郁子 (2022). 【多職種連携のためのタスクシフティングを考える—効率的な医療提供のために】 特定行為研修修了看護師. *カレントセラピー*, 40(4), 362-367.
10. 酒井郁子 (2022). 多職種連携教育の潮流とそのインパクト—今後の展望と可能性—総合大学必修積み上げ型 IPE の運営拠点としての専門職連携教育研究センターの課題と展望. *医学教育*, 53(Suppl.), 22.
11. 井出成美 (2022). 文化的視点からみた専門職連携教育—他職種を理解することとは—. *文化看護学会誌*, 14(1), 58-62.
12. Rotzoll, D. E., Usui, I., & Sakai, I. (2022). Learning from one another: Comparing basic nursing and midwifery skills in Japan and Germany. *Journal of Medical English Education*, 21(3), 152-154.
13. 酒井郁子 (2023). 特集 老年看護学の新しい姿 総説 2. 老年看護における教育. *老年医学*, 61(3), 193-197.

〔報告書〕

14. 酒井郁子: 特定行為研修修了者の複数配置に関する実態把握及び有効活用に影響する要因の調査. 令和 2 年度～令和 3 年度 厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 地域医療基盤開発推進研究 総括報告書, 2021.
15. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 臼井いづみ, 孫佳茹, 天井響子, 富永嘉子, 長谷川容佳, 佐野朋子: 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和 4 年度事業報告書, 2023.
16. 秋山智弥, 荒木暁子, 酒井郁子, 谷口陽子, 禰屋文恵, 美代賢吾, 山田雅子: 令和 4 年度厚生労働省委託事業 人生 100 年時代の看護職キャリア継続支援ツール作成事業 事業実施報告書, 2023.

〔単行書〕

17. 天井響子: 第 13 章 摂食障害・第 18 章 パニックおよび広場恐怖症. 川本哲也・喜入暁(編), 進化精神病理学, 福村出版, 2023.

〔学会発表抄録〕

18. 藤田冬子, 辻村真由子, 村松真澄, 黒河内仙奈, 伊藤裕佳, 福井小紀子, 酒井郁子 (2022). 特別養護老人ホーム等における入居者のエンドオブライフを支えるケアプロセスとの様相. 日本老年看護学会第 27 回学術集会抄録集, 170.
19. Rotzoll, D. E., Usui, I., & Sakai, I. (2022, July 16-17). *Learning from one another: Comparing basic nursing and midwifery skills in Japan and Germany*. The 25th JASMEE Academic Meeting, Tokyo, Japan.
20. 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2022). 看護学部のカリキュラム改変が IPE の学習成果に与えた効果～学生の自己評価の分析から. 第 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 22.
21. 森下裕咲子, 大浦祐矢, 小山博史, 臼井いづみ, 野村行弘, 中口俊哉 (2022, 8.27). 多重課題シミュレーションに向けた目の応答による認知負荷量推定手法の検討. 第 21 回日本 VR 医学会学術大会. 名古屋.
22. 孫佳茹, 井出成美, 臼井いづみ, 朝比奈真由美, 飯野理恵, 関根祐子, 酒井郁子 (2022). 亥鼻 IPE 「Step2」のフィードバック演習導入によるグループ活動評価の変化. 第 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会プログラム・抄録集, 48.
23. Nosaki, A., & Noji, A. (2022, August 3-6). *A comparison of the descriptions of culture in the fields of psychiatry and nursing: a scoping review protocol*. 22nd WPA World Congress of Psychiatry, Bangkok, Thailand. (ハイブリッド開催).
24. 野地有子, 野崎章子 (2022, 8.27-9.18). 病院と看護の国際化ガイドラインの検討ー国内外指針と看護職の経験知の集約からー. 千葉看護学会第 28 回学術集会. (オンライン開催).
25. 天井響子 (2022, 9.8-11). 中学 3 年間の学校適応変化と内的保護因子との関連. 日本心理学会第 86 回大会抄録集, 2PM-075-PO.
26. Fujiwara, N., Kohara, I., Yamamoto, M., Tamaki, S., Yabuki, M., Nakahama, H., Kojima, C., Nosaki, A., Tashiro, S., Yoshimura, K., & Fujiwara, K. (2022, October 17-19). *Development of learning program to nurses supporting patients' decision making in cancer clinical trials: the results of a 2nd-pilot study*. IACRN 14th Annual Conference, Atlanta, USA.
27. Noji, A., Kamishima, S., Nosaki, A., Iijima, S., Mizobe, A., Kondo, M., & Kotera, S. (2023, March 10-11). *Internationalization guidelines to enhance nurses' cultural competence and hospital systems*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, Japan.
28. Yai, M., & Nosaki, A. (2023, March 10-11). *Social participation of people with adolescent-onset mental disorders who experienced social withdrawal: A descriptive study of narratives*. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, Japan.
29. 天井響子, 清河幸子(2023, 3.3-5). 困難を克服した他者の動画は中学生の内的保護因子を高めるか. 日本発達心理学会第 34 回大会抄録集, 241.
30. 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, 酒井郁子 (2023, 3.19). IPE 最終段階プログラム終了後の Interprofessional アイデンティティ. 第 15 回文化看護学会学術集会抄録集, 32.

〔シンポジウム・招聘講演〕

31. 酒井郁子 (2022). 公益社団法人地域医療振興協会 NP・NDC 研修センター JADEC COM 特定行為研修修了者の育成配置活用に関する WEB シンポジウム「診る」と「見る」の力をつけた看護の可能性ー特定行為研修修了者の活用ガイドラインの提案ー講演 3: 特定行為研修修了者の活用ガイドラインの紹介. (オンライン).
32. 孫佳茹 (2022, 5.28). 「童子軍(ボーイスカウト)」史研究ー中国近代教育史に位置付ける意義ー.

ボーイスカウト日本連盟創立 100 周年記念 2022 年度全国大会。(オンライン).

33. 酒井郁子 (2022). シンポジウム 多職種連携教育の潮流とそのインパクトー 今後の展望と可能性. 総合大学必修積み上げ型 IPE の運営拠点としての専門職連携教育研究センターの課題と展望. 第 54 回日本医学教育学会, G メッセ群馬.
34. 酒井郁子 (2022). 共催シンポジウムIV(日本看護科学学会共催)身体性変容から生きにくさを探る. 「回復期にある脳卒中患者の生きにくさの様相とケア」. 第 20 回日本神経理学療法学会学術大会, 23.
35. 酒井郁子, 北川裕利, 中井智子, 山下祐貴, 藤谷茂樹, 鈴木靖子, 山本則子, 山本武志, 西宮岳, 佐伯昌俊 (2022). インフォメーション・エクステンション 複数の特定行為研修修了者を組織に導入し活用するためのガイドの紹介. 第 26 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 203.
36. 深堀浩樹, 福井小紀子, 森恵美, 桶水理恵, 五十嵐歩, 大江真琴, 大久保暢子, 柏木公一, 小池智子, 小玉淑臣, 酒井郁子, 新福洋子, 武村雪絵, 友滝愛 (2022, 12.3-4). 交流集会: 看護学研究の発展を目指して: 大型研究の準備・マネジメント・組織づくりから学ぼう! 第 42 回日本看護科学学会学術集会, 広島.
37. Sakai, I., & Sun, J. (2022). Chiba University Inohana IPE: Challenges, Prospects, and Impact. 2022 年度 東京都立大学健康福祉学部・教育改革事業記念 多職種連携教育(IPE)国際シンポジウムー世界と日本の IPE の 20 年、これまでの変遷とこれからの進化を探るー. (オンライン).
38. Sakai, I. (2023, March 10-11). Workshop 1 Promoting implementation of Evidence-Based Practice: Asian JBI Centre Initiatives. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS Conference, Tokyo, Japan.
39. 酒井郁子, 大島拓, 島田陽子, 佐伯昌俊, 西宮岳 (2023). 千葉大学特定行為研修シンポジウム 特定行為研修修了看護師のさらなる活用にむけて. (オンライン).

〔受賞(国内・国外)〕

40. 第 15 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会学術集会長賞(国内)
臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 酒井郁子 (2022). 看護学部のカリキュラム改変が IPE の学習成果に与えた効果～学生の自己評価の分析から.
41. 第 21 回日本 VR 医学会学術大会優秀賞(銀賞)(国内)
森下裕咲子, 大浦祐矢, 小山博史, 臼井いづみ, 野村行弘, 中口俊哉 (2022). 多重課題シミュレーションに向けた目の応答による認知負荷量推定手法の検討.

〔その他〕

42. 酒井郁子 (2022). 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科医療教育センター運営会議 医療教育センター運営会議への参加および専門職連携教育に関するコンサルテーション. (オンライン).
43. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). 千葉大学医学部附属病院 2022 新入職員ガイダンス合同研修「専門職連携(IPW)」.
44. 井出成美 (2022). 夢ナビ講義 video 超高齢社会で求められるコラボレーション力とは. フロムページ. (オンライン).
45. 酒井郁子 (2022). 東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 質管理 I.
46. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. 専門職連携の基礎的知識.
47. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. チームについて.
48. 井出成美 (2022). IPERC 主催 IPW ベーシック研修&マネジメント研修理論編. 対立の解決のためのストラテジー.
49. 酒井郁子 (2022). 千葉県看護協会 令和 4 年度生涯教育計画に基づく研修会「高齢者の起こりやすい機能低下と生活適応を支える看護」. (オンライン).
50. 井出成美 (2022). 夢ナビライブ 高校生とのオンラインディスカッション フロムページ. (オンライン).
51. Usui, I. (2022). TMUN Online Exchange Program. Chiba University School of Nursing

Curriculum and Clinical Practicum.

52. Ide, N. (2022). TMUN Online Exchange Program. The Community-based Integrated Care Systems for the older person in Japan.
53. Sakai, I. (2022). TMUN Online Exchange Program. The Education System of the Nursing Profession in Japan and an introduction of the Chiba University School of Nursing and Graduate School of Nursing.
54. 酒井郁子 (2022). 藤田医科大学アセンブリ教育センター アセンブリ教育ワークショップ 特別講演「段階的・系統的な専門職連携教育の到達目標と評価方法」.
55. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). 千葉大学医学部附属病院 特定行為研修「チーム医療演習」.
56. 酒井郁子 (2022). 茨城県きぬ看護専門学校 茨城県看護教員連絡会講演「専門基礎教育での IPE の実際と課題」. ホテルグランド東雲 (茨城).
57. 酒井郁子 (2022). 横浜市立大学医学科・看護学科 合同 FD「多職種連携教育」.(オンライン).
58. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, デビッド・カズノブ (2022). 群馬大学大学院 第 9 回群馬大学 IPE トレーニング 2022 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース.(オンライン).
59. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修. 専門職連携の基礎知識.(オンライン).
60. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修. IPE カリキュラムマネジメント基礎編.(オンライン).
61. 酒井郁子 (2022). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修. IPE と組織改革.(オンライン).
62. 臼井いづみ (2022). 神奈川県立保健福祉大学 シミュレーション勉強会 講師 「多職種シナリオ作成のコツ その工夫と留意点」.(オンライン).
63. 野崎章子 (2022). 大学模擬授業(千葉県立佐倉高校). 国際保健と看護-Global Health and Nursing.
64. 酒井郁子 (2022). 千葉県看護協会 第 21 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル 「統合演習 II」.
65. 酒井郁子 (2022). 岩手県看護協会 令和 4 年度訪問看護事業所・医療機関等に勤務する看護職員の相互研修.
66. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). 千葉大学医学部附属病院 第 3 回看護師長研修 「成果が出せるチームとして機能するためのリーダーシップとメンバーシップの発揮」.
67. 酒井郁子 (2022). 金沢医科大学病院 キャリア支援センター 令和 4 年度特定行為研修フォローアップ事業「特定行為研修修了看護師が活躍するために」(WEB セミナー)特定行為研修修了看護師の組織的配置・活用ガイドの概説.
68. 酒井郁子 (2022). 東京都看護協会 職能 II 委員会の研修会 特定行為制度の基本的な理解と修了者の活用～看護管理者の役割～.(オンライン).
69. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編①職種間の理解.(オンライン).
70. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編②チーム内の効果的なコミュニケーション.(オンライン).
71. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). 千葉大学医学部附属病院 令和 4 年度新規採用者研修(年度中途採用者向け)「専門職連携(IPW)」.
72. 酒井郁子 (2022). 回復期リハビリテーション病棟協会 2022 年度回復期リハ看護師認定コース 第 15 期 講師「看護とリハビリテーションの考え方」「QOL の考え方と評価」「生活の再構築と自立支援」.(オンライン).
73. 酒井郁子 (2022). 介護施設看護力推進事業 高齢者施設で働く看護部門の責任者のマネジメント. 青森県看護協会.(オンライン).
74. 井出成美 (2022). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント&授業開発研修. 授業開発 インス

トクショナルデザインと授業設計. (オンライン).

75. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編③チームワークの促進スキル. (オンライン).
76. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編④多職種カンファレンス. (オンライン).
77. 野崎章子 (2022). 日本国際看護学会(2022 年度研修会). 精神保健と国際看護学.
78. 酒井郁子 (2022). 神奈川県看護協会 令和 4(2022)年度介護保険施設等看護研修Ⅲにおける講師「介護保険施設での看護管理者としての役割と責務」. (オンライン).
79. 酒井郁子, 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2022). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤対立の解決. (オンライン).
80. 酒井郁子 (2022). 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 多職種連携に必要な考え方と基礎的知識. (オンライン).
81. 井出成美 (2022). 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 カンファレンスの基本動作. (オンライン).
82. 臼井いづみ (2022). 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 仕事におけるコミュニケーション. (オンライン).
83. 孫佳茹 (2022). 受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 アイスブレイク 私の仕事紹介. (オンライン).
84. 酒井郁子 (2022). 東京都看護協会 東京都受託事業 令和 4 年度東京と看護師等キャリアアップ支援事業 「特定行為研修修了者の活動を支える組織的配置と仕組みづくり」. (オンライン).
85. 酒井郁子 (2023). 北関東救急看護協会 「北関東救急看護研究会」教育セミナー 救急看護領域の特定行為と看護師の役割拡大.
86. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPW マネジメント研修実践編. プロジェクトの基本的知識と進捗管理.
87. 酒井郁子 (2023). 京都府病院協会・京都府立医科大学医学部看護学科 看護実践キャリア開発センター共催. 看護師特定行為研修セミナー「特定行為看護師としての役割開発と発展を目指して」特定行為研修修了者の配置・活用.

2. 科研費・競争的資金取得一覧

※千葉大学看護学研究科に所属する教員等（*は大学院生）が研究代表者となっているものに限り、研究種目・代表者氏名による五十音順です。

1) 文科科研・厚労科研

【新規】

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
中山登志子	文科科研 基盤研究(B)	研究指導能力向上に向けた看護系大学院修士・博士課程教育連動型 FD モデルの開発
眞嶋 朋子	文科科研 基盤研究(B)	心不全患者の退院後の心理的安寧を支える看護支援方法の開発
増島麻里子	文科科研 基盤研究(B)	With コロナ時代の ICT ツールによる高齢者主体型の終末期対話プログラムの構築
宮崎美砂子	文科科研 基盤研究(B)	予防活動の持続・発展のための地域看護実践技術の普及・定着に向けた実用化促進研究
高木 夏恵	文科科研 基盤研究(C)	夜間交代制勤務による看護師への影響と概日適応を促進する健康教育プログラムの開発
手島 恵	文科科研 基盤研究(C)	持続可能な開発目標 (SDGs) の看護継続教育への普及促進と評価
飛世真理子	文科科研 基盤研究(C)	看護基礎教育における感染予防技術の教育プログラム開発と学習効果の検証
仲井 あや	文科科研 基盤研究(C)	非侵襲的呼吸補助療法を受ける早産児の Early Warning Score の開発
野崎 章子	文科科研 基盤研究(C)	包摂的パンデミック・レジリエンス構築を志向する精神障害者の地域生活継続支援法開発
前原 邦江	文科科研 基盤研究(C)	不妊治療後の夫婦の親役割への適応を促すオンライン産褥期看護介入プログラムの開発
水流添秀行*	文科科研 基盤研究(C)	直腸がん肛門温存術後の排便障害に対する就労再開・継続のための自立支援教材の開発
宇田川友佳	文科科研 若手研究	看護学生の健康自主管理における腸内細菌叢の変化測定の効果
佐野 元洋	文科科研 若手研究	ICT を活用したシームレスな心不全管理と地域連携強化に関する研究
鈴木 美央	文科科研 若手研究	セルフモニタリングに基づいたクライシスプランの作成・実施の有用性の検討
湯本 晶代	文科科研 若手研究	レビー小体型認知症者と家族の困難を改善する包括的訪問看護モデルの開発
小林 成光*	文科科研 若手研究	がん罹患後に離職した就労世代のがん患者に対する支援プログラムの開発
正木 治恵	文科科研 挑戦的研究 (萌芽)	医療機関で活用する多文化対応ケアコミュニケーションツールの開発
森 恵美	文科科研 挑戦的研究 (萌芽)	リモート夫立ち会い出産に対するハイブリットケア方法の開発
飯田貴映子	文科科研 研究活動スタート支援	当事者・市民の視点を反映した高齢者施設における緩和ケア教育プログラムの開発

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
犬山 彩乃	文科科研 研究活動スタート支援	認知症高齢者が読みやすく理解しやすい文書構造の解明
加瀬竜太郎*	文科科研 研究活動スタート支援	行動変容理論を活用した介入による看護師の脱水予防方法の検証
橋爪 由樹*	文科科研 研究活動スタート支援	再発・転移期以降のがん患者とその家族の ACP を促進するための看護支援ガイドの開発
宮崎美砂子	厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）	自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究

【継続】 期間延長による継続を含みます。

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
正木 治恵	文科科研 基盤研究(A)	リアルタイム生活情報の AI 解析による革新的高齢者ケア改善システムの確立
森 恵美	文科科研 基盤研究(A)	妊娠期から産後 1 か月にわたる初産婦夫婦へのオンライン子育て支援方法の開発と検証
池崎 澄江	文科科研 基盤研究(B)	特別養護老人ホームにおける看取り介護の定着を目指した組織学習プログラム
石橋みゆき	文科科研 基盤研究(B)	Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発
石丸 美奈	文科科研 基盤研究(B)	認知症を有する人中心のケアリング・コミュニティ協働デザインのツール作成と検証
斉藤しのぶ	文科科研 基盤研究(B)	看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発
酒井 郁子	文科科研 基盤研究(B)	回復期リハビリテーション病棟における EBP 実装プログラムの検証
飯野 理恵	文科科研 基盤研究(C)	住民との共働による生活習慣病予防活動のための教材開発と普及に関する研究
井出 成美	文科科研 基盤研究(C)	学生の専門職間連携能力の発展を促進する IPE プログラムの実装に有用な学習理論開発
岩瀬 靖子	文科科研 基盤研究(C)	災害時の公衆衛生看護実践における倫理的意思決定能力育成の教育手法モデルの検証
岩田 裕子	文科科研 基盤研究(C)	妊娠期から産後 6 か月までのアクティグラフを用いた父親の睡眠と産後うつ縦断的研究
植田満美子	文科科研 基盤研究(C)	潜在看護師の離職後の経験の解明—個別の状況に応じた復職支援提供に向けて—
臼井いづみ	文科科研 基盤研究(C)	災害対策本部で必要なリーダーシップを育成するシミュレーション教育プログラムの開発
岡田 忍	文科科研 基盤研究(C)	介護支援専門員が活用可能な口腔アセスメントアルゴリズムの作成と評価
カズノブ ダビッド	文科科研 基盤研究(C)	Assessment of a new nursing English curriculum focusing on intercultural competence
木村佳代子	文科科研 基盤研究(C)	後期早産児とその母親の母子相互作用を促進する看護介入の開発
楠 潤子	文科科研 基盤研究(C)	がん患者への効果的な補完・代替療法利用支援に向けた看護継続教育プログラムの開発
小宮山政敏	文科科研 基盤研究(C)	前腕における皮神経の位置を体表から推定する方法の開発—安全な点滴注射のために
佐々木ちひろ	文科科研 基盤研究(C)	急性期病院のプライマリナースによる退院支援に内在する臨床知識
佐藤 奈保	文科科研 基盤研究(C)	重症心身障がい児を養育する家族への地域ケアロードマップとケアモデルの開発
錢 淑君	文科科研 基盤研究(C)	健康生成論を応用した青壮年期女性の生活クローンモデル及び健康支援アプリ開発

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
田上美千佳	文科科研 基盤研究(C)	精神疾患患者の家族へのエンパワメントと希望につながる支援の構築
手島 恵	文科科研 基盤研究(C)	看護業務基準の基礎教育における活用
遠山 房絵	文科科研 基盤研究(C)	第2子誕生を迎える第1子のレディネスを高める夫婦協働型子育て支援プログラムの開発
中村 伸枝	文科科研 基盤研究(C)	地域包括ケア時代に専門看護師に求められる役割と評価指標
野崎 章子	文科科研 基盤研究(C)	特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高難度看護実践教育
雨宮 歩	文科科研 若手研究	ウェルナー症候群患者の下肢実態調査と潰瘍予防フットウェアの開発
坂井 文乃	文科科研 若手研究	育児を対象としたヘルスリテラシー概念の解明とその発展を促す支援指針の開発
鈴木 悟子	文科科研 若手研究	30歳代男性の生活習慣予防のための主体的な健康学習を促す学習教材の開発
仲井 あや	文科科研 若手研究	早産児の呼吸の安定と自己調整機能の成熟を支える看護援助モデルの構築
中水流 彩	文科科研 若手研究	先天性心疾患手術を受ける幼児のレディネス発達を促進する看護支援プログラムの開発
湯本 晶代	文科科研 若手研究	レビー小体型認知症療養者の日常生活上の困難を改善する訪問看護ケアモデルの開発
諏訪さゆり	文科科研 挑戦的研究(開拓)	近未来の介護ロボットの開発と社会実装のための Ethical Platform 構築
石橋みゆき	文科科研 挑戦的研究(萌芽)	災害シチズンサイエンス研究手法の開発
増島麻里子	文科科研 挑戦的研究(萌芽)	死生観涵養に向けてよりよく生きることを考えるシチズンサイエンスの創発
宮崎美砂子	文科科研 挑戦的研究(萌芽)	原発被災地域住民の安心・生きがい・尊厳を支える超学際的地域包括ケアシステムの構築
杉田由加里	文科科研 研究活動スタート支援	保健師の組織マネジメント役割行動指針を活用したピア・ラーニング・プログラムの作成

2) その他研究助成金

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目(助成期間)
雨宮 歩	公益財団法人SGH財団 第33回SGHがん研究助成	外来化学療法を受ける消化器がん患者の身体活動に対する認識とその実態(研究期間おおむね2021年12月から2022年12月まで)
斉藤しのぶ	公益財団法人科学技術融合振興財団 調査研究助成	看護のリアリティとバーチャル融合を目指した看護技術習得段階に応じたゲーム型シミュレーション教材開発に関する研究(研究期間2021年2月から2023年3月)

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目（助成期間）
雨宮 歩	共同研究費（千葉市産業振興財団 産学共同研究促進事業 助成金）	医療用カテーテルの自己抜去予防システムの開発と効果検証（2022年4月から12か月）
雨宮 歩	共同研究費（ちばぎん研究開発助成制度）	限られた人材で非拘束ケアを実現するリスク行動早期検知システムの開発（2022年10月から18か月）
石丸 美奈	公益財団法人科学技術融合振興財団調査研究事業	認知症との地域共生を実現するケアリング・コミュニティを協働デザインするためのツールの作成と検証：地域活動プランニング・ゲーム（2021年2月から2023年3月）
佐藤 太一	特別研究員奨励費	事例検討会による保健師の職場内教育（OJT）を推進するガイドブックの開発と検証（2022年4月から24か月）
川上 奈々*	公益財団法人フランスベット・メディカルホームケア研究・助成財団令和4年度（第33回）研究助成・事業助成・ボランティア助成事業	ICFを基盤とした統合失調症を有する当事者の社会復帰支援の構造化（2022年6月から9か月）
小坂 麻衣*	一般社団法人日本母性看護学会2022年度研究助成	COVID-19流行下に第1子を出産した夫婦が産後1か月間に認知した家族レジリエンス（2022年4月から12か月）
周 璐*	公益財団法人木村看護教育振興財団2022年度看護研究助成	施設入所高齢者の睡眠と夜間排泄ケア方法の改善のための取り組み（2022年3月から18か月）
関 まりか*	JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム（JPMJSP2109）	妊娠末期の日常生活における身体活動を促す看護介入プログラムの開発（2022年10月から18か月）
田代 理沙*	公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金	乳がん術前化学療法を受けた患者の倦怠感に対する運動と休息を取り入れた生活を支援するプログラムの開発（2022年4月から24か月）

3. 共同研究

1) 国際共同研究

【地域創成看護学講座】

(1) 研究プロジェクト名：在宅介護ロボットの開発と社会実装における倫理的課題

① 本研究院における研究代表者および研究メンバー（職名／氏名）

教授／諏訪さゆり、教授／石丸美奈、教授／兪文偉、准教授／高橋絵里香

② 海外におけるパートナー（国名／所属機関／氏名）

アイルランド／アイルランド国立大学ダブリン校／小舘尚之、Sarah Donnelly、フィンランド／セイナヨキ応用科学大学／Helli Kitinoja、Jaakko Hallila、Marika Toivonen

③ 実施期間：2018 年以降

④ プロジェクトの概要

在宅介護ロボットの開発と社会実装に高齢者、家族介護者、在宅ケア専門職の倫理的認識がいかに影響するのかについてモデル開発に取り組んでいる。

⑤ 資金・助成等

ファイザーヘルス振興財団国際共同研究助成金

⑥ 主な成果

国際ジャーナルでの原著論文公表

2) 民間共同研究

【健康増進看護学講座】

(1) 研究プロジェクト名：医療用カテーテルの自己抜去予防システムの開発と効果検証

① 本研究院における研究代表者および研究メンバー（職名／氏名）

講師／雨宮歩

② パートナー（企業名）

株式会社アイ・メデックス

③ 実施期間：2021 年 4 月 1 日～2023 年 10 月 31 日

④ プロジェクトの概要

認知機能低下のある高齢者の身体拘束最小化に向けて、接触センサシステムとその活用方法を開発している。現在臨床調査を実施している。

⑤ 資金・助成等

千葉市産業振興財団助成金

(2) 研究プロジェクト名：限られた人材で非拘束ケアを実現するリスク行動早期検知システムの開発

① 本研究院における研究代表者および研究メンバー（職名／氏名）

講師／雨宮歩

② パートナー（企業名）

株式会社アイ・メデックス

③ 実施期間：2022 年 10 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

④ プロジェクトの概要

認知機能低下のある高齢者の身体拘束最小化に向けて、接触センサシステムを用いた脱衣予防システムを開発中である。

⑤ 資金・助成等

ちばぎん研究開発助成 2022

【地域創成看護学講座】

(3) 研究プロジェクト名：自律走行型ロボットを医療・介護施設で認知症の人が使用するための最適ケアの知識構造化

① 本研究院における研究代表者および研究メンバー（職名／氏名）

教授／諏訪さゆり、教授／岡田忍、准教授／飯田貴映子、助教／湯本晶代、助教／アモス・ニヤマザオ、特任助教／犬山彩乃

② パートナー（企業名）

JUKI プロサーブ株式会社

③ 実施期間：2022年10月～2023年10月

④ プロジェクトの概要

自律走行型ロボットを高齢者病院および介護施設で認知症の人が使用するための最適ケアを明らかにし、その知識を構造化することを目指して、本研究では第一段階として高齢者病院や介護施設において自律走行型配送ロボットおよび自律走行型消毒ロボットを使用するための実践知と効果を明らかにする。

⑤ 資金・助成等

1,923,130 円

⑥ 主な成果

介護施設において消毒機能を有するタイプと配送機能を有するタイプの 2 機の自律走行型ロボットを実装しデータ収集に取り組んでいる。

IV. 社会貢献活動

1. 学協会等への貢献

学協会の役員等について、就任した教員（教授、准教授、講師、助教、助手）ならびに特定雇用教員（技術専門職員・技術職員を含む）の延べ数。

(延べ数)

	件 数			
	学術団体役員 (理事、評議員)	学術集会長	学術団体等委員会 委員	計
2022 年度	98	2	150	250

2. 国及び地方公共団体等への貢献

国及び地方公共団体等の機関等が設置する審議会委員・科研費審査委員などに学識経験者として参加した教員（教授、准教授、講師、助教、助手、特定雇用教員）の延べ数。審議会については名称を記載。

1) 国の機関等

(延べ数)

	件 数			計
	審議会委員	科研費審査委員	その他	
2022 年度	11 件 (★)	8	9	28

★ (50音順)

- ・医道審議会専門委員（2名）
- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会委員（3名）
- ・九州がんプロ養成プラン外部審査委員
- ・厚生労働省
- ・厚生労働省長寿科学政策研究事業・認知症政策研究事業評価委員
- ・国立研究開発法科学技術振興機構（JST）
- ・DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業審査委員
- ・文部科学省 職業実践力育成プログラム審査委員

2) 地方公共団体等の機関等

(延べ数)

	件 数				計
	審議会委員	医療保険等の 審査委員	財団等の役職 (理事、評議員)	その他	
2022 年度	23 件 (★)	0	11	8	42

★ (50音順)

- ・印西市予防接種健康被害調査委員会
- ・世田谷区障害者施策推進協議会
- ・せたがやノーマライゼーションプラン策定に向けたアドバイザー会議

- ・全国訪問看護事業協会による厚生労働省老人保健健康等増進事業
- ・千葉県医療審議会
- ・千葉県医療審議会医療対策部会
- ・千葉県医療審議会地域保健医療部会
- ・千葉県感染症対策審議会
- ・千葉県後期高齢者医療懇談会
- ・千葉県公衆衛生協会
- ・千葉県国保連合会保健事業支援・評価委員会ワーキング委員
- ・千葉県循環器対策推進協議会
- ・千葉県男女共同参画苦情処理委員
- ・千葉県地方精神保健福祉審議会
- ・千葉県保健師現任教育推進会議
- ・千葉市健康づくり推進協議会
- ・千葉市社会福祉審議会委員
- ・千葉市社会福祉審議会高齢者福祉・介護保険専門分科会
- ・千葉市社会福祉審議会児童福祉専門部会
- ・千葉市新基本計画審議会
- ・千葉市精神保健福祉審議会委員
- ・東京都精神医療審査会
- ・習志野市健康なまちづくり審議会委員

3. メディア・報道等を通じた貢献

一般メディア及び報道機関等に取り上げられた件数。

	件 数					計
	全国紙 (ネット上含む)	地方紙等 (ネット上含む)	テレビ	ラジオ	その他	
2022 年度	2	1	2	0	3	8

V. 国際交流

1. 海外への渡航者数

教員			大学院生		
研究 研修等	学会参加	その他	研究 研修等	学会参加	その他
4	7	10	3	2	2

2. 海外からの来訪者数

国名	所属機関名	来学目的	人数	受入日数
インド	シンバイオシス大学	GRIP 参加	1	9
台湾	台北医学大学	表敬訪問	3	1

3. 海外の大学との協定

1) 大学間協定

2023年3月現在で約250の大学間協定があり、そのうち看護学研究科が締結に関係した協定を掲載する。

国	大学	締結年
韓国	ソウル国立大学 (ソウル市)	2011
タイ	コンケン大学 (コンケン)	2017
タイ	プリンス オブ ソンクラ大学 (ソンクラ)	1996
台湾	台北医学大学 (台北市)	2017
中国	安徽医科大学 (安徽省合肥市)	2010
中国	大連医科大学 (遼寧省大連市)	2015
中国	中国医科大学 (遼寧省瀋陽市)	2013
アメリカ	アラバマ大学タスカルーサ校 (アラバマ州タスカルーサ)	1984
インド	シンバイオシス大学 (マハーラーシュトラ州プネー)	2022
カナダ	プリンスエドワードアイランド大学 (プリンスエドワードアイランド州 シャーロットタウン)	2016
フィンランド	セイナヨキ応用科学大学 (セイナヨキ)	2000

2) 部局間協定

(1) 現在の協定大学

国	大学（場所）	締結年
韓国	ソウル国立大学看護学部 （ソウル市）	2016
タイ	コンケン大学看護学部 （コンケン）	2015
中国	大連医科大学看護学部 （大連市）	2016
中国	大連医科大学附属第一医院 （大連市）	2019
中国	復旦大学看護学院 （上海市）	2017
中国	香港大学看護学部 （香港）	2018
アメリカ	アラバマ大学バーミングハム校看護学部 （アラバマ州バーミングハム）	1990
アメリカ	サンディエゴ大学看護学部 （カリフォルニア州サンディエゴ市）	2011
イギリス	アルスター大学看護学部 （北アイルランド）	2019

(2) 過去に協定があった大学

国	大学（場所）	協定期間
中国	北京大学看護学院 （北京市）	2007-2012
中国	天津医科大学看護学院 （天津市）	2007-2017
アメリカ	ミシガン大学看護学部 （ミシガン州アナーバー）	1996-2018

編集後記

千葉大学大学院看護学研究院年報 2022 を刊行いたしました。この年報は、千葉大学看護学研究院の教育・研究ならびに社会貢献等の活動内容を発信し、さらにデータベースとしての位置付けを強化していくことを目的としています。

本年報は、千葉大学看護学部紀要第 1 号（昭和 54 年 3 月発行）～第 32 号（平成 22 年 3 月発行）、千葉大学大学院看護学研究科紀要第 33 号（平成 23 年 3 月発行）～第 41 号（平成 31 年 3 月発行）の後継となるもので、令和元（2019）年度に紀要から年報へと変更し、発展しています。

さて、令和 2（2020）年度からの COVID-19 による影響は数年間にわたり、今年度も教育・研究・社会貢献活動にも大きな影響を及ぼしています。しかし、本看護学研究院では、令和 3（2021）年度に諏訪さゆり研究院長体制となり、コロナ禍が継続する状況下でも、令和 4 年度に複数の新たな事業を開始しました。たとえば、文部科学省のウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業の中で、本学部は「実習等に資するシミュレータ等の DX 設備整備」に採択され、デジタルトランスフォーメーション（DX）等を用いた教育の高度化を図る教育・研究活動に取り組んでいます。また、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」である、グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成（Global & Regional Interprofessional Education Plus Program : GRIP）が採択され、事業が開始されました。

このように、教職員は COVID-19 への細心の注意を払いながら、DX の活用やグローバル社会のリーダーを育成すべく、先進的な活動とともに、人々の健康かつ安寧な生活への貢献のために、さらなる発展をめざして歩んでいます。

この年報から、このような千葉大学看護学研究院の歩みと教職員の姿勢を読み取っていただけることを願っております。

発刊までの事務業務を円滑に調整いただきました菊本係員をはじめ、事務部の皆様、ご協力を賜りました関係者の皆様に御礼申し上げます。

2023 年春

図書・年報委員会 委員長 田上美千佳

2022 年度 図書・年報委員会委員

井出 成美（副委員長）、木村佳代子、小宮山政敏、鈴木 悟子、遠山 房絵、正木 治恵（五十音順）

千葉大学大学院看護学研究院年報 2022

2023（令和 5）年 3 月発行

発行者 千葉市中央区亥鼻 1 丁目 8 番 1 号

千葉大学大学院看護学研究院

Tel : 043-222-7171（代）

ホームページ <https://www.n.chiba-u.jp/>

